

# 令和5年度 高知県患者満足度等調査の概況

## 目 次

I	調査の概要	1
II	結果の概要（受けた医療に対する満足度）	4
1	治療を開始したときのこと	4
2	緩和ケアに関すること	15
3	今日治療を受けた病院に対する満足度	18
III	結果の概要（就労（就学）に関すること）	26
1	本人の就労（就学）状況の変化	26
2	就労（就学）の悩みの相談状況	32
IV	結果の概要（支援に関すること）	42
1	不妊の影響について	42
2	あなたが知りたいがんに関する情報について	45
3	ゲノム情報を活用したがん医療について	46
4	がん治療による外見の変化について	47
5	ピア・サポートについて	52
V	結果の概要（ご意見・ご要望等について）	55
VI	統計表	65
	別紙 調査票	



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、県内のがん診療連携拠点病院、がん治療を行っている主な医療機関及び患者会の協力を得て、県内におけるがん患者のがん医療に対する満足度及び就労に関する実態等を調査する。

集計結果は、がん対策の基礎資料とするとともに、調査に協力いただいた医療機関に医療機関ごとの集計結果を返すことで、今後の患者対応の参考にさせていただく。

## 2. 調査の沿革

本県では、平成19年3月に「高知県がん対策推進条例」、平成20年3月には「高知県がん対策推進計画」を策定してがん対策の取り組みを進めてきた。

また、平成25年3月に「第2期高知県がん対策推進計画」、平成30年3月には「第3期高知県がん対策推進計画」を策定し、計画の全体目標の一つに「がん患者、その家族及び遺族の満足度の向上」を掲げている。

この満足度を把握するため、平成20年度に「患者等満足度アンケート」として試験調査を行い、その結果を踏まえ調査項目を選定し、平成21年10月の高知県がん対策推進協議会で調査内容を決定し、平成22年1月に1回目の調査を実施、2回目を平成23年9月、3回目を平成25年9月、4回目を平成27年7月、5回目を平成29年10月、6回目を令和元年10月、7回目を令和3年10月に実施した。

今回の調査は8回目となる。

## 3. 調査対象

県内のがん診療連携拠点病院及びがん治療を行っている主な医療機関において、調査期間中に外来受診、入院診療、往診を受けたがん患者（がんの告知を受けている患者に限る。）で、以下の条件を満たす患者を対象とした。

ただし、外来受診、往診を受けた患者については、通常の外来診療時間内に来院した患者及び計画的に往診を受けている患者に限ることとした。

<調査対象の条件>

- ・がんの診察または治療のために受療した方であること。  
（他疾病で受療した、がんの既往のある方は除く）
- ・経過観察としての診察の場合は、治療後5年以内の方であること。
- ・患者の回答能力及び記入能力を以下のいずれかに分類し、AとBに区分される方であること。  
（回答及び記入能力がなく、調査に協力できないと思われる方については除く）

A 調査票の記入が可能な方

B 自ら記入は出来ないが、患者本人に回答能力があつて、家族の協力がある方

C 自ら記入は出来ないが、患者本人に回答能力があつて、家族の協力が無い方

D 回答が不可能である方

(参考)

	回答能力	記入能力	家族の協力
A	○	○	
B	○	×	○
C	○	×	×
D	×	×	

## 4. 調査期間（調査票配付期間）

令和5年5月15日～6月30日の約7週間

## 5. 調査内容

別紙調査票に掲げる事項とした。

## 6. 調査の実施体制

調査実施にあたっての調査様式は、現状にあわせて見直した。調査方法は県で定め、調査票の配付及び回収、集計は委託業者が実施した。

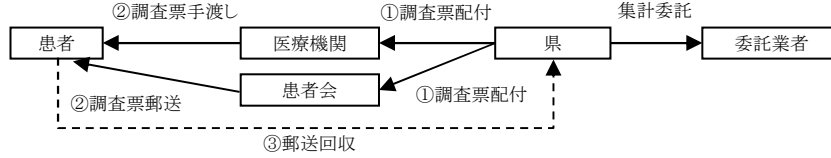
## 7. 調査の方法

患者への調査票の配付は、県内のがん診療連携拠点病院及びがん治療を行っている主な医療機関の協力を得て、当該医療機関を受診したがん患者（がんの告知を受けている患者に限る。）に、医療関係者（医師、看護師、相談員等）から調査票を直接手渡した。

また、県内患者会の協力のもと、会員である患者に調査票を郵送した。

記入は、原則として患者本人による記入としたが、患者本人では困難な場合は家族等でも可とした。調査票に記載後は、調査票に添付した返信用封筒に密封し、委託業者に郵送する方法により行った。

（送付期限：令和5年7月15日）



## 8. 調査票の回収

令和5年7月15日までに投函してもらい回収した。

## 9. 集計方法

回収された調査票は、委託業者において、集計・分析した。回答の状況は次のとおりであった。

### （1）調査への協力機関数、調査票の配付数、回収数及び回収率

調査への協力機関数	30医療機関（病院24、診療所6）及び2患者会
患者への配付数	1,088
回収数	570
回収率	52.4%

### （2）回答者の状況

	回答者数	百分率
調査票の記入者	570	100.0%
1 患者さんご本人	510	89.5%
2 患者さんのご家族	54	9.5%
3 その他の方	4	0.7%
無回答	2	0.4%
性別	570	100.0%
1 男	239	41.9%
2 女	327	57.4%
3 その他	0	0.0%
無回答	4	0.7%
がん診断時の年齢（年代）	570	100.0%
1 20歳未満	2	0.4%
2 20歳代	4	0.7%
3 30歳代	11	1.9%
4 40歳代	35	6.1%
5 50歳代	73	12.8%
6 60歳代	147	25.8%
7 70歳代	142	24.9%
8 80歳以上	57	10.0%
無回答	99	17.4%

	回答者数	百分率
現在の年齢（年代）	570	100.0%
1 20歳未満	1	0.2%
2 20歳代	4	0.7%
3 30歳代	3	0.5%
4 40歳代	25	4.4%
5 50歳代	67	11.8%
6 60歳代	134	23.5%
7 70歳代	190	33.3%
8 80歳以上	84	14.7%
無回答	62	10.9%
診断時の扶養家族の有無	570	100.0%
1 あり	250	43.9%
2 なし	314	55.1%
無回答	6	1.1%
現在の入院・通院状況	570	100.0%
1 入院している	44	7.7%
2 月1回程度通院している	211	37.0%
3 3ヶ月に1回程度通院している	130	22.8%
4 半年に1回程度通院している	38	6.7%
5 年1回程度通院している	9	1.6%
6 その他	128	22.5%
無回答	10	1.8%

### (3) 数字の表記について

- ・設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、その場合は、表中の「回答者数」が全体より少なくなっている。
- ・複数回答のある設問では、表記の割合の合計は100%を超える。
- ・集計表及びグラフの割合は選択肢ごとに小数第2位で四捨五入しているため、その割合の合計は100%にならないところがある。

## 10. 結果の公表

この調査の結果については、高知県がん対策推進協議会に報告するものとし、結果概要については高知県健康対策課のホームページ等で公表する。

結果の公表は、県全体の集計結果とし医療機関ごとの集計結果は公表しない。

なお、調査に協力いただいた医療機関には、当該医療機関に関する集計を行い、自由記載欄の内容も含めた結果を提供する。

ただし、調査票の配付数が10件以下の医療機関については、個別集計結果は提供しないこととする。

## Ⅱ 結果の概要（受けた医療に対する満足度）

### 1 治療を開始したときのこと（問5、問8、問10）

#### （1）治療に関する説明の状況（問5）

治療に関する説明について、いずれかの間に説明があったと回答した患者は97.5%となっている。

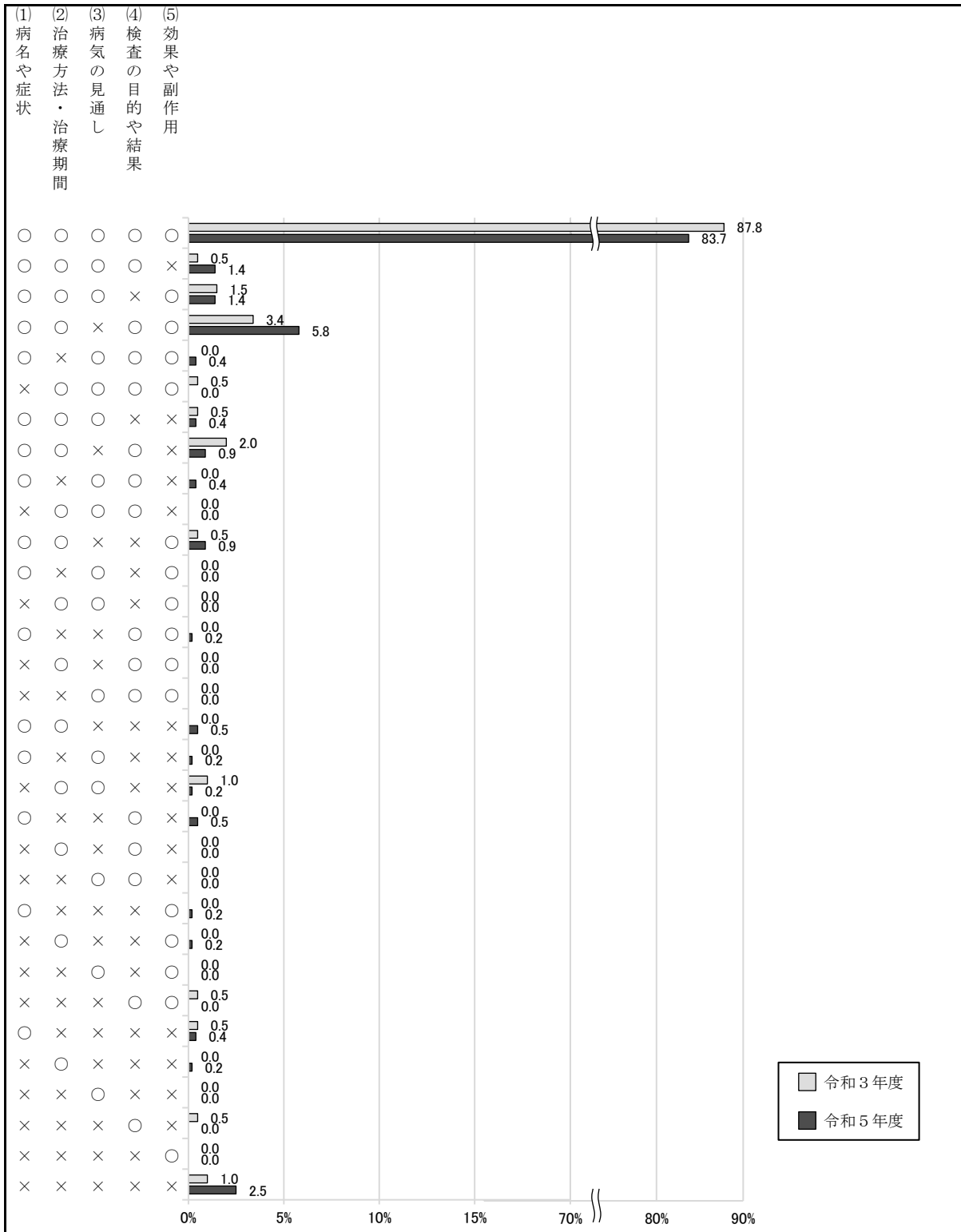
（表1）

説明内容の組み合わせをみると、全ての項目について説明を受けた患者が83.7%と最も多く、次いで「病気の見通し」を除く全ての項目について説明を受けた患者が5.8%となっている。また、全ての項目について説明を受けなかった患者は2.5%となっており、令和3年度（1.0%）から2ポイント近く増加している。（図1）

表1 治療に関する説明の状況（基本集計）

	R5年度(回答者数=570)				R3年度(回答者数=225)											
	はい	いいえ	無回答	合計	はい	いいえ	無回答	合計								
(1) 病名や病気による症状の説明はありましたか	553	97.0%	3	0.5%	14	2.5%	570	100.0%	214	95.1%	7	3.1%	4	1.8%	225	100.0%
(2) 治療の方法や治療期間の説明はありましたか	544	95.4%	7	1.2%	19	3.3%	570	100.0%	214	95.1%	7	3.1%	4	1.8%	225	100.0%
(3) 病気のその後の見通しについての説明はありましたか	501	87.9%	45	7.9%	24	4.2%	570	100.0%	194	86.2%	18	8.0%	13	5.8%	225	100.0%
(4) 各種検査の目的や結果の説明はありましたか	531	93.2%	16	2.8%	23	4.0%	570	100.0%	207	92.0%	10	4.4%	8	3.6%	225	100.0%
(5) 治療（手術、化学療法、放射線療法）の効果や副作用（術後の障害を含む）について説明はありましたか	528	92.6%	16	2.8%	26	4.6%	570	100.0%	205	91.1%	13	5.8%	7	3.1%	225	100.0%
上記の問に対して、いずれかに「はい」と回答したもの	556	97.5%							220	97.8%						

図1 治療に関する説明の組み合わせ（基本集計）



(2) 医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況（問5）

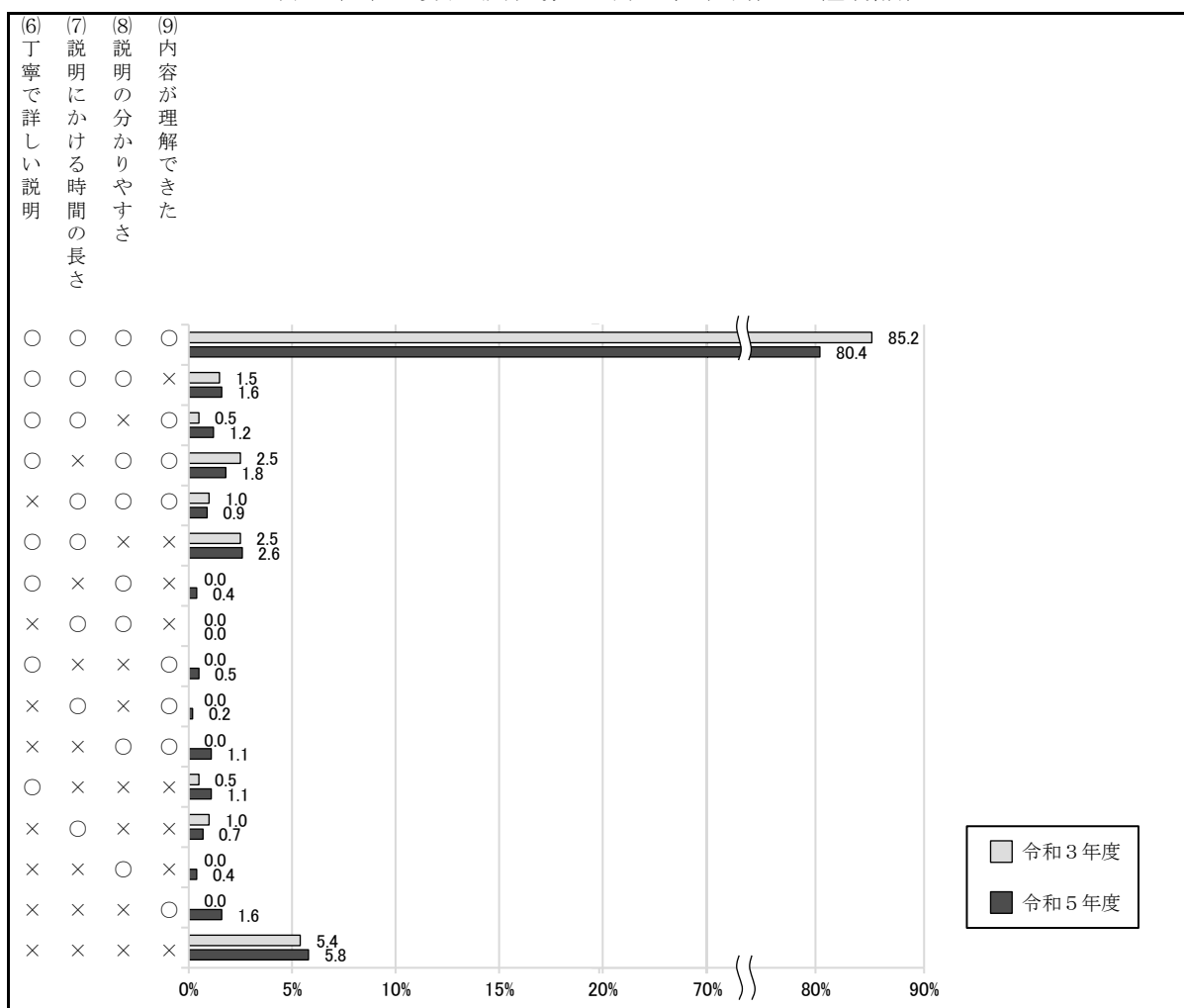
医師から受けた治療に関する説明について、「丁寧に詳しくされた」と回答した患者は89.5%と最も多くなっている。（表2）

分かりやすさ等の組み合わせをみると、全ての項目に「はい」と回答した患者は80.4%と最も多くなっている。また、全ての項目について「いいえ」と回答した患者は5.8%となっており、令和3年度（5.4%）からわずかに増加している。（図2）

表2 医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況（基本集計）

	R5年度(回答者数=570)				R3年度(回答者数=225)			
	はい	いいえ	無回答	合計	はい	いいえ	無回答	合計
(6) 医師からの説明は、丁寧に詳しくされましたか	510 89.5%	38 6.7%	22 3.9%	570 100.0%	200 88.9%	15 6.7%	10 4.4%	225 100.0%
(7) 医師の説明にかかる時間はちょうど良いと思えましたか	499 87.5%	47 8.2%	24 4.2%	570 100.0%	196 87.1%	17 7.6%	12 5.3%	225 100.0%
(8) 医師の説明は分かりやすかったですか	492 86.3%	51 8.9%	27 4.7%	570 100.0%	193 85.8%	20 8.9%	12 5.3%	225 100.0%
(9) 医師の説明で、内容は理解できましたか	499 87.5%	47 8.2%	24 4.2%	570 100.0%	187 83.1%	22 9.8%	16 7.1%	225 100.0%

図2 医師から受けた説明の分かりやすさ等の組み合わせ（基本集計）





(3) セカンドオピニオンの状況 (問5)

他の医師に意見を聞きたいと思ったと回答した患者は29.8%となっている。また、セカンドオピニオンについて知っていたと回答した患者は71.4%、医師からセカンドオピニオンについて説明があったと回答した患者は35.4%、実際にセカンドオピニオンを受けたことがあると回答した患者は12.3%となっている。

セカンドオピニオンを受けたことがあると回答した患者については、令和3年度(10.7%)から2ポイント近く増加している。(図3、表3)

図3 セカンドオピニオンの状況 (基本集計)

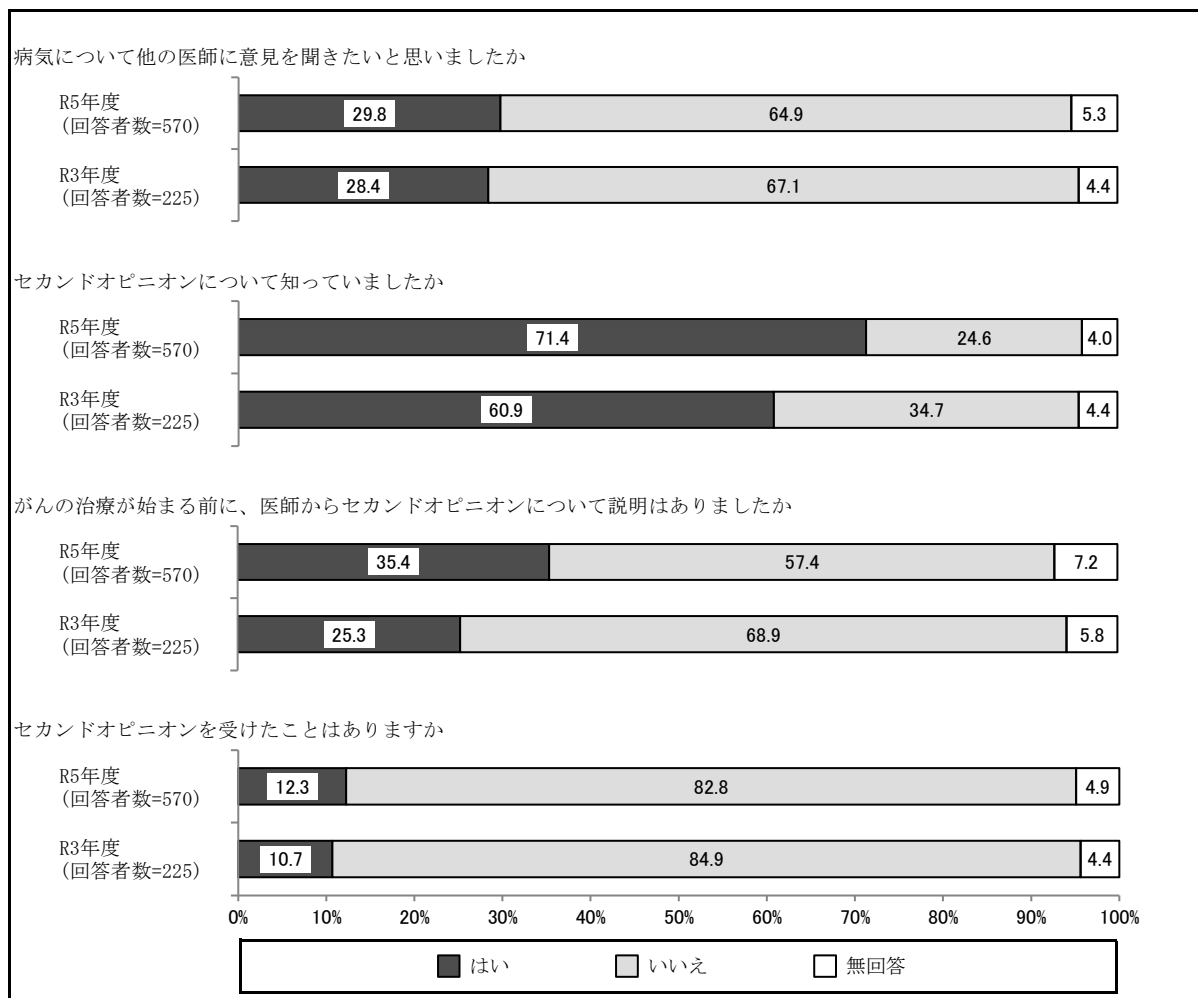


表3 セカンドオピニオンの状況 (基本集計)

	R5年度(回答者数=570)				R3年度(回答者数=225)											
	はい	いいえ	無回答	合計	はい	いいえ	無回答	合計								
(10) 病気にして他の医師に意見を聞きたいと思いましたが	170	29.8%	370	64.9%	30	5.3%	570	100.0%	64	28.4%	151	67.1%	10	4.4%	225	100.0%
(11) セカンドオピニオンについて知っていましたか	407	71.4%	140	24.6%	23	4.0%	570	100.0%	137	60.9%	78	34.7%	10	4.4%	225	100.0%
(12) がんの治療が始まる前に、医師からセカンドオピニオンについて説明はありましたか	202	35.4%	327	57.4%	41	7.2%	570	100.0%	57	25.3%	155	68.9%	13	5.8%	225	100.0%
(13) セカンドオピニオンを受けたことはありますか	70	12.3%	472	82.8%	28	4.9%	570	100.0%	24	10.7%	191	84.9%	10	4.4%	225	100.0%

(4) 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」に関する状況  
(問10-1～問10-4)

ア 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」の認知度と利用率  
(問10-1、問10-2)

知っているという回答した患者は36.7%となっており、令和3年度(46.7%)から10ポイント減少している。(図4、表4)

知っているという回答した患者のうち、利用したことがあるという回答した患者は22.5%となっており、令和3年度(26.7%)から4ポイントほど減少している。(図5、表5)

図4 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を知っているか(基本集計)

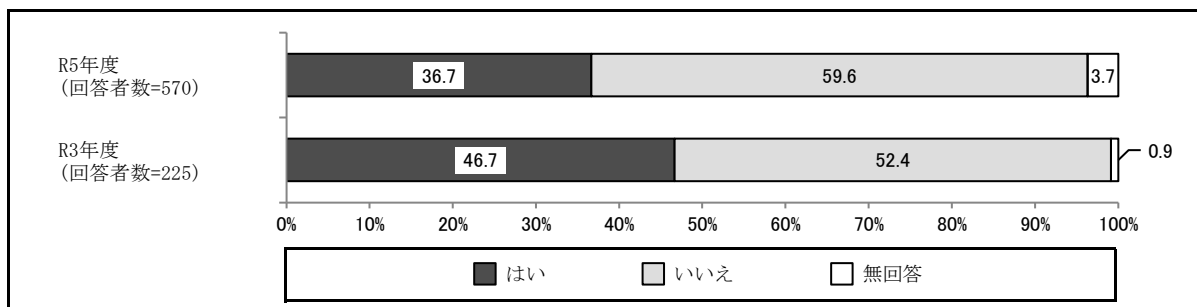


表4 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を知っているか(基本集計)

	R5年度 (回答者数=570)		R3年度 (回答者数=225)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	209	36.7%	105	46.7%
(2) いいえ	340	59.6%	118	52.4%
無回答	21	3.7%	2	0.9%
合計	570	100.0%	225	100.0%

図5 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を利用したことがあるか(基本集計)

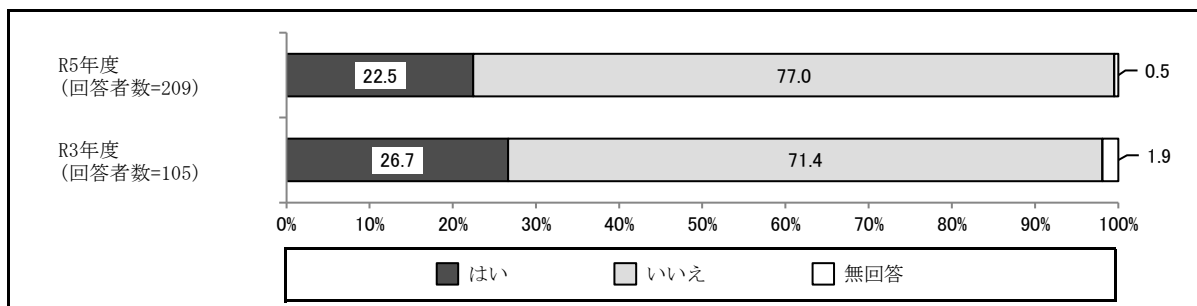


表5 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を利用したことがあるか(基本集計)

	R5年度 (回答者数=209)		R3年度 (回答者数=105)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	47	22.5%	28	26.7%
(2) いいえ	161	77.0%	75	71.4%
無回答	1	0.5%	2	1.9%
合計	209	100.0%	105	100.0%

イ 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」の役立ち度（問10-3）

利用したことがある患者について、「とても役に立った」と回答した患者が42.6%と最も多く、次いで「ある程度役に立った」が36.2%、「やや役に立った」が10.6%となっている。

「とても役に立った」と回答した患者については、令和3年度（46.4%）から4ポイント近く減少している。

また、「役に立たなかった」と回答した患者について、令和3年度（3.6%）から令和5年度（4.3%）にかけて、1ポイント近く増加している。（図6、表6）

図6 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」の役立ち度（基本集計）

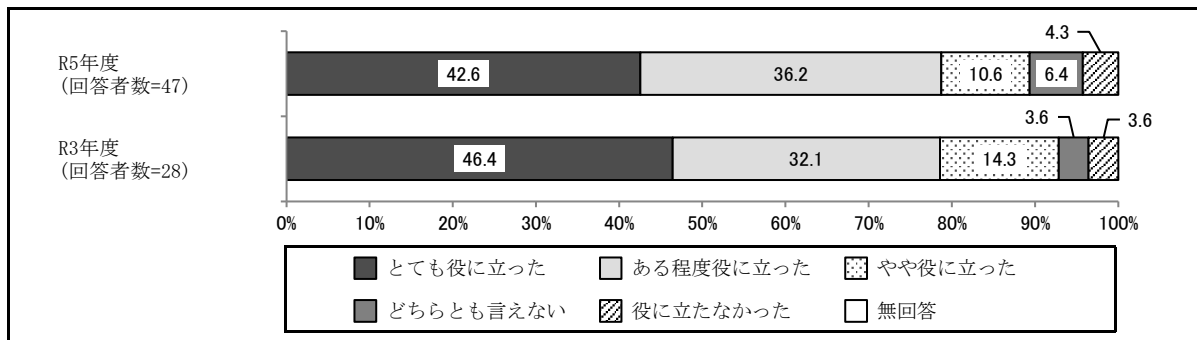


表6 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」の役立ち度（基本集計）

	R5年度 (回答者数=47)		R3年度 (回答者数=28)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) とても役に立った	20	42.6%	13	46.4%
(2) ある程度役に立った	17	36.2%	9	32.1%
(3) やや役に立った	5	10.6%	4	14.3%
(4) どちらとも言えない	3	6.4%	1	3.6%
(5) 役に立たなかった	2	4.3%	1	3.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	47	100.0%	28	100.0%

ウ 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を利用しなかった理由  
(複数回答可) (問10-4)

「利用したことがない」患者の利用しなかった理由をみると、「相談したいことはなかった」と回答した患者が58.4%と最も多く、次いで「何を相談する場なのかわからなかった」が15.5%、「必要としていたときには知らなかった」が9.9%となっている。(図7、表7)

図7 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を利用しなかった理由(複数回答可) (基本集計)

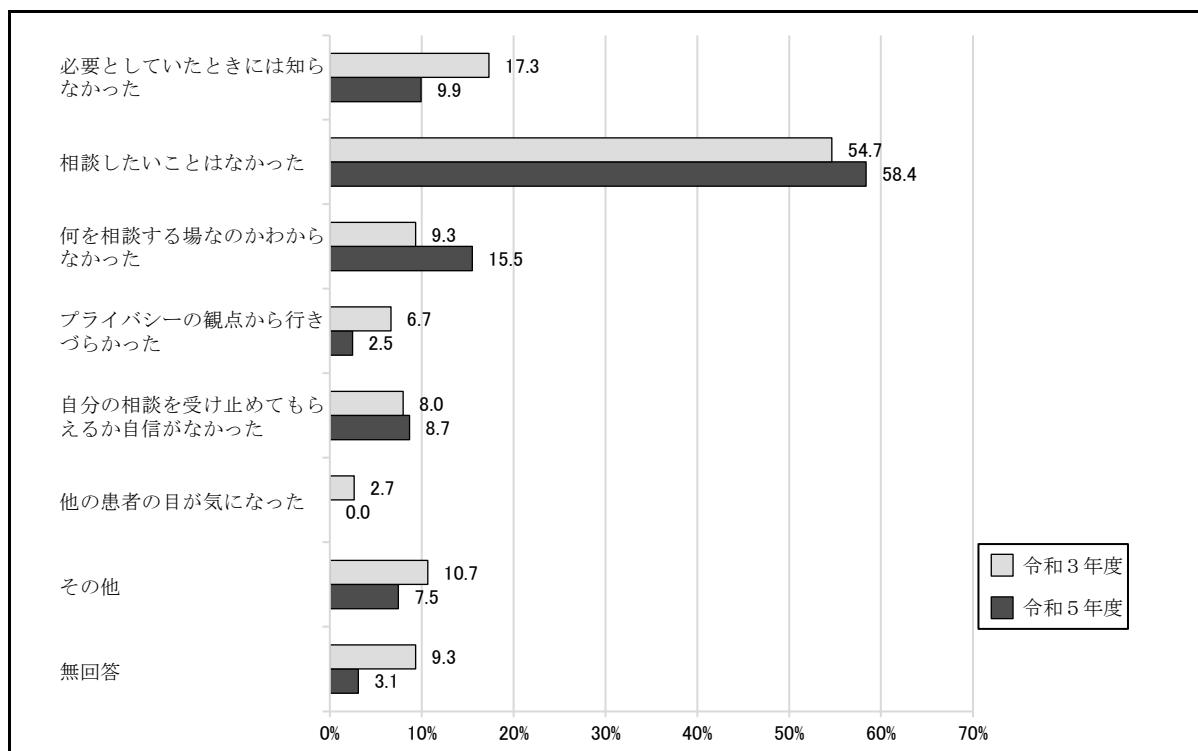


表7 「がん相談支援センター」や「がん相談センターこうち」を利用しなかった理由(複数回答可) (基本集計)

	R5年度 (回答者数=161)		R3年度 (回答者数=75)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 必要としていたときには知らなかった	16	9.9%	13	17.3%
(2) 相談したいことはなかった	94	58.4%	41	54.7%
(3) 何を相談する場なのかわからなかった	25	15.5%	7	9.3%
(4) プライバシーの観点から行きづらかった	4	2.5%	5	6.7%
(5) 自分の相談を受け止めてもらえるか自信がなかった	14	8.7%	6	8.0%
(6) 他の患者の目が気になった	0	0.0%	2	2.7%
(7) その他	12	7.5%	8	10.7%
無回答	5	3.1%	7	9.3%
回答者数(無回答を除く)	156	96.9%	68	90.7%
合計	161	100.0%	75	100.0%

※回答者数(無回答を除く)と(1)～(7)の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

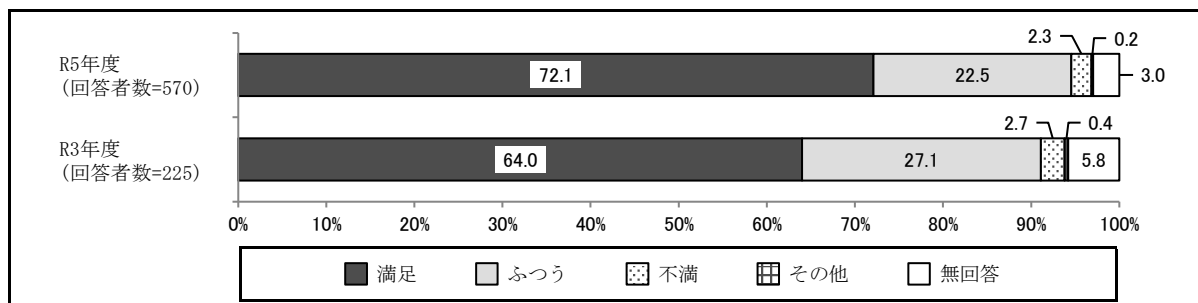
(5) 受けた治療等の満足度 (問8)

ア 受けた治療内容に対する満足度 (問8)

受けた治療内容について、「満足 (非常に満足、やや満足)」と回答した患者は72.1%、「不満 (やや不満、非常に不満)」と回答した患者は2.3%となっている。

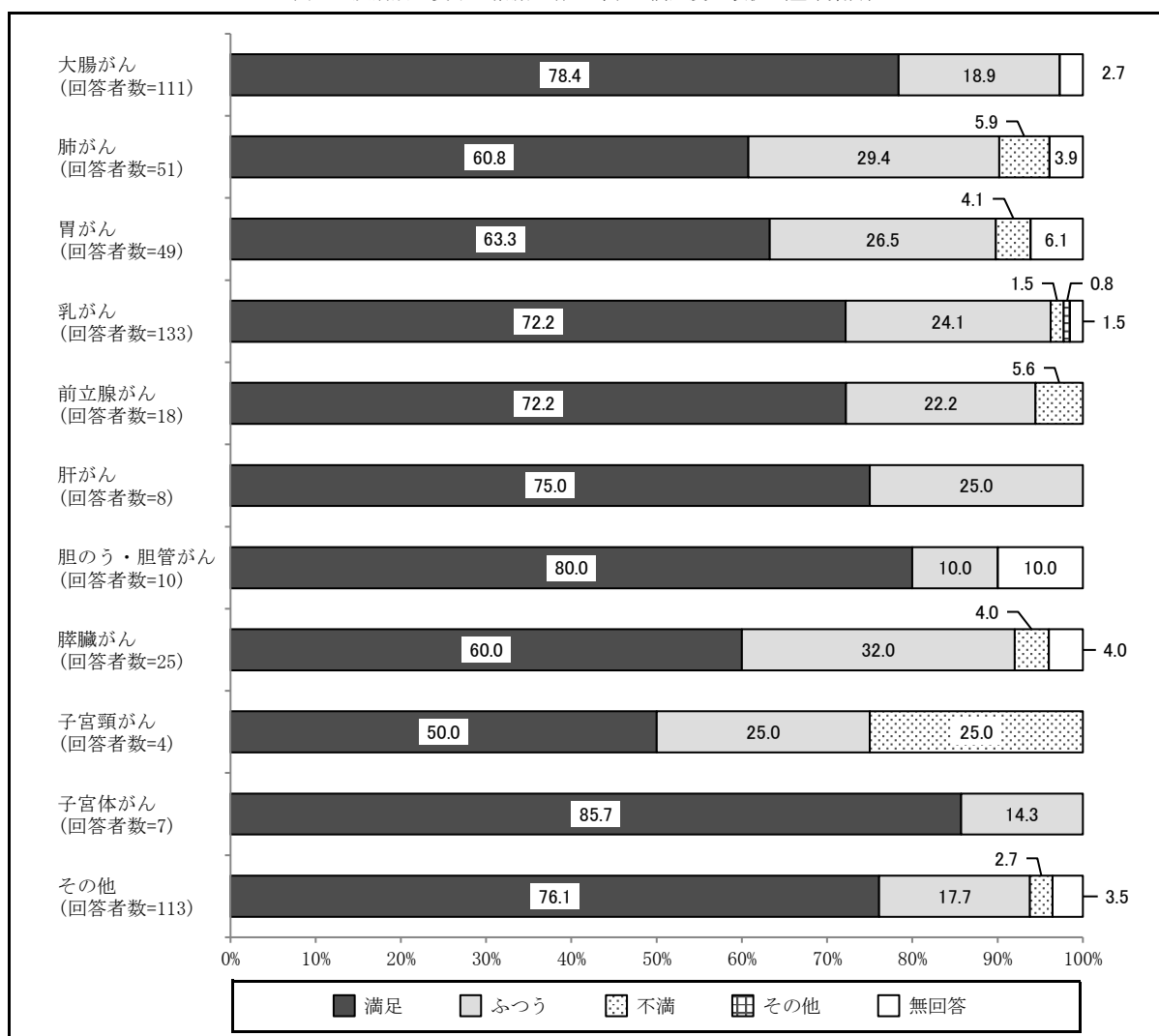
「ふつう」と回答した患者について、令和3年度 (27.1%) から令和5年度 (22.5%) にかけて、5ポイント近く減少している。(図8)

図8 受けた治療内容に対する満足度の状況 (基本集計)



疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「子宮体がん」が85.7%と最も多く、次いで「胆のう・胆管がん」の80.0%、「大腸がん」の78.4%となっている。(図9)

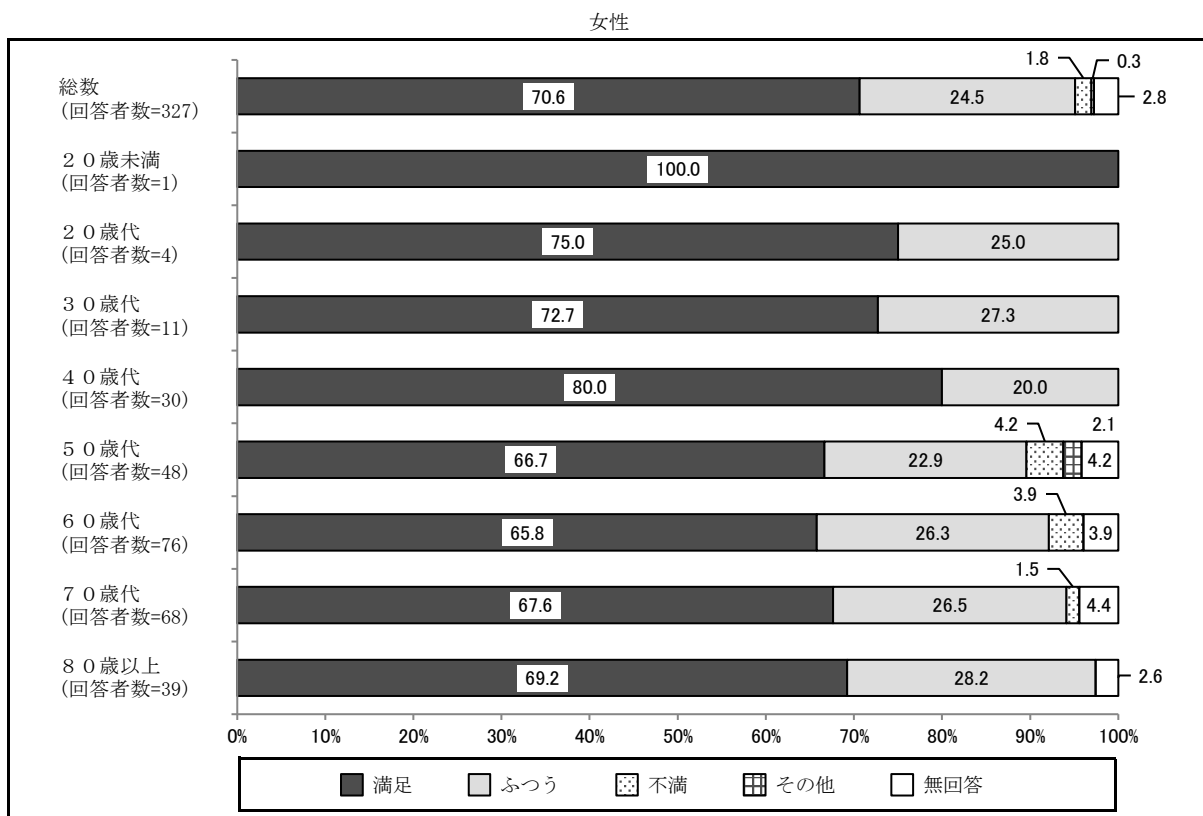
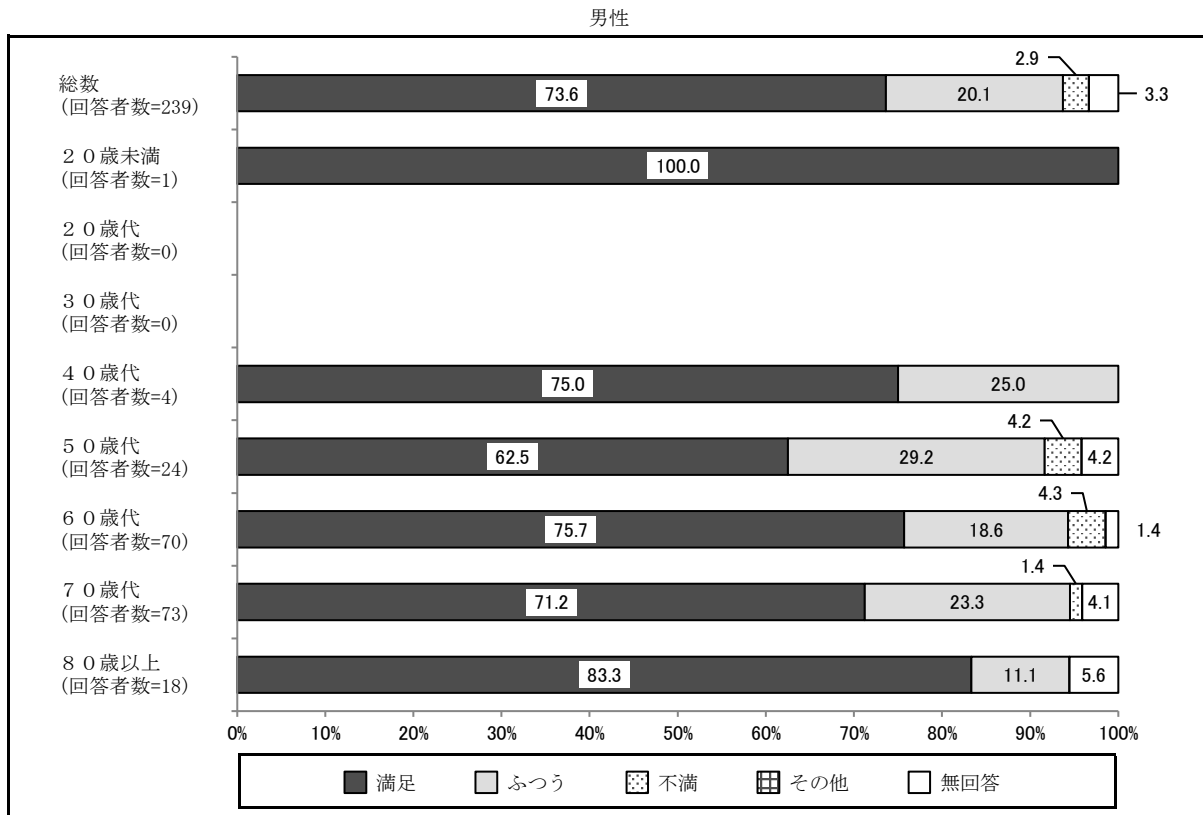
図9 疾病別の受けた治療内容に対する満足度の状況 (基本集計)



「満足」と回答した患者について、性別ごとにみると、男性で73.6%、女性で70.6%となっている。また、診断時の年齢別でみると、男性、女性ともに20歳未満（100.0%）の患者が最も多くなっている。

一方、「不満」という回答について、男性、女性ともに50歳代、60歳代、70歳代のそれぞれ一部の患者にみられる。（図10）

図10 性別・診断時の年齢別の受けた治療内容に対する満足度の状況（基本集計）

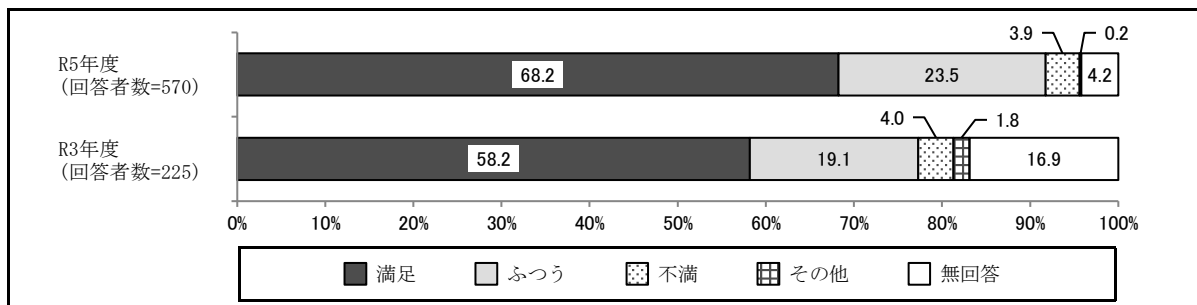


イ 質問や相談を行ったときの医師の対応への満足度（問8）

「満足（非常に満足、やや満足）」と回答した患者は68.2%、「不満（やや不満、非常に不満）」と回答した患者は3.9%となっている。

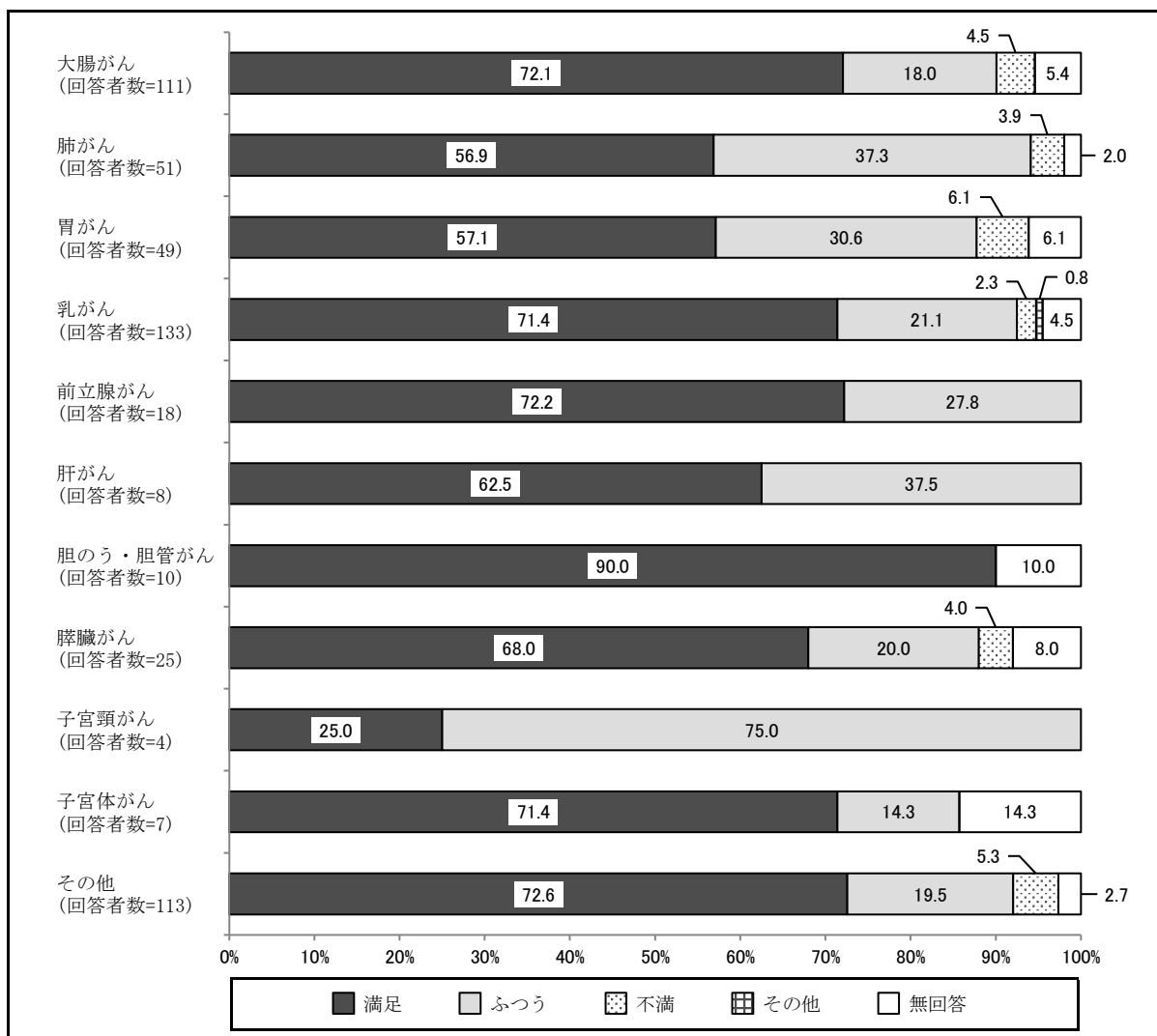
「満足」と回答した患者については、令和3年度（58.2%）から10ポイント増加している。（図11）

図11 質問や相談を行ったときの医師の対応への満足度の状況（基本集計）



疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「胆のう・胆管がん」が90.0%で最も多く、次いで「その他」の72.6%、「前立腺がん」の72.2%となっている。（図12）

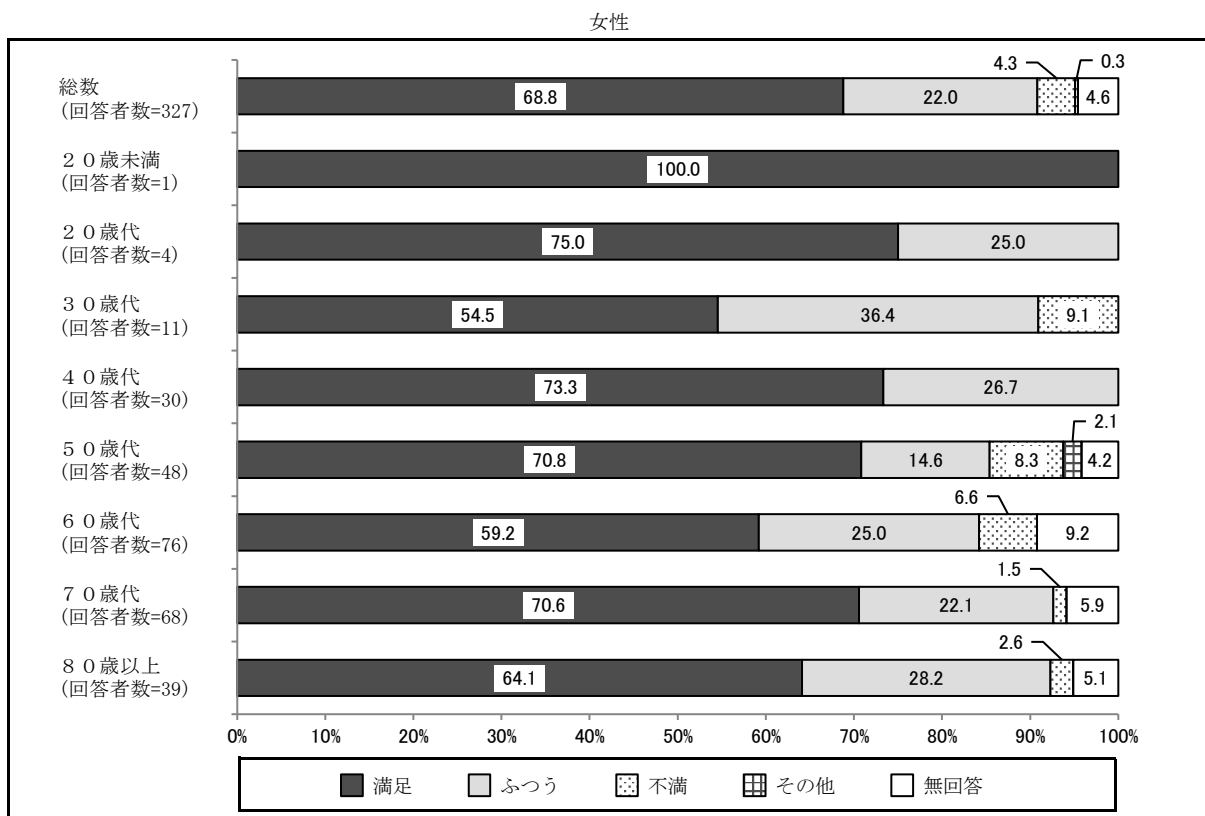
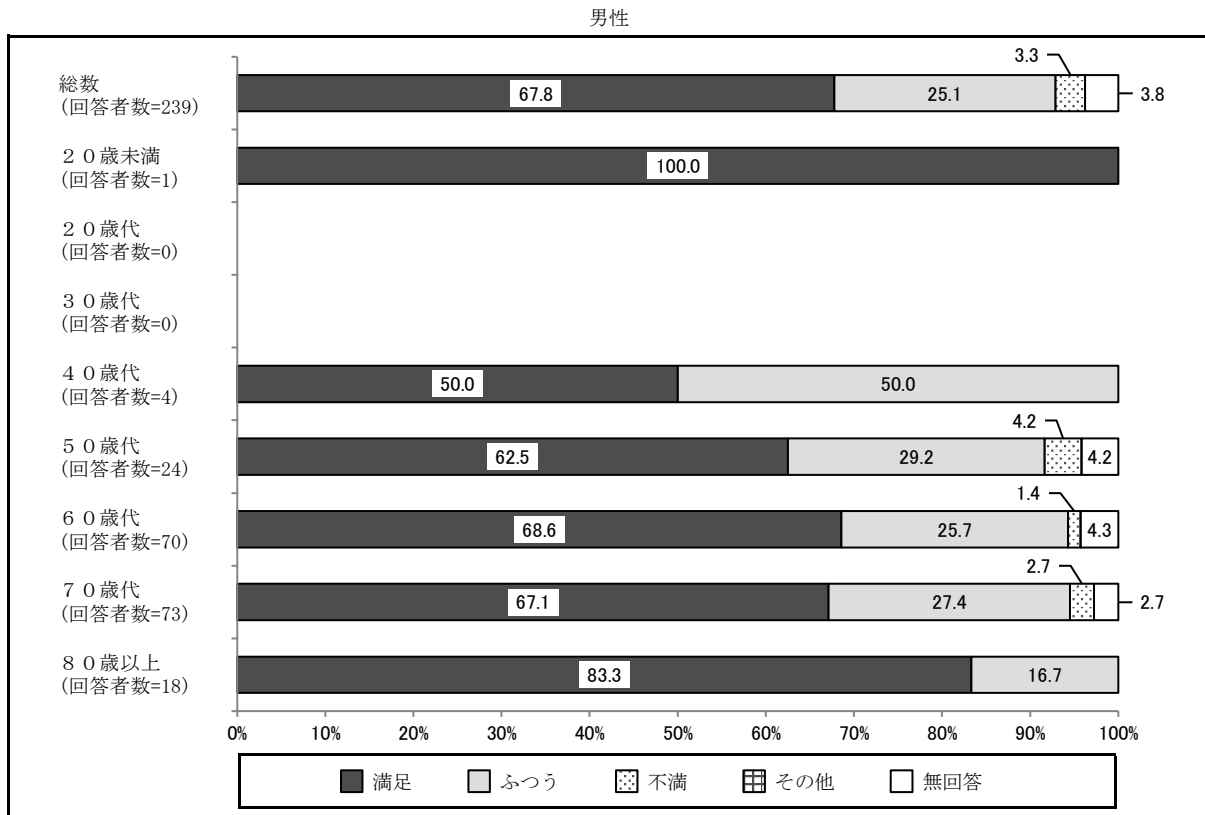
図12 疾病別の質問や相談を行ったときの医師の対応への満足度の状況（基本集計）



「満足」と回答した患者について、性別ごとにみると、男性で67.8%、女性で68.8%となっている。また、診断時の年齢別でみると、男性、女性ともに20歳未満（100.0%）の患者が最も多くなっている。

一方、「不満」と回答した患者について、男性では50歳代（4.2%）、女性では30歳代（9.1%）が最も多くなっている。（図13）

図13 性別・診断時の年齢別の質問や相談を行ったときの医師の対応への満足度の状況（基本集計）





2 緩和ケアに関すること（問7）

(1) 現在の心身の状態（問7-1）

現在の心身の状態について、体の苦痛（痛みがある）について「そう思う」と回答した患者は10.2%となっている。また、体の苦痛（痛み以外の症状がある）について「そう思う」と回答した患者は17.5%、気分の落ち込みがあるについて「そう思う」と回答した患者は12.6%、学校や仕事のこと、将来への不安などがあるについて「そう思う」と回答した患者は16.5%となっている。（図14、表14）

図14 現在の心身の状態（基本集計）

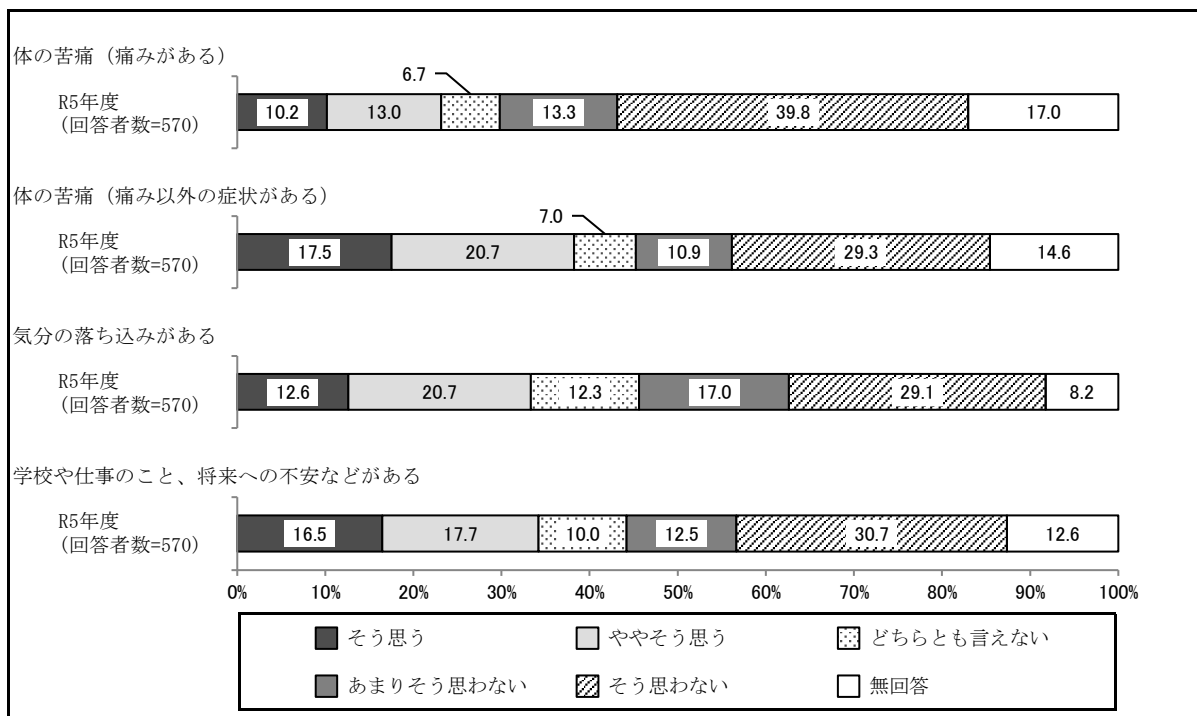


表14 現在の心身の状態（基本集計）

	R5年度(回答者数=570)													
	そう思う		ややそう思う		どちらとも言えない		あまりそう思わない		そう思わない		無回答	合計		
体の苦痛（痛みがある）	58	10.2%	74	13.0%	38	6.7%	76	13.3%	227	39.8%	97	17.0%	570	100.0%
体の苦痛（痛み以外の症状がある）	100	17.5%	118	20.7%	40	7.0%	62	10.9%	167	29.3%	83	14.6%	570	100.0%
気分の落ち込みがある	72	12.6%	118	20.7%	70	12.3%	97	17.0%	166	29.1%	47	8.2%	570	100.0%
学校や仕事のこと、将来への不安などがある	94	16.5%	101	17.7%	57	10.0%	71	12.5%	175	30.7%	72	12.6%	570	100.0%

(2) 緩和ケアについての状況（問7-2）

緩和ケアを知っていたと回答した患者は64.2%、緩和ケアについて医療機関から説明があったと回答した患者は26.1%となっている。また、実際に緩和ケアを受けたと回答した患者は11.6%となっている。

「緩和ケアを知っていましたか」について、令和3年度（58.2%）から6ポイント増加している。一方、「緩和ケアについて医療機関から説明がありましたか」および「緩和ケアを受けましたか」については、令和3年度（28.4%、20.0%）からそれぞれ減少している。（図15、表15）

図15 緩和ケアについての状況（基本集計）

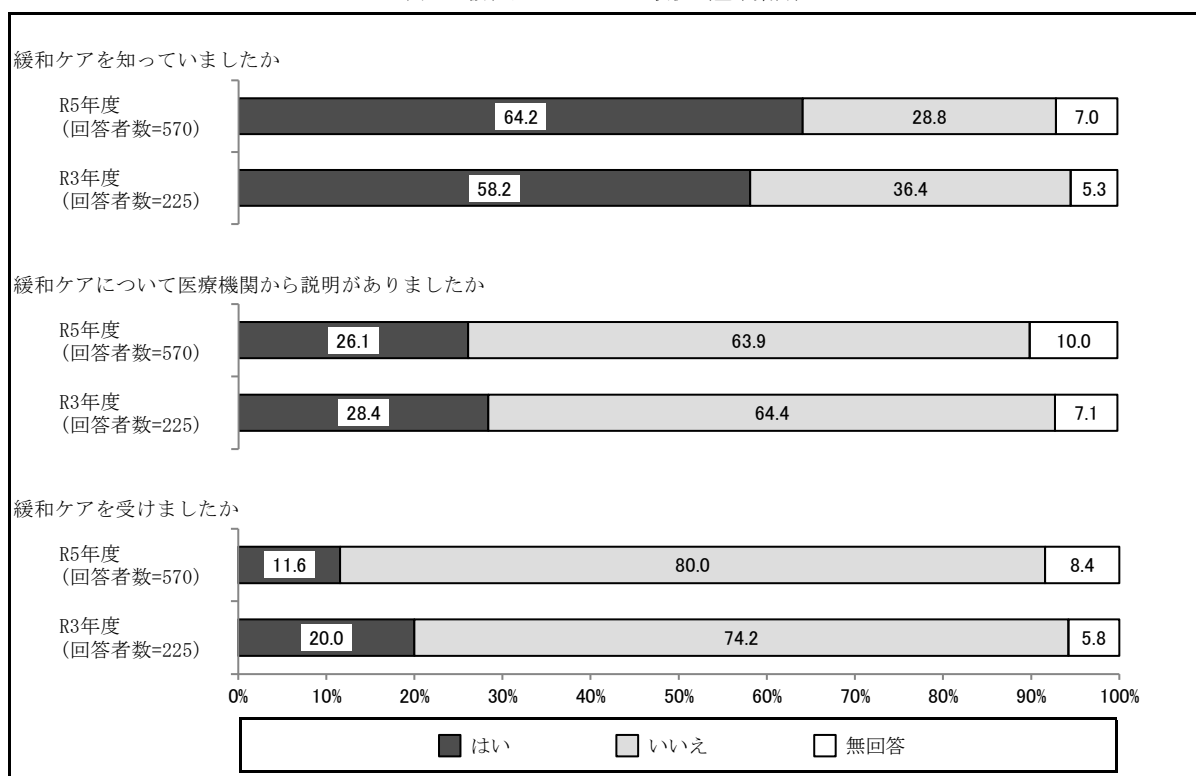


表15 緩和ケアについての状況（基本集計）

	R5年度(回答者数=570)				R3年度(回答者数=225)											
	はい	いいえ	無回答	合計	はい	いいえ	無回答	合計								
(1) 緩和ケアを知っていましたか	366	64.2%	164	28.8%	40	7.0%	570	100.0%	131	58.2%	82	36.4%	12	5.3%	225	100.0%
(2) 緩和ケアについて医療機関から説明がありましたか	149	26.1%	364	63.9%	57	10.0%	570	100.0%	64	28.4%	145	64.4%	16	7.1%	225	100.0%
(3) 緩和ケアを受けましたか	66	11.6%	456	80.0%	48	8.4%	570	100.0%	45	20.0%	167	74.2%	13	5.8%	225	100.0%

(3) 緩和ケアについての満足度 (問7-3)

緩和ケアを受けたと回答した患者について、「満足 (非常に満足、やや満足)」と回答した患者は63.6%、「不満 (やや不満、非常に不満)」と回答した患者は3.0%となっている。

「満足」と回答した患者については、令和3年度 (66.7%) から3ポイントほど減少している。(図16、表16)

図16 緩和ケアについての満足度 (基本集計)

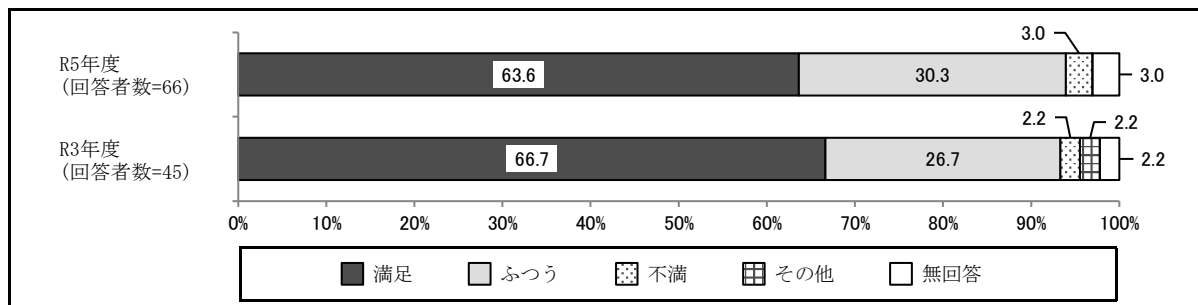


表16 緩和ケアについての満足度 (基本集計)

	R5年度 (回答者数=66)		R3年度 (回答者数=45)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 非常に満足	21	31.8%	17	37.8%
(2) やや満足	21	31.8%	13	28.9%
(3) ふつう	20	30.3%	12	26.7%
(4) やや不満	1	1.5%	0	0.0%
(5) 非常に不満	1	1.5%	1	2.2%
(6) その他	0	0.0%	1	2.2%
無回答	2	3.0%	1	2.2%
合計	66	100.0%	45	100.0%

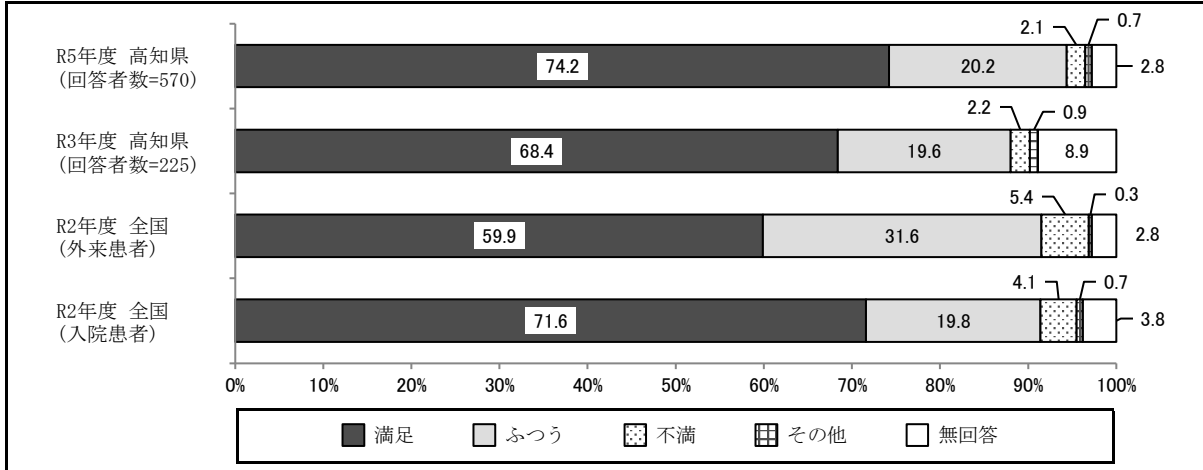
3 今日治療を受けた病院に対する満足度（問4-1）

ア 今日治療を受けた病院での治療内容に対する満足度（問4-1）

「満足（非常に満足、やや満足）」と回答した患者は74.2%、「不満（やや不満、非常に不満）」と回答した患者は2.1%となっている。

「満足」と回答した患者については、令和3年度（68.4%）から6ポイント近く増加している。また、厚生労働省が行った令和2年受療行動調査における入院患者の満足度（71.6%）と比較すると、3ポイント近く上回っており、外来患者の満足度（59.9%）と比較すると、14ポイントほど上回っている。（図17）

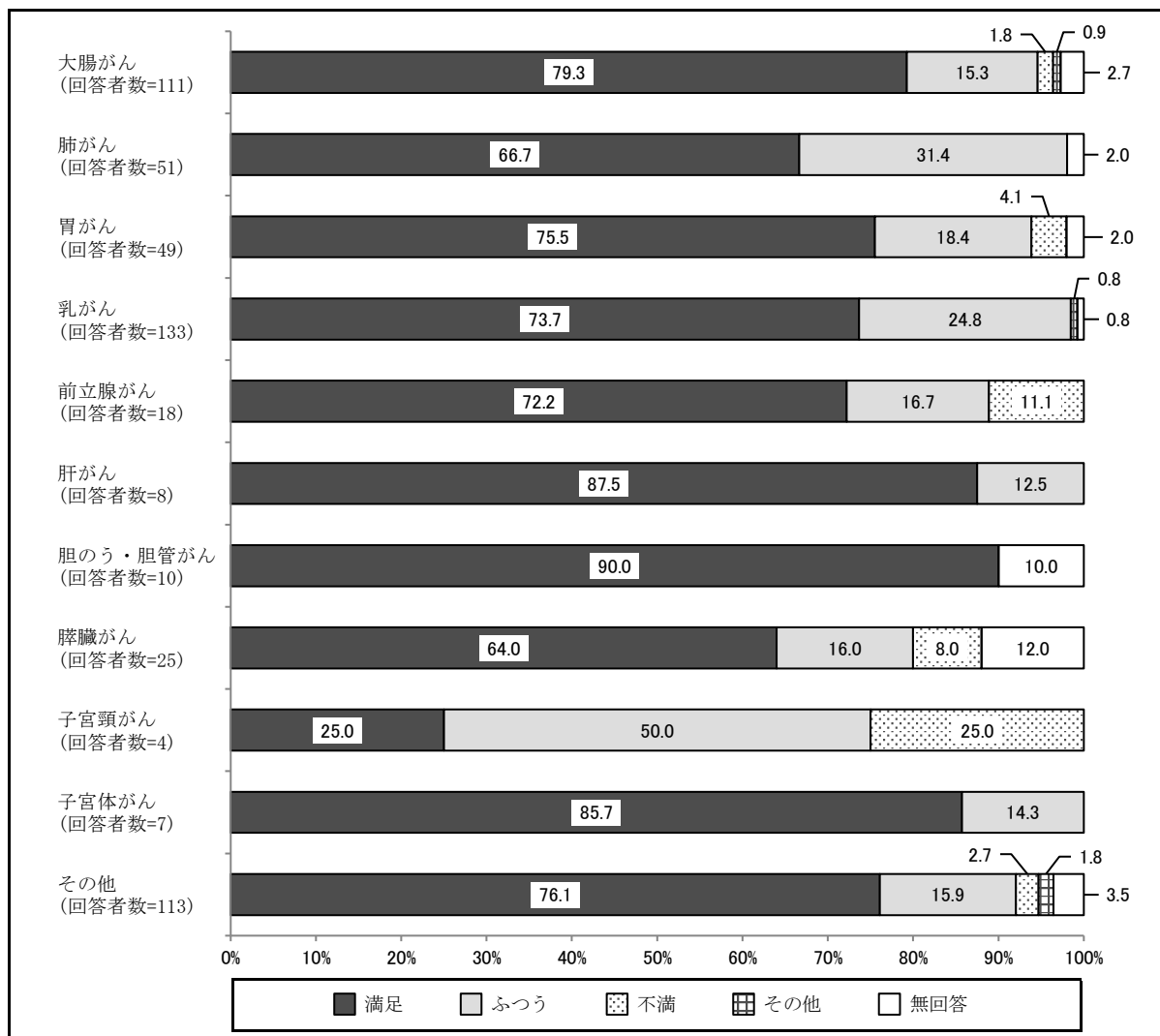
図17 今日治療を受けた病院での治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は令和2年受療行動調査（確定数）における、外来患者および入院患者の「医師による診療・治療内容」の値

疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「胆のう・胆管がん」が最も多く90.0%で、次いで「肝がん」の87.5%、「子宮体がん」の85.7%となっている。（図18）

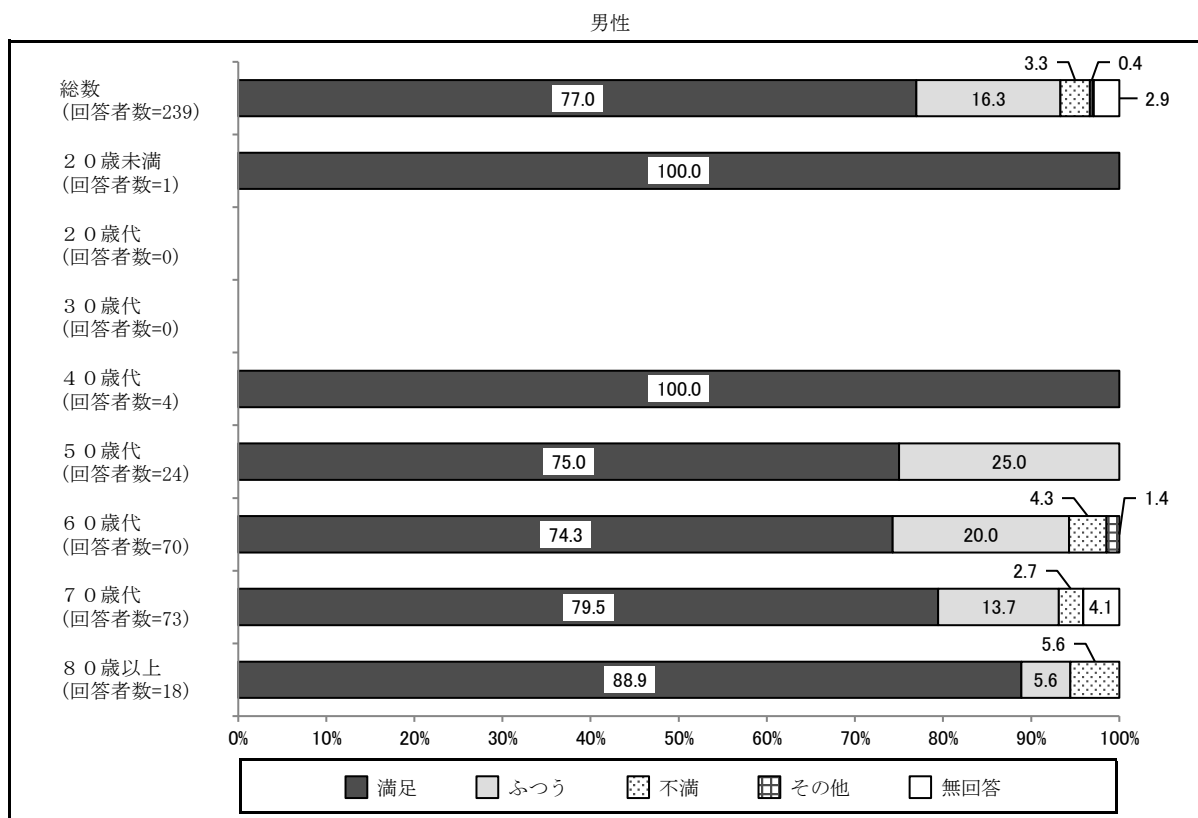
図18 疾病別の今日治療を受けた病院での治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



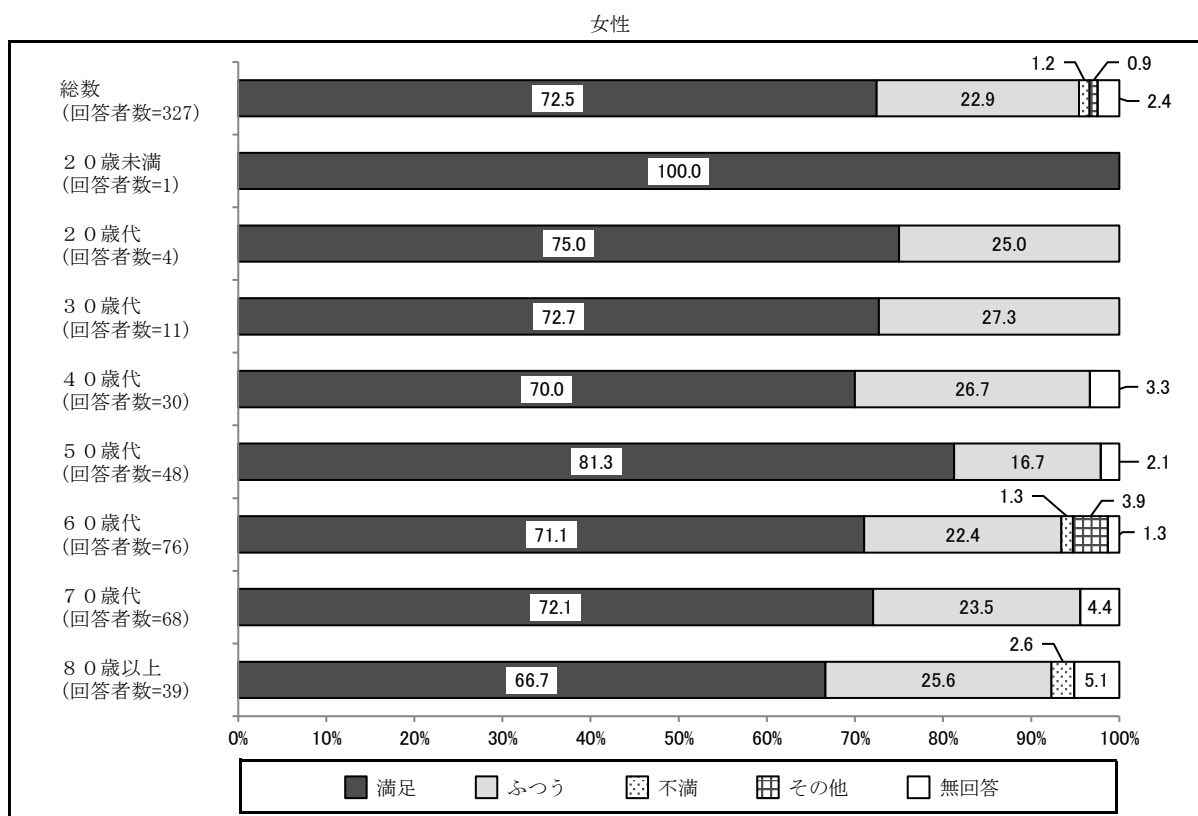
「満足」と回答した患者について、性別ごとにみると、男性で77.0%、女性で72.5%となっている。また、診断時の年齢別でみると、男性では20歳未満、40歳代（各100.0%）、女性では20歳未満（100.0%）の患者が最も多くなっている。

一方、「不満」と回答した患者について、男性では80歳以上（5.6%）、女性では80歳以上（2.6%）が最も多くなっている。（図19）

図19 性別・診断時の年齢別の今日治療を受けた病院での治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不明を含む。また、20歳代、30歳代の回答者数は0であった。



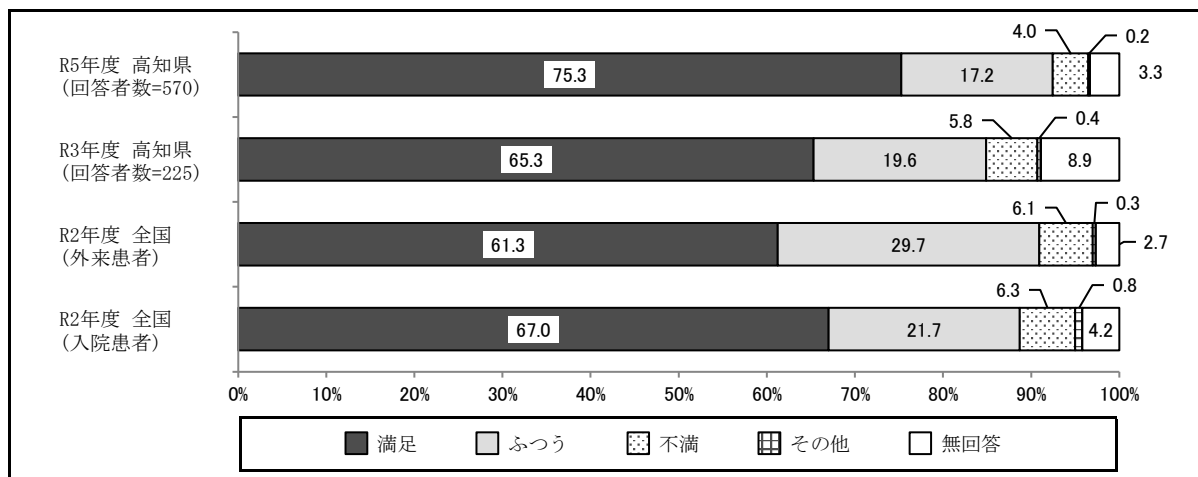
注：総数には年齢不明を含む。

イ 今日治療を受けた病院での医師との対話に対する満足度（問4-1）

「満足（非常に満足、やや満足）」と回答した患者は75.3%、「不満（やや不満、非常に不満）」と回答した患者は4.0%となっている。

「満足」と回答した患者については、令和3年度（65.3%）から10ポイント増加している。また、厚生労働省が行った令和2年受療行動調査での、入院患者の満足度（67.0%）と比較すると8ポイントほど上回っており、外来患者の満足度（61.3%）と比較すると14ポイント上回っている。（図20）

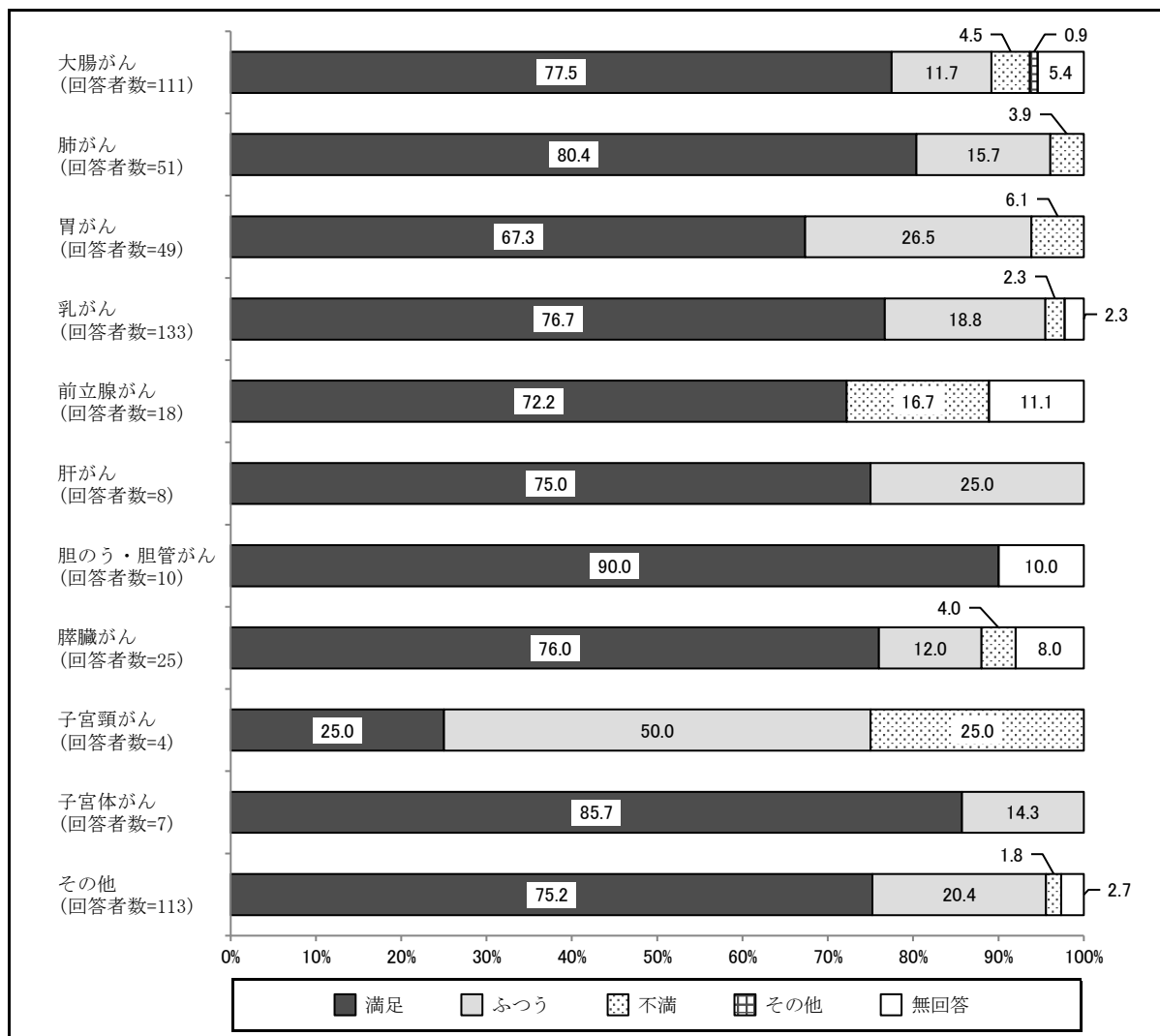
図20 今日治療を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は令和2年受療行動調査（確定数）における、外来患者および入院患者の「医師との対話」の値

疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「胆のう・胆管がん」が90.0%と最も多く、次いで「子宮体がん」の85.7%、「肺がん」の80.4%となっている。（図21）

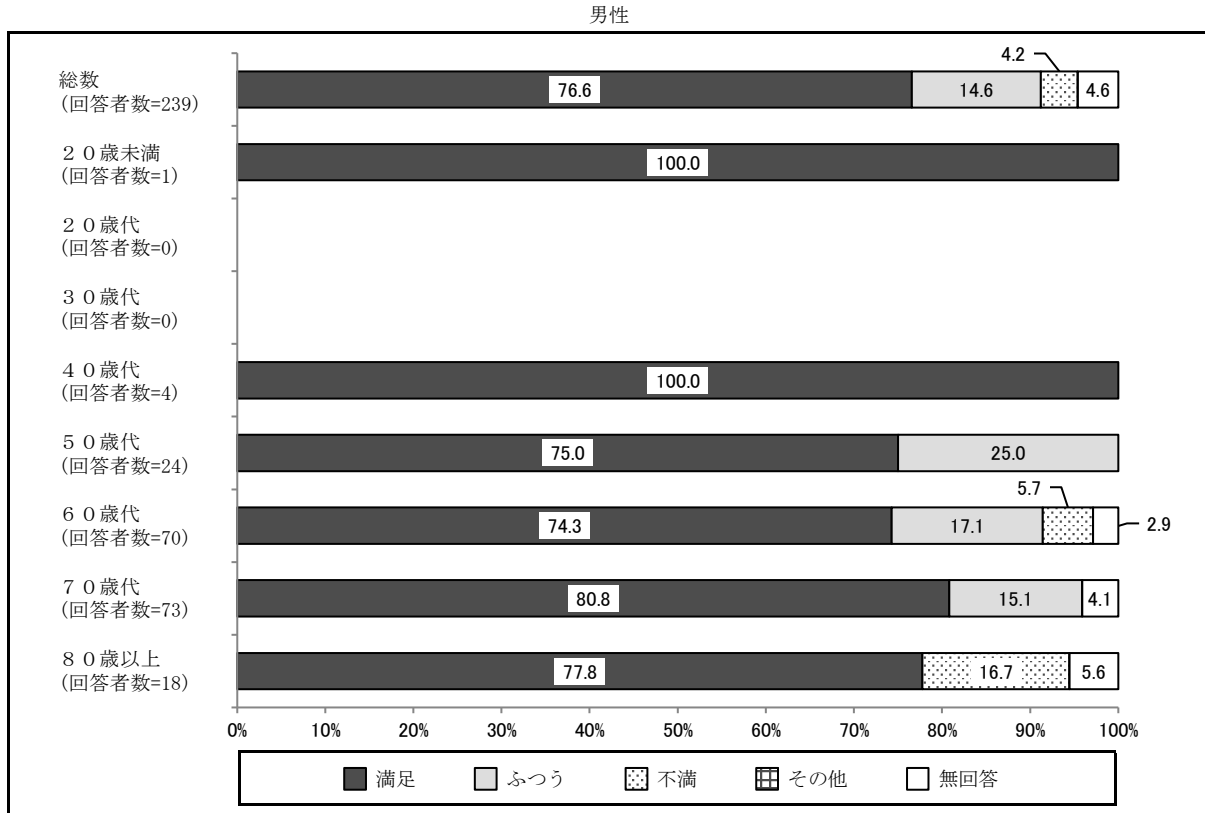
図21 疾病別の今日治療を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



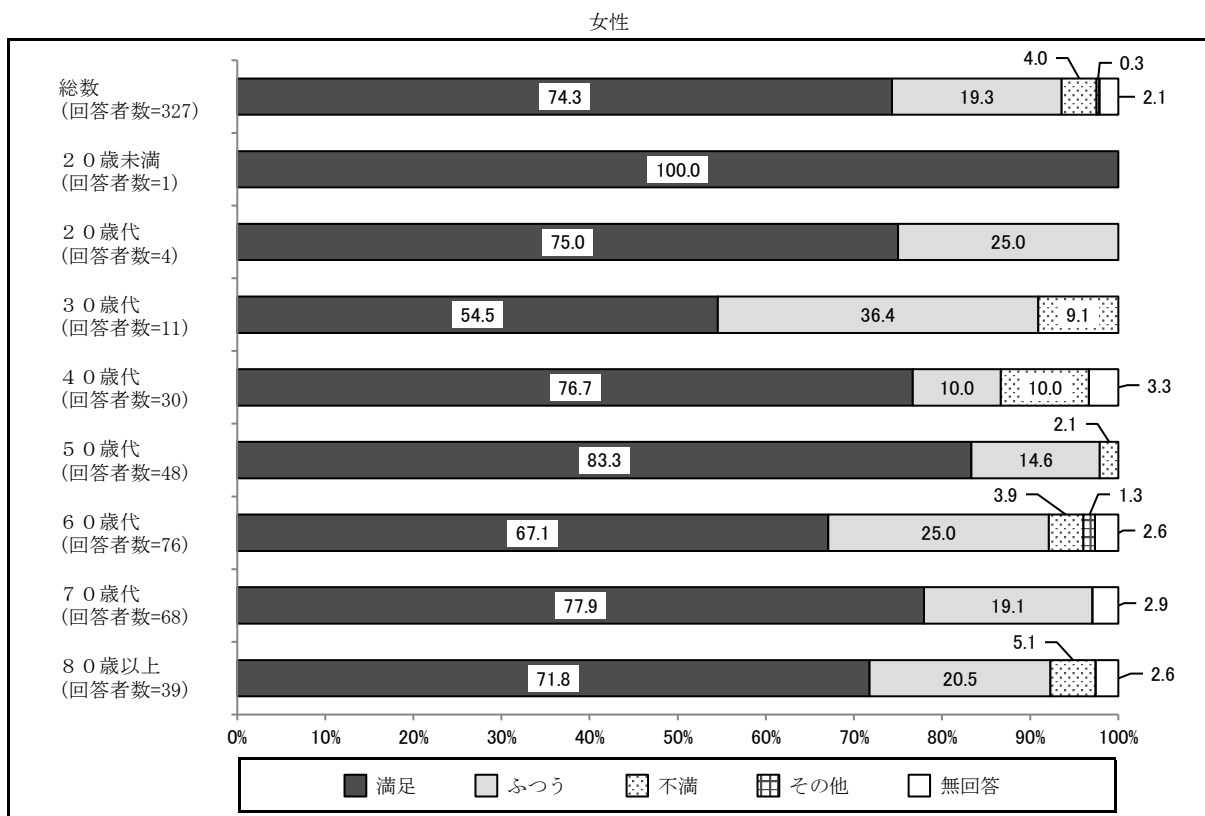


「満足」と回答した患者について、性別ごとにみると、男性で76.6%、女性で74.3%となっている。また、診断時の年齢別でみると、男性では20歳未満、40歳代（各100.0%）、女性では20歳未満（100.0%）が最も多くなっている。（図22）

図22 性別・診断時の年齢別の今日治療を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不明を含む。また、20歳代、30歳代の回答者数は0であった。



注：総数には年齢不明を含む。

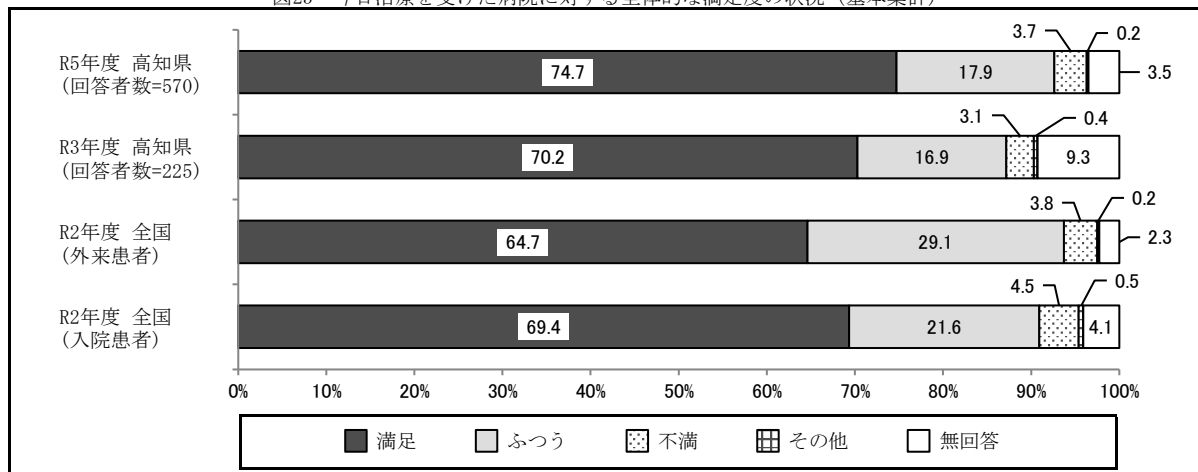
ウ 今日治療を受けた病院に対する全体的な満足度（問4-1）

全体的に「満足（非常に満足、やや満足）」と回答した患者は74.7%、「不満（やや不満、非常に不満）」と回答した患者は3.7%となっている。

「満足」と回答した患者については、令和3年度（70.2%）から5ポイント近く増加している。また、厚生労働省が行った令和2年受療行動調査での、入院患者の満足度（69.4%）と比較すると、5ポイントほど上回っており、外来患者の満足度（64.7%）と比較すると、10ポイント上回っている。

（図23）

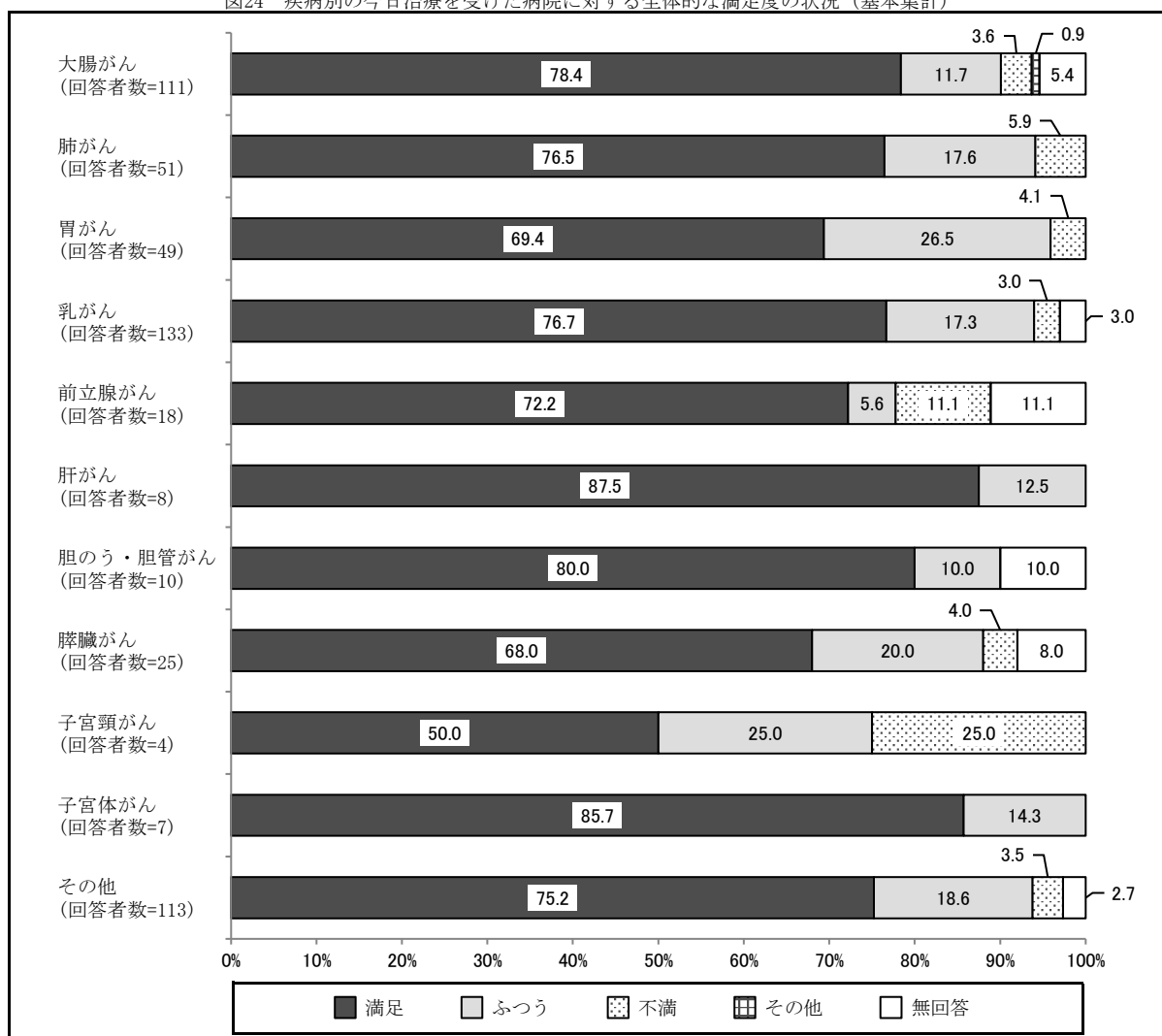
図23 今日治療を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



※全国値は令和2年受療行動調査（確定数）における、外来患者および入院患者の「病院に対する全体的な満足度」の値

疾病別にみると、「満足」と回答した患者は「肝がん」が最も多く87.5%で、次いで「子宮体がん」の85.7%、「胆のう・胆管がん」の80.0%となっている。（図24）

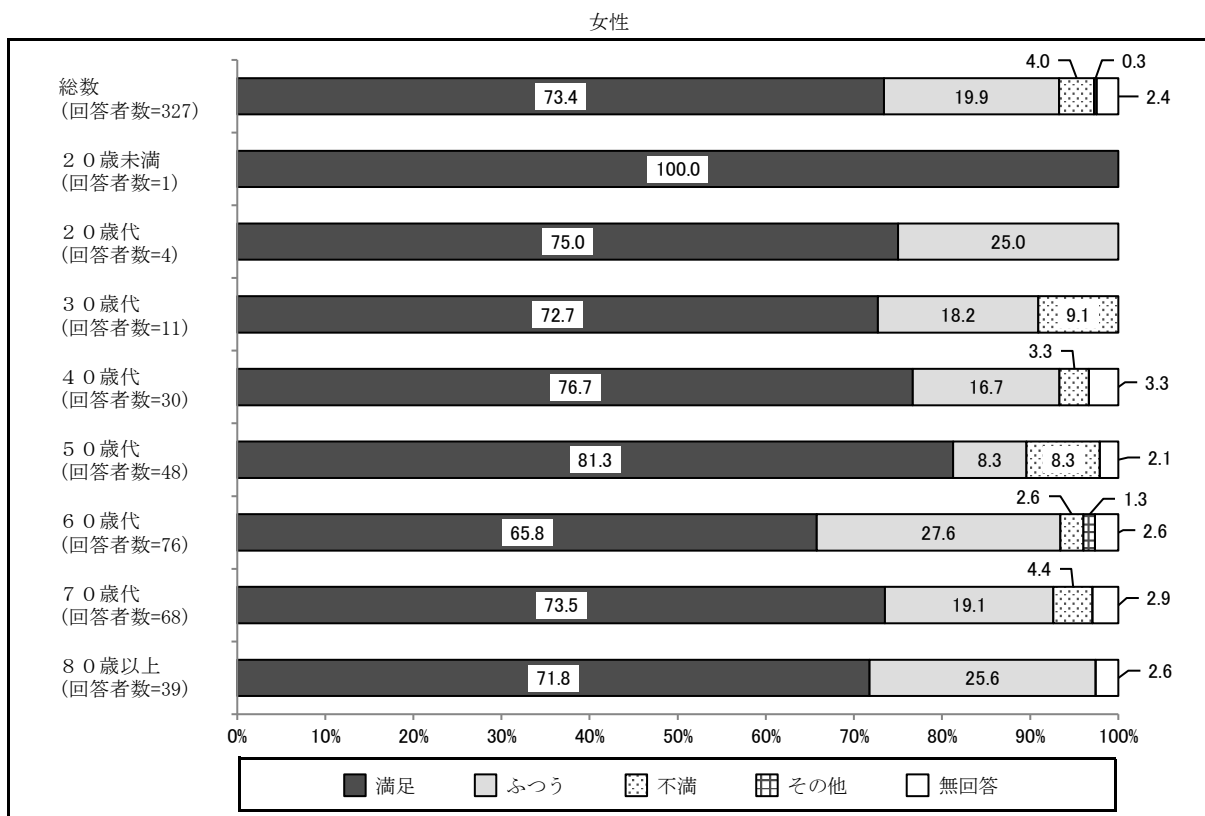
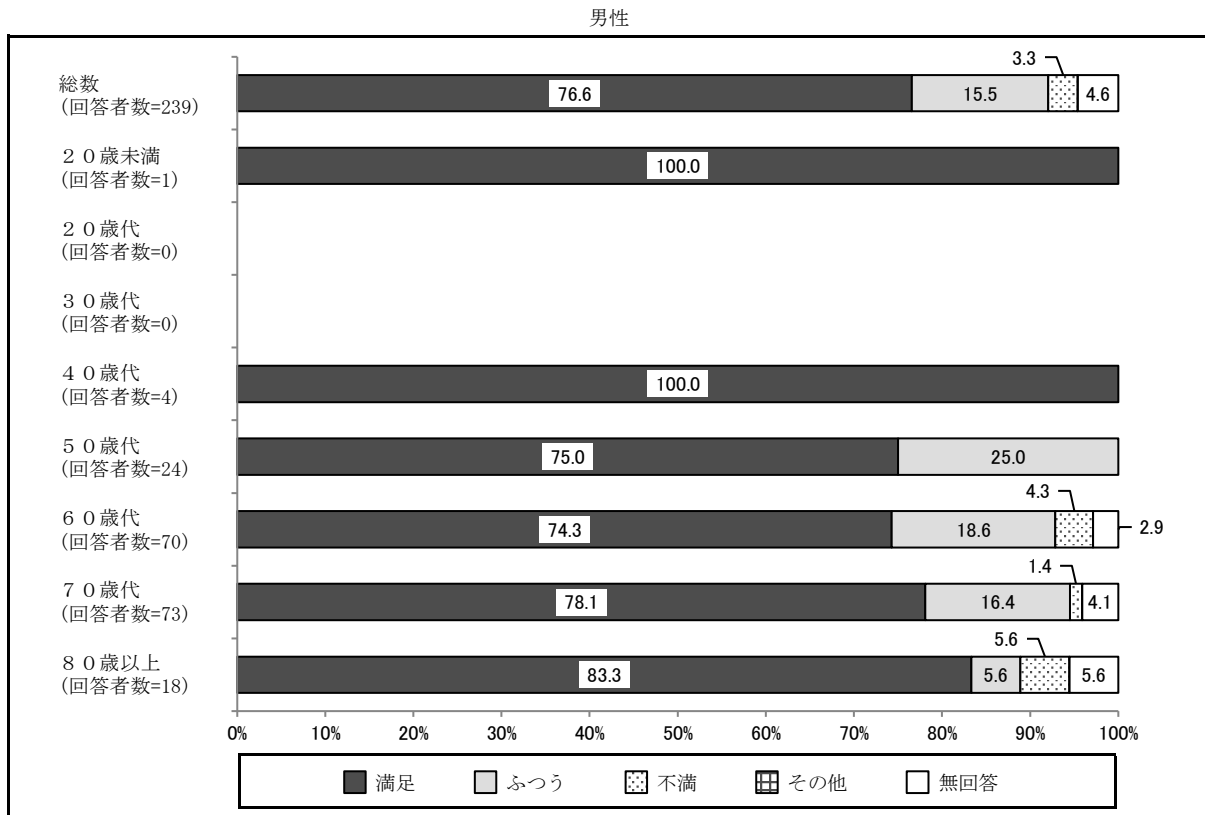
図24 疾病別の今日治療を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



「満足」と回答した患者について、性別ごとにみると、男性で76.6%、女性で73.4%となっている。また、診断時の年齢別でみると、男性では20歳未満、40歳代（各100.0%）、女性では20歳未満（100.0%）の患者が最も多くなっている。

一方、「不満」と回答した患者について、男性では80歳以上（5.6%）、女性では30歳代（9.1%）が最も多くなっている。（図25）

図25 性別・診断時の年齢別の今日治療を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



### Ⅲ 結果の概要（就労（就学）に関すること）

#### 1 本人の就労（就学）状況の変化（問12～問13）

##### （1）診断時と現在の就労（就学）状況（問12-1）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者（47.1%）と比べ、現在働いている患者（33.2%）は14ポイント近く減少している。一方で、無職と回答した患者が、診断時（24.9%）から現在（35.1%）にかけて10ポイントほど増加している。（図26、表26）

図26 診断時と現在の就労（就学）状況（基本集計）

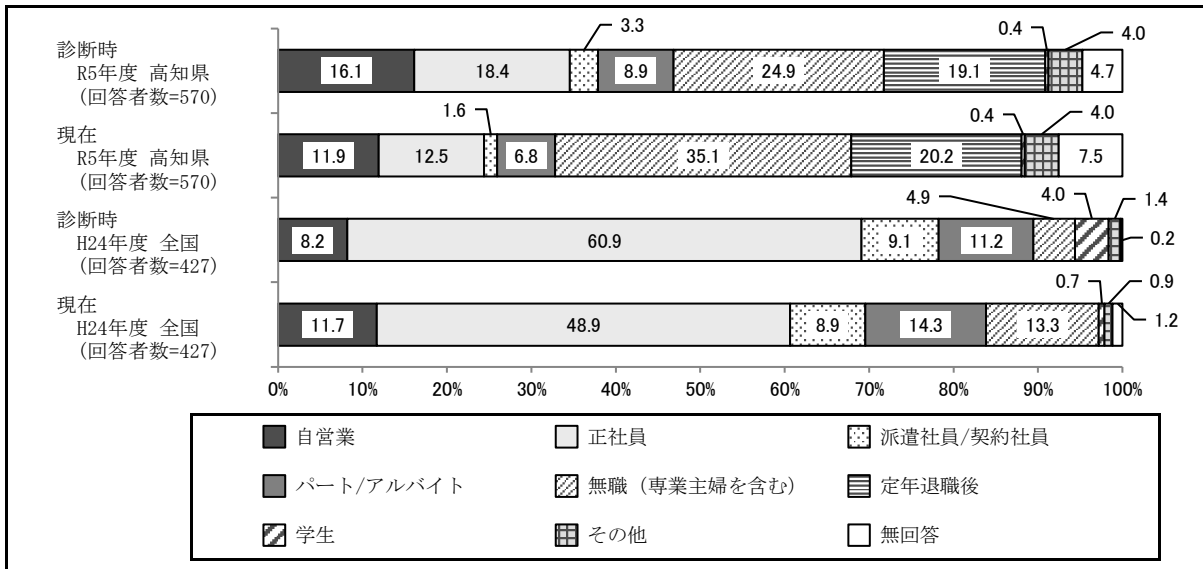


表26 診断時と現在の就労（就学）状況（基本集計）

	R5年度 高知県 (回答者数=570)				H24年度 全国 (回答者数=427)			
	診断時		現在		診断時		現在	
(1) 自営業	92	16.1%	68	11.9%	35	8.2%	50	11.7%
(2) 正社員	105	18.4%	71	12.5%	260	60.9%	209	48.9%
(3) 派遣社員/契約社員	19	3.3%	9	1.6%	39	9.1%	38	8.9%
(4) パート/アルバイト	51	8.9%	39	6.8%	48	11.2%	61	14.3%
(5) 無職（専業主婦を含む）	142	24.9%	200	35.1%	21	4.9%	57	13.3%
(6) 定年退職後	109	19.1%	115	20.2%				
(7) 学生	2	0.4%	2	0.4%	17	4.0%	3	0.7%
(8) その他	23	4.0%	23	4.0%	6	1.4%	4	0.9%
無回答	27	4.7%	43	7.5%	1	0.2%	5	1.2%
合計	570	100.0%	570	100.0%	427	100.0%	427	100.0%

※ 全国値は平成24年厚生労働省がん臨床研究事業での、「治療と就労の両立に関するアンケート調査」の値

(2) 治療と仕事（学校）を両方続けられるような配慮の有無（問12-2）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者について、がんの治療中に、職場（学校）や関係者から治療と仕事（学校）を両方続けられるような配慮があったと思う（「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」、「ややそう思う」）と回答した患者は65.8%、「そう思わない」と回答した患者は9.3%となっている。

「そう思わない」と回答した患者は、令和3年度（8.2%）から1ポイントほど増加している。（図27、表27）

図27 治療と仕事（学校）を両方続けられるような配慮の有無（基本集計）

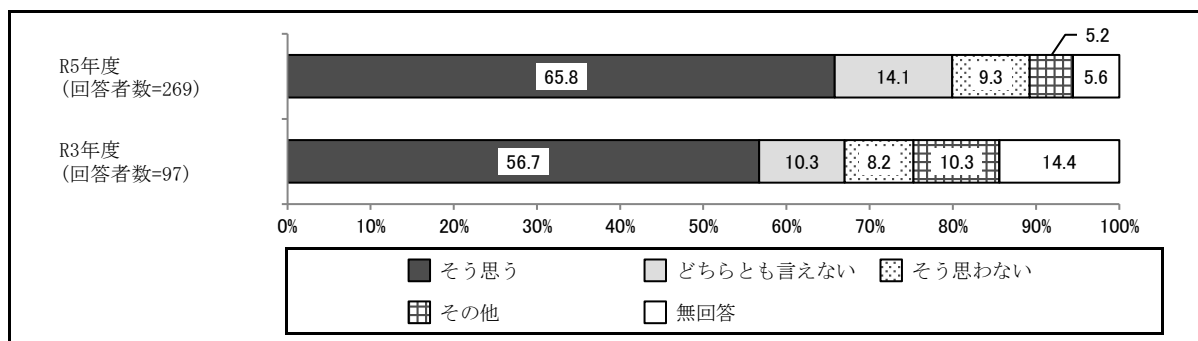


表27 治療と仕事（学校）を両方続けられるような配慮の有無（基本集計）

	R5年度 (回答者数=269)		R3年度 (回答者数=97)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) そう思わない	25	9.3%	8	8.2%
(2) どちらとも言えない	38	14.1%	10	10.3%
(3) ややそう思う	23	8.6%	3	3.1%
(4) ある程度そう思う	71	26.4%	22	22.7%
(5) とてもそう思う	83	30.9%	30	30.9%
(6) その他	14	5.2%	10	10.3%
無回答	15	5.6%	14	14.4%
合計	269	100.0%	97	100.0%

(3) 検査や治療が進む中での働き方（学び方）の変化（問13-1）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者について、検査や治療が進む中での働き方（学び方）の変化がなかった（同じ職場の同じ部署に勤務、同じ学校へ通学）と回答した方が53.5%と最も多く、次いで「退職（退学）して再就職（再入学）していない」が11.5%、「休職中（休学中）」が9.7%となっている。（図28、表28）

図28 検査や治療が進む中での働き方（学び方）の変化（基本集計）

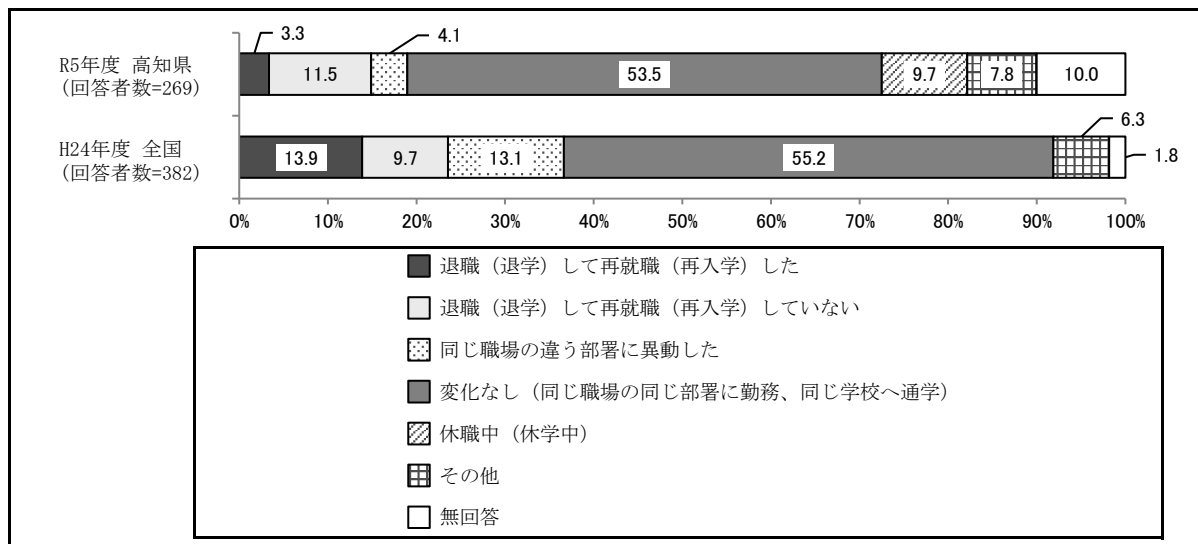


表28 検査や治療が進む中での働き方（学び方）の変化（基本集計）

	R5年度 高知県 (回答者数=269)		R24年度 全国 (回答者数=382)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 退職（退学）して再就職（再入学）した	9	3.3%	53	13.9%
(2) 退職（退学）して再就職（再入学）していない	31	11.5%	37	9.7%
(3) 同じ職場の違う部署に異動した	11	4.1%	50	13.1%
(4) 変化なし（同じ職場の同じ部署に勤務、同じ学校へ通学）	144	53.5%	211	55.2%
(5) 休職中（休学中）	26	9.7%		
(6) その他	21	7.8%	24	6.3%
無回答	27	10.0%	7	1.8%
合計	269	100.0%	382	100.0%

※ 全国値は平成24年厚生労働省がん臨床研究事業での、「治療と就労の両立に関するアンケート調査」の値

(4) 退職（退学）のタイミングの状況（問13-2）

診断時に就労（就学）していて退職（退学）した患者について、退職（退学）のタイミングは「がん診断直後」が32.5%と最も多く、次いで「初回治療中」が22.5%、「診断後、初回治療を待っている間」が12.5%となっている。（図29、表29）

図29 退職（退学）のタイミングの状況（基本集計）

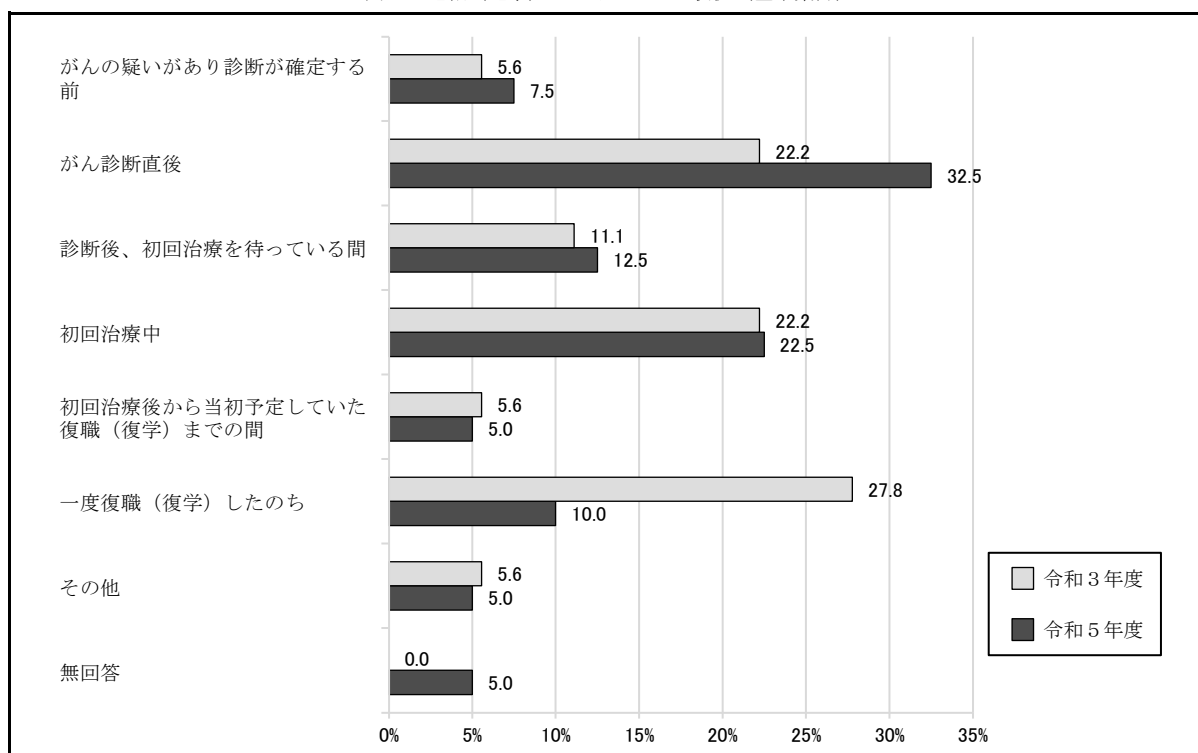


表29 退職（退学）のタイミングの状況（基本集計）

	R5年度 (回答者数=40)		R3年度 (回答者数=18)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) がんの疑いがあり診断が確定する前	3	7.5%	1	5.6%
(2) がん診断直後	13	32.5%	4	22.2%
(3) 診断後、初回治療を待っている間	5	12.5%	2	11.1%
(4) 初回治療中	9	22.5%	4	22.2%
(5) 初回治療後から当初予定していた復職（復学）までの間	2	5.0%	1	5.6%
(6) 一度復職（復学）したのち	4	10.0%	5	27.8%
(7) その他	2	5.0%	1	5.6%
無回答	2	5.0%	0	0.0%
合計	40	100.0%	18	100.0%

(5) 退職（退学）・異動の経緯（問13-3）

診断時に就労（就学）していて退職（退学）した患者と、異動した患者について、退職（退学）・異動を「自分から希望した」と回答した患者が58.8%と最も多く、次いで「勤務先（学校）から指示され従った」と回答した患者が21.6%となっている。（図30、表30）

図30 退職（退学）・異動の経緯（基本集計）

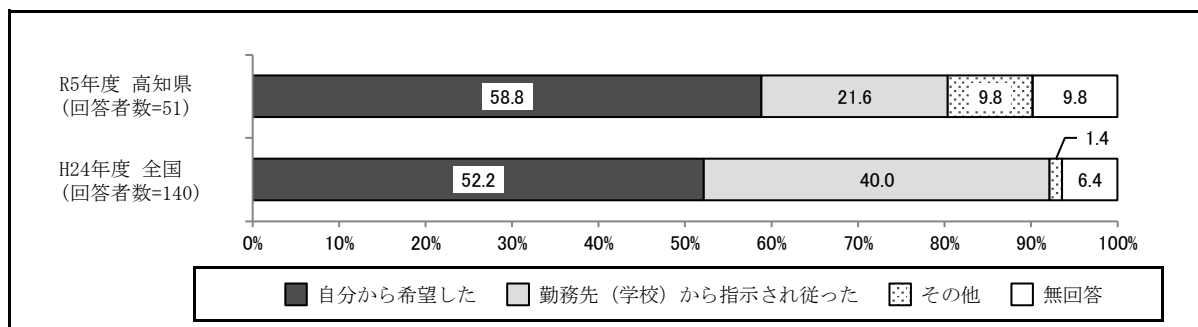


表30 退職（退学）・異動の経緯（基本集計）

	R5年度 高知県 (回答者数=51)		H24年度 全国 (回答者数=140)	
	回答数	百分率	回答数	百分率
(1) 自分から希望した	30	58.8%	73	52.2%
(2) 勤務先（学校）から指示され従った	11	21.6%	56	40.0%
(3) その他	5	9.8%	2	1.4%
無回答	5	9.8%	9	6.4%
合計	51	100.0%	140	100.0%

※ 全国値は平成24年厚生労働省がん臨床研究事業での、「治療と就労の両立に関するアンケート調査」の値



(6) がんの治療と仕事（学校）を両立するために利用したもの（複数回答可）（問13-4）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者について、治療と仕事を両立するために利用したものを「上記のものは利用していない」と回答した患者が55.7%と最も多く、次いで「時間単位、半日単位の休暇制度」が18.6%、「その他」が8.1%となっている。（図31、表31）

図31 がんの治療と仕事（学校）を両立するために利用したもの（複数回答可）（基本集計）

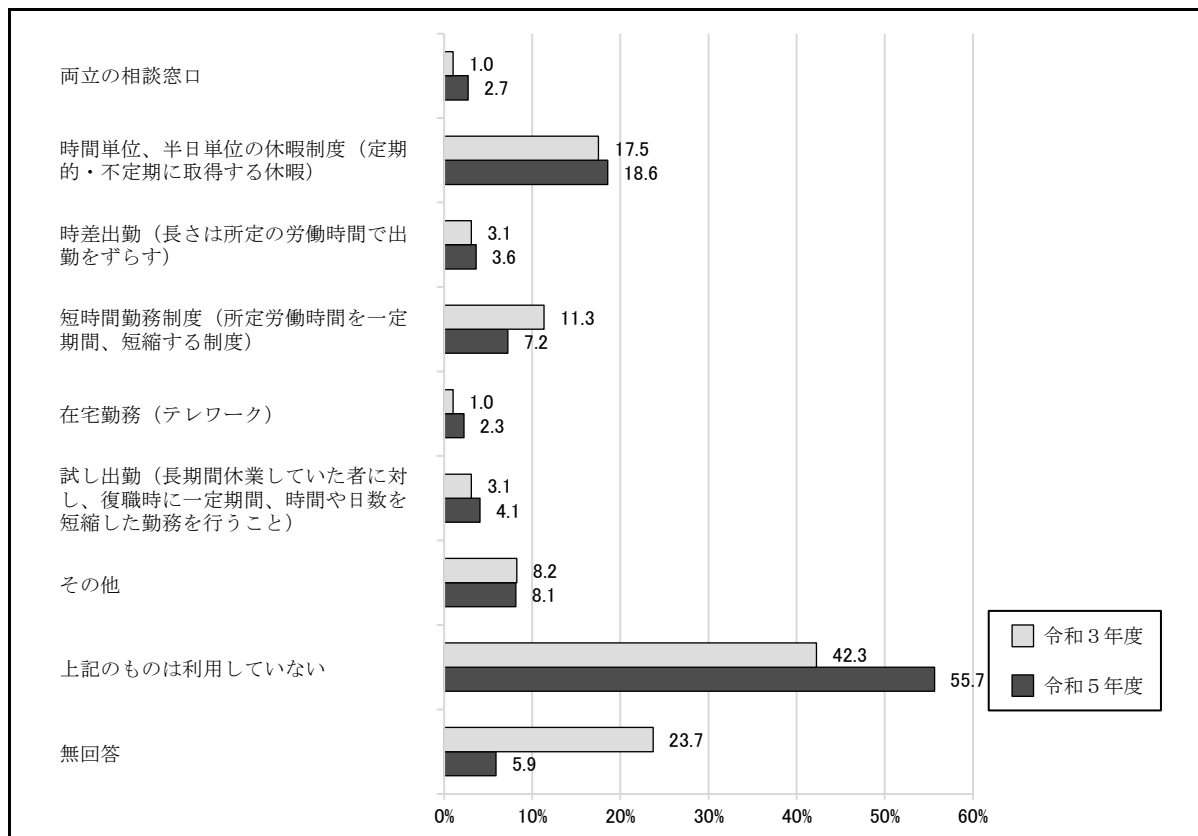


表31 がんの治療と仕事（学校）を両立するために利用したもの（複数回答可）（基本集計）

	R5年度 (回答者数=221)		R3年度 (回答者数=97)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 両立の相談窓口	6	2.7%	1	1.0%
(2) 時間単位、半日単位の休暇制度（定期的・不定期に取得する休暇）	41	18.6%	17	17.5%
(3) 時差出勤（長さは所定の労働時間で出勤をずらす）	8	3.6%	3	3.1%
(4) 短時間勤務制度（所定労働時間を一定期間、短縮する制度）	16	7.2%	11	11.3%
(5) 在宅勤務（テレワーク）	5	2.3%	1	1.0%
(6) 試し出勤（長期間休業していた者に対し、復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと）	9	4.1%	3	3.1%
(7) その他	18	8.1%	8	8.2%
(8) 上記のものは利用していない	123	55.7%	41	42.3%
無回答	13	5.9%	23	23.7%
回答者数（無回答を除く）	208	94.1%	74	76.3%
合計	221	100.0%	97	100.0%

※回答者数（無回答を除く）と（1）～（8）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

2 就労（就学）の悩みの相談状況（問14～問16）

(1) 治療開始前に、就労（就学）の継続について病院から話があったか（問14）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者について、治療開始前に、就労（就学）の継続について病院からの「説明を必要としておらず、話があった」と回答した患者は32.0%と最も多く、次いで「説明を必要としており、話があった」が29.7%、「わからない」が12.6%となっている。（図32、表32）

図32 治療開始前に、就労（就学）の継続について病院から話があったか（基本集計）

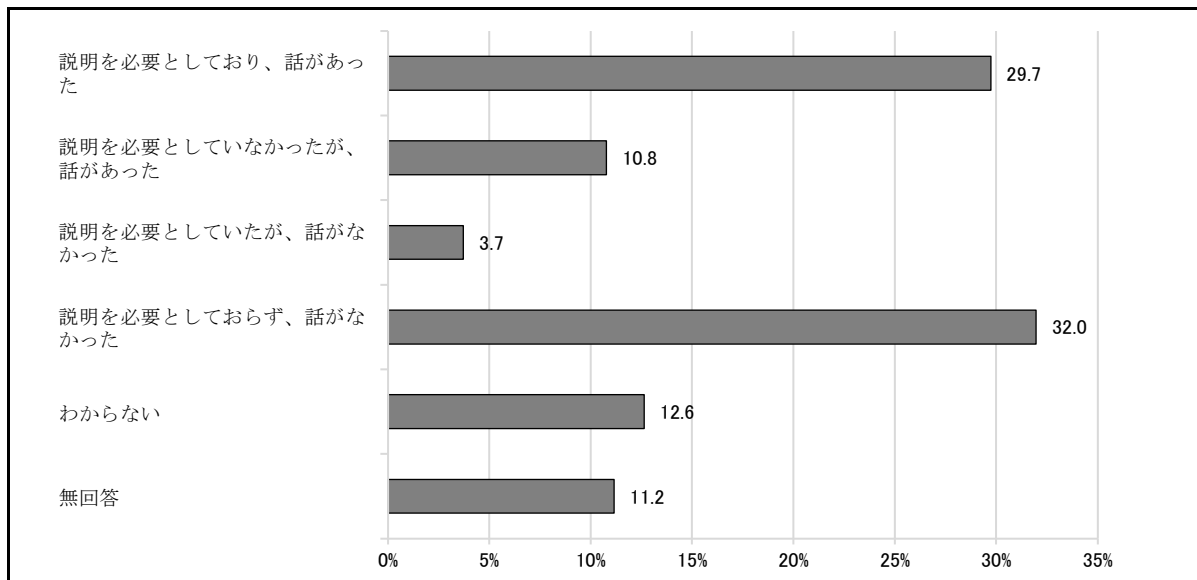


表32 治療開始前に、就労（就学）の継続について病院から話があったか（基本集計）

	R5年度 高知県 (回答者数=269)	
	回答数	百分率
(1) 説明を必要としており、話があった	80	29.7%
(2) 説明を必要としていなかったが、話があった	29	10.8%
(3) 説明を必要としていたが、話なかった	10	3.7%
(4) 説明を必要としておらず、話なかった	86	32.0%
(5) わからない	34	12.6%
無回答	30	11.2%
合計	269	100.0%

(2) 就労（就学）に関する問題について、誰かに相談したことがあるか（問15-1）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者について、就労（就学）に関する問題を相談したことが「ない」と回答した患者が52.4%、「ある」と回答した患者が39.8%となっている。（図33、表33）

図33 就労（就学）に関する問題について、誰かに相談したことがあるか（基本集計）

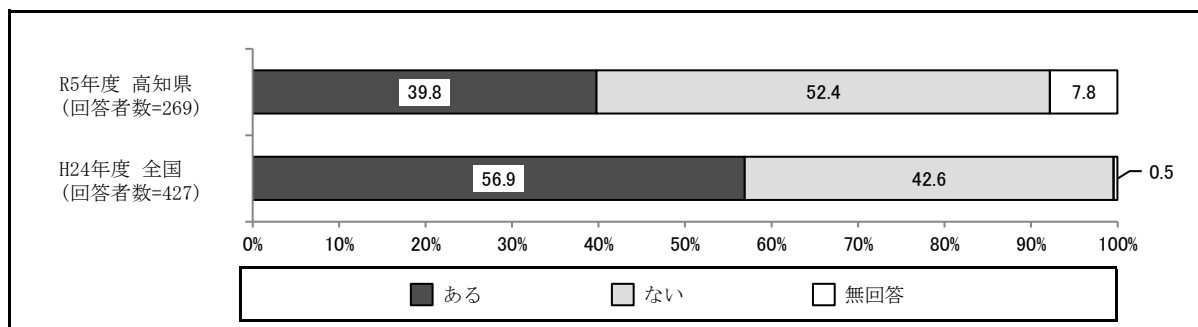


表33 就労（就学）に関する問題について、誰かに相談したことがあるか（基本集計）

	R5年度 高知県 (回答者数=269)		H24年度 全国 (回答者数=427)	
	回答数	百分率	回答数	百分率
(1) ある	107	39.8%	243	56.9%
(2) ない	141	52.4%	182	42.6%
無回答	21	7.8%	2	0.5%
合計	269	100.0%	427	100.0%

※ 全国値は平成24年厚生労働省がん臨床研究事業での、「治療と就労の両立に関するアンケート調査」の値

(3) 相談した相手（複数回答可）（問15-2）

就労（就学）に関する問題を相談したことがある患者について、相談した相手として「家族」と回答した患者が75.5%と最も多く、次いで「上司」が67.0%、「同僚」、「友人」が各49.1%となっている。（図34、表34）

図34 相談した相手（複数回答可）（基本集計）

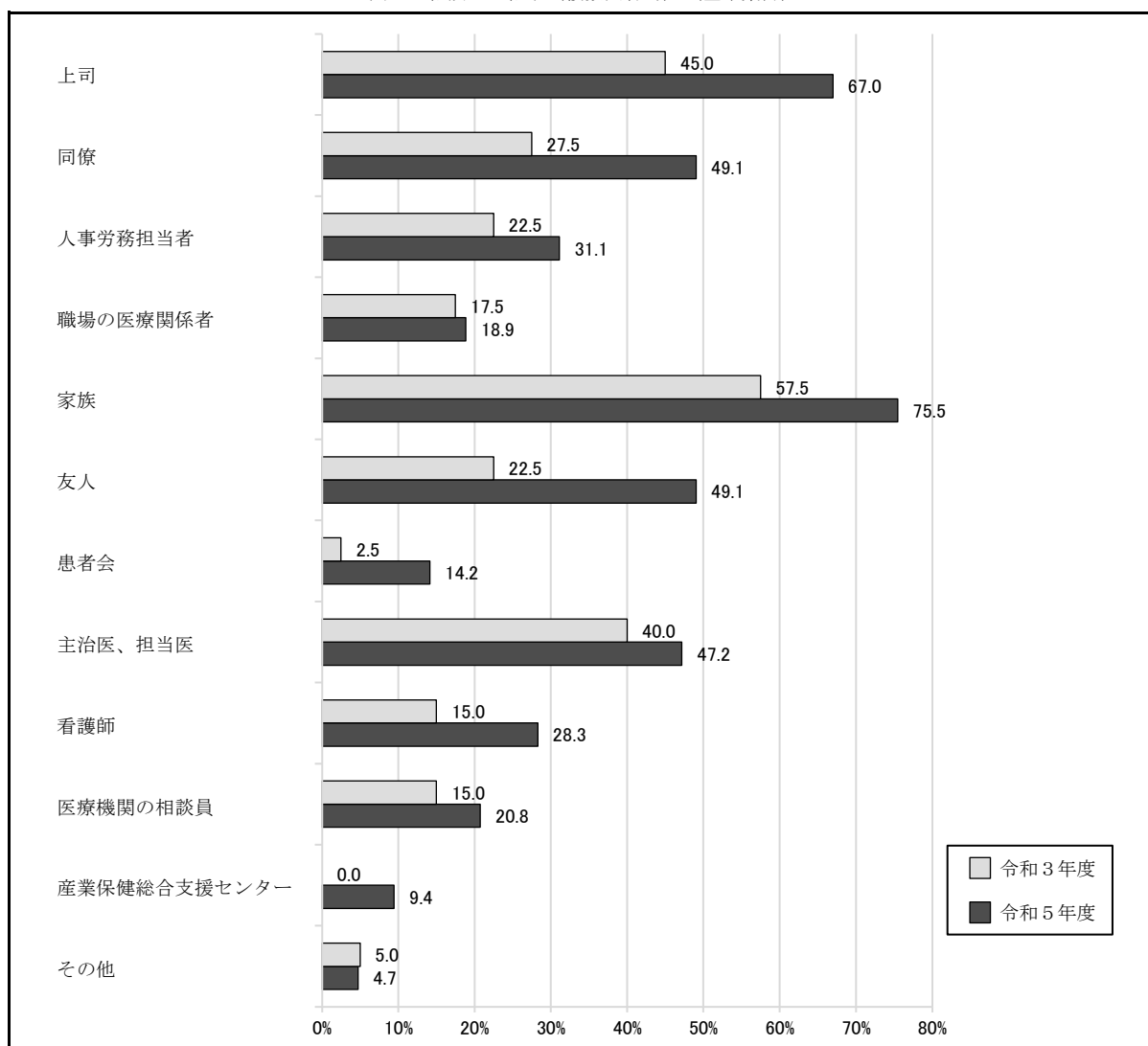


表34 相談した相手（複数回答可）（基本集計）

	R5年度 (回答者数=106)		R3年度 (回答者数=40)	
	回答数	百分率	回答数	百分率
(1) 上司	71	67.0%	18	45.0%
(2) 同僚	52	49.1%	11	27.5%
(3) 人事労務担当者	33	31.1%	9	22.5%
(4) 職場の医療関係者	20	18.9%	7	17.5%
(5) 家族	80	75.5%	23	57.5%
(6) 友人	52	49.1%	9	22.5%
(7) 患者会	15	14.2%	1	2.5%
(8) 主治医、担当医	50	47.2%	16	40.0%
(9) 看護師	30	28.3%	6	15.0%
(10) 医療機関の相談員	22	20.8%	6	15.0%
(11) 産業保健総合支援センター	10	9.4%	0	0.0%
(12) その他	5	4.7%	2	5.0%
回答者数	106	100.0%	40	100.0%
合計	106	100.0%	40	100.0%

※回答者数と（1）～（12）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

(4) 相談した相手の役立ち度 (問15-2)

相談して「とても役に立った」および「やや役に立った」と回答があった相手は「家族」が98.8%と最も多く、次いで「上司」が91.5%、「同僚」が90.4%となっている。(図35、表35)

図35 相談した相手の役立ち度 (基本集計)

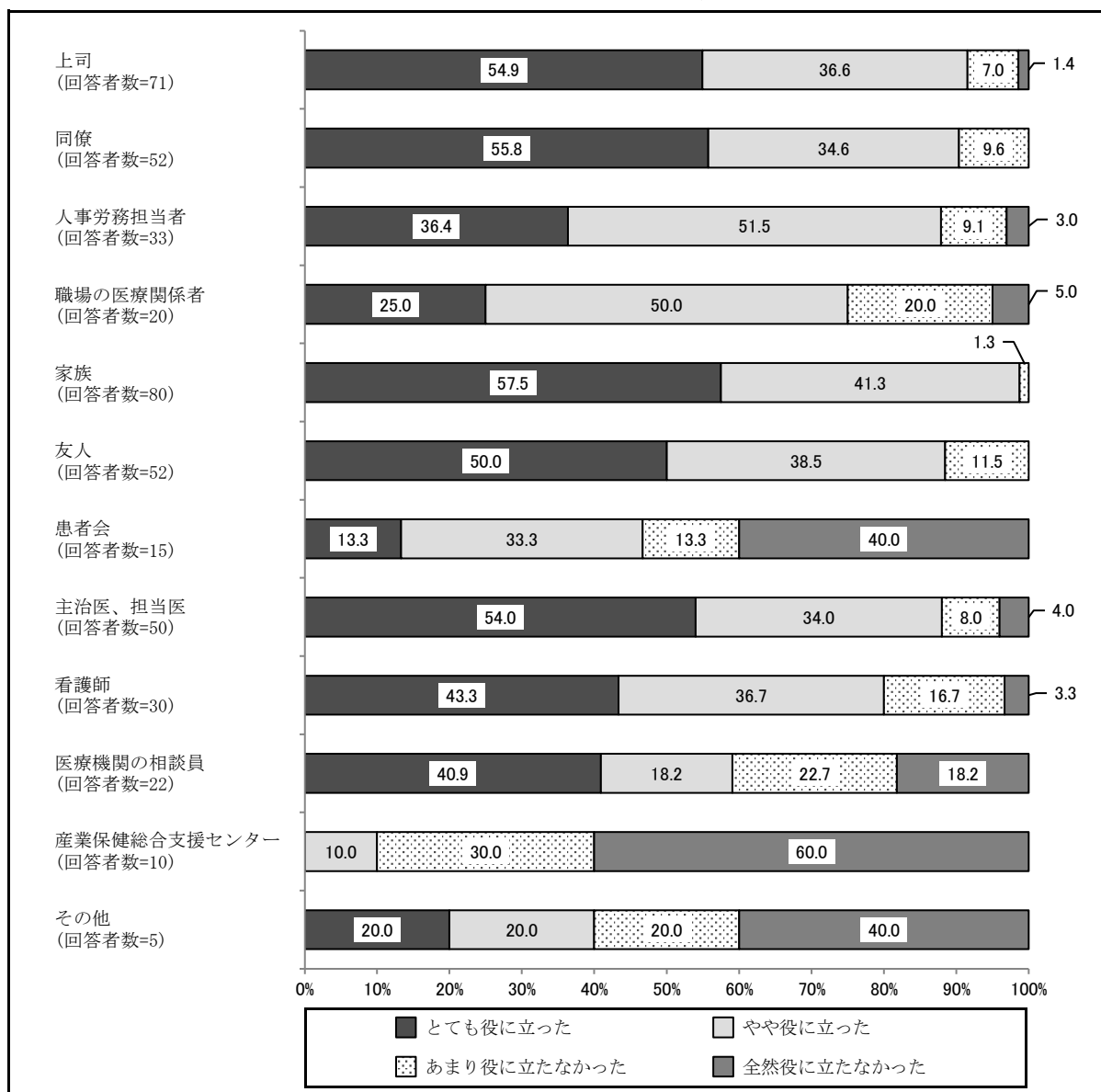


表35 相談した相手の役立ち度（基本集計）

	R5年度(回答者数=106)					R3年度(回答者数=40)				
	とても役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	全然役に立たなかった	回答者数(無回答を除く)	とても役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	全然役に立たなかった	回答者数(無回答を除く)
(1) 上司 (回答者数=71)	39 54.9%	26 36.6%	5 7.0%	1 1.4%	71 100.0%	9 50.0%	4 22.2%	2 11.1%	3 16.7%	18 100.0%
(2) 同僚 (回答者数=52)	29 55.8%	18 34.6%	5 9.6%	0 0.0%	52 100.0%	8 72.7%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	11 100.0%
(3) 人事労務担当者 (回答者数=33)	12 36.4%	17 51.5%	3 9.1%	1 3.0%	33 100.0%	3 33.3%	3 33.3%	0 0.0%	3 33.3%	9 100.0%
(4) 職場の医療関係者 (回答者数=20)	5 25.0%	10 50.0%	4 20.0%	1 5.0%	20 100.0%	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	2 28.6%	7 100.0%
(5) 家族 (回答者数=80)	46 57.5%	33 41.3%	1 1.3%	0 0.0%	80 100.0%	10 43.5%	10 43.5%	2 8.7%	1 4.3%	23 100.0%
(6) 友人 (回答者数=52)	26 50.0%	20 38.5%	6 11.5%	0 0.0%	52 100.0%	4 44.4%	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%
(7) 患者会 (回答者数=15)	2 13.3%	5 33.3%	2 13.3%	6 40.0%	15 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
(8) 主治医、担当医 (回答者数=50)	27 54.0%	17 34.0%	4 8.0%	2 4.0%	50 100.0%	9 56.3%	5 31.3%	2 12.5%	0 0.0%	16 100.0%
(9) 看護師 (回答者数=30)	13 43.3%	11 36.7%	5 16.7%	1 3.3%	30 100.0%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%
(10) 医療機関の相談員 (回答者数=22)	9 40.9%	4 18.2%	5 22.7%	4 18.2%	22 100.0%	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	6 100.0%
(11) 産業保健総合支援センター (回答者数=10)	0 0.0%	1 10.0%	3 30.0%	6 60.0%	10 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
(12) その他 (回答者数=5)	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	5 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
無回答	29 27.4%	50 47.2%	85 80.2%	96 90.6%	0 0.0%	15 37.5%	20 50.0%	36 90.0%	37 92.5%	0 0.0%
回答者数 (無回答を除く)	77 72.6%	56 52.8%	21 19.8%	10 9.4%	106 100.0%	25 62.5%	20 50.0%	4 10.0%	3 7.5%	40 100.0%
合計	106 100.0%	106 100.0%	106 100.0%	106 100.0%	106 100.0%	40 100.0%	40 100.0%	40 100.0%	40 100.0%	40 100.0%

※回答者数（無回答を除く）と（1）～（12）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

(5) 相談しなかった理由（複数回答可）（問15-3）

就労（就学）に関する問題を相談したことがない患者の相談しなかった理由について、「相談するほど困っていなかった」と回答した患者が48.2%と最も多く、次いで「相談するという発想がなかった」が18.4%、「がんであることを知られたくなかった」が9.9%となっている。（図36、表36）

図36 相談しなかった理由（複数回答可）（基本集計）

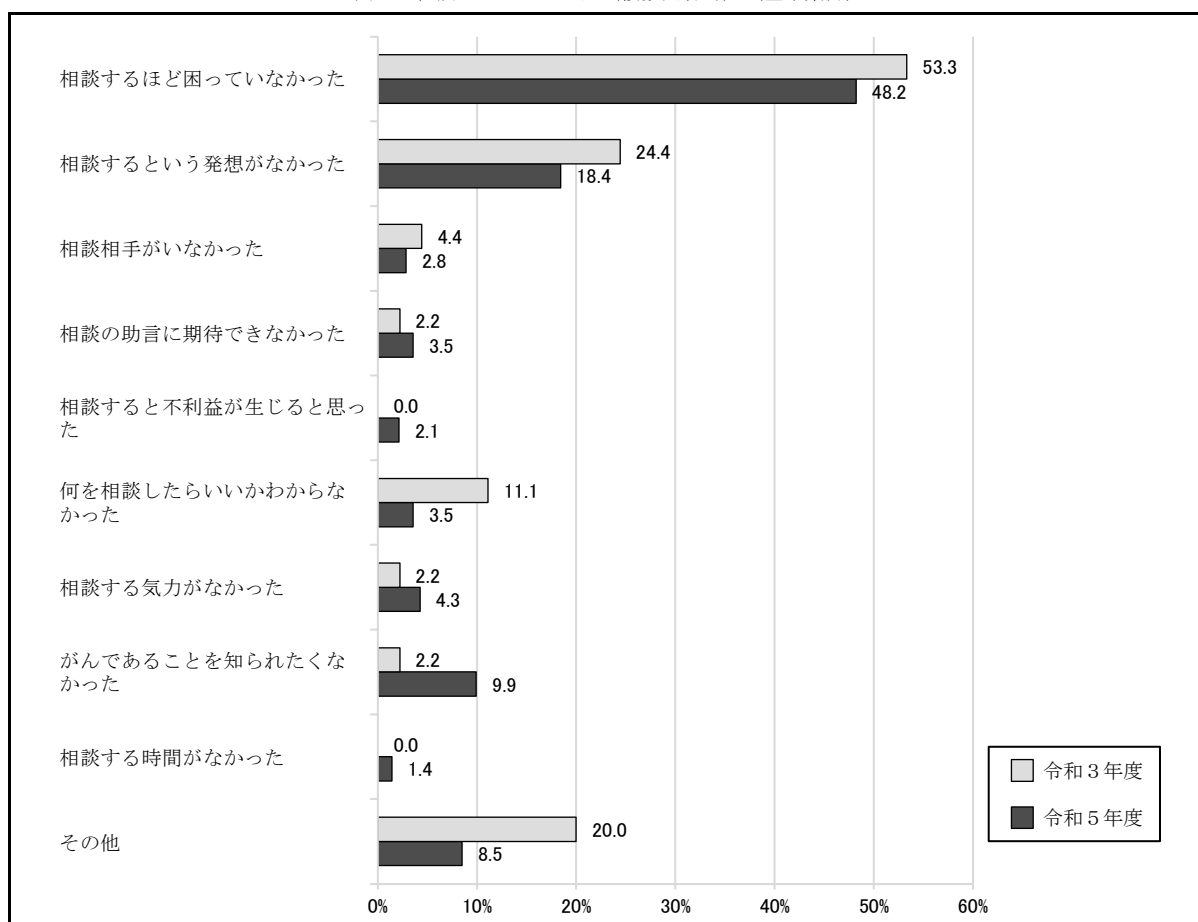




表36 相談しなかった理由（複数回答可）（基本集計）

	R5年度 (回答者数=141)		R3年度 (回答者数=45)	
	回答数	百分率	回答数	百分率
(1) 相談するほど困っていなかった	68	48.2%	24	53.3%
(2) 相談するという発想がなかった	26	18.4%	11	24.4%
(3) 相談相手がいなかった	4	2.8%	2	4.4%
(4) 相談の助言に期待できなかった	5	3.5%	1	2.2%
(5) 相談すると不利益が生じると思った	3	2.1%	0	0.0%
(6) 何を相談したらいいかわからなかった	5	3.5%	5	11.1%
(7) 相談する気力がなかった	6	4.3%	1	2.2%
(8) がんであることを知られたくなかった	14	9.9%	1	2.2%
(9) 相談する時間がなかった	2	1.4%	0	0.0%
(10) その他	12	8.5%	9	20.0%
無回答	5	3.5%	1	2.2%
回答者数（無回答を除く）	136	96.5%	44	97.8%
合計	141	100.0%	45	100.0%

※回答者数（無回答を除く）と（1）～（10）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

(6) がんと診断された後、困ったこと（複数回答可）（問16）

診断時に就労（就学）していた（「自営業」、「正社員」、「派遣社員/契約社員」、「パート/アルバイト」、「学生」）患者について、診断後の困ったことを「本人の心理的な問題」と回答した患者が40.5%と最も多く、次いで「経済的な困難」が34.2%、「通勤・工作中的の副作用や後遺症の問題」が26.8%となっている。（図37、表37）

図37 がんと診断された後、困ったこと（複数回答可）（基本集計）

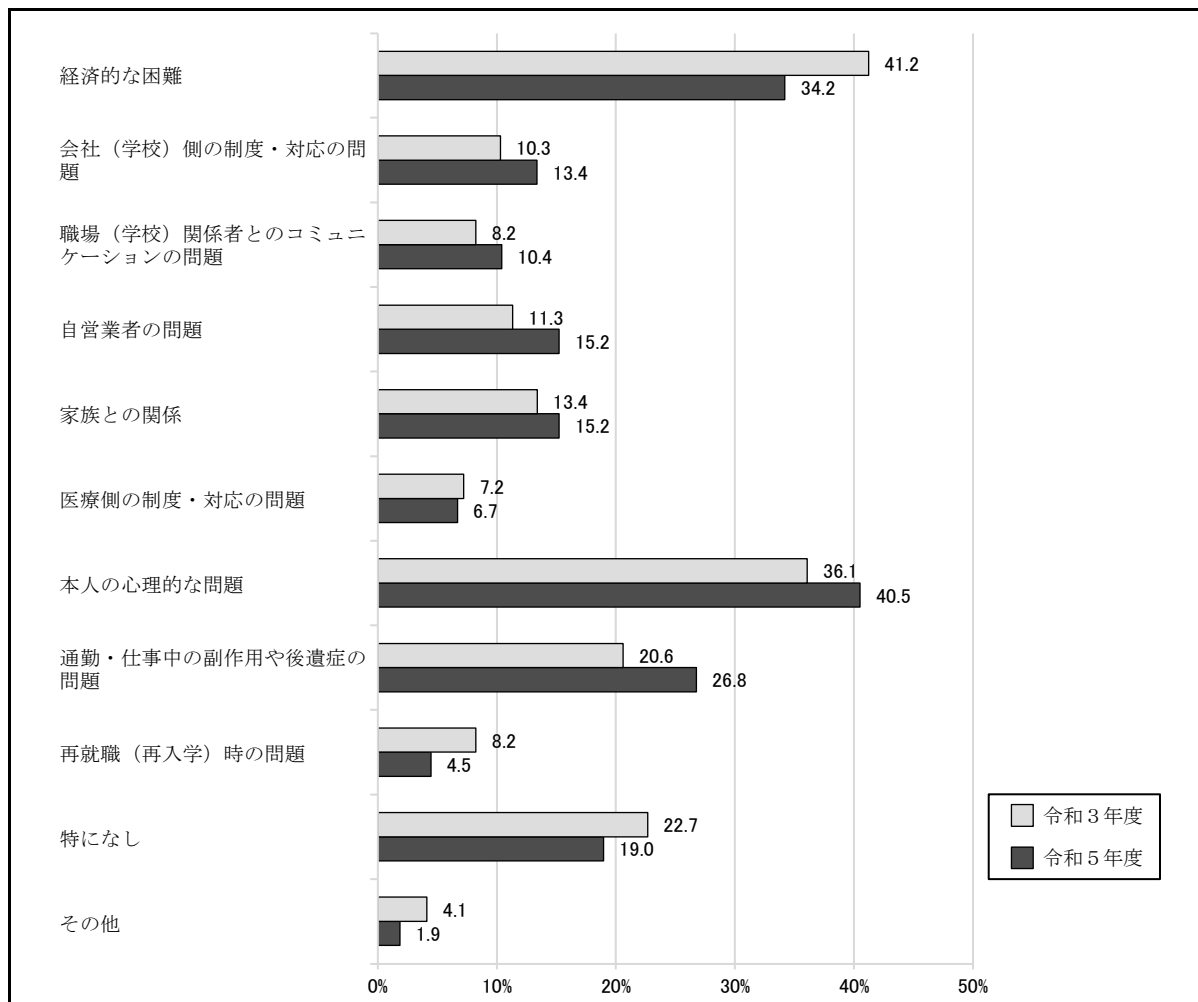


表37 がんと診断された後、困ったこと（複数回答可）（基本集計）

	R5年度 (回答者数=269)		R3年度 (回答者数=97)	
	回答数	百分率	回答数	百分率
(1) 経済的な困難	92	34.2%	40	41.2%
(2) 会社（学校）側の制度・対応の問題	36	13.4%	10	10.3%
(3) 職場（学校）関係者とのコミュニケーションの問題	28	10.4%	8	8.2%
(4) 自営業者の問題	41	15.2%	11	11.3%
(5) 家族との関係	41	15.2%	13	13.4%
(6) 医療側の制度・対応の問題	18	6.7%	7	7.2%
(7) 本人の心理的な問題	109	40.5%	35	36.1%
(8) 通勤・仕事での副作用や後遺症の問題	72	26.8%	20	20.6%
(9) 再就職（再入学）時の問題	12	4.5%	8	8.2%
(10) 特になし	51	19.0%	22	22.7%
(11) その他	5	1.9%	4	4.1%
無回答	15	5.6%	8	8.2%
回答者数（無回答を除く）	254	94.4%	89	91.8%
合計	269	100.0%	97	100.0%

※回答者数（無回答を除く）と（1）～（11）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

## IV 結果の概要（支援に関すること）

### 1 不妊の影響について（問6）

(1) がん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けたか（問6-1）

説明を受けたと回答した患者は10.0%、受けていないと回答した患者は55.3%となっている。受けていないと回答した患者については、令和3年度（46.7%）から9ポイント近く増加している。（図38、表38）

図38 がん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けたか（基本集計）

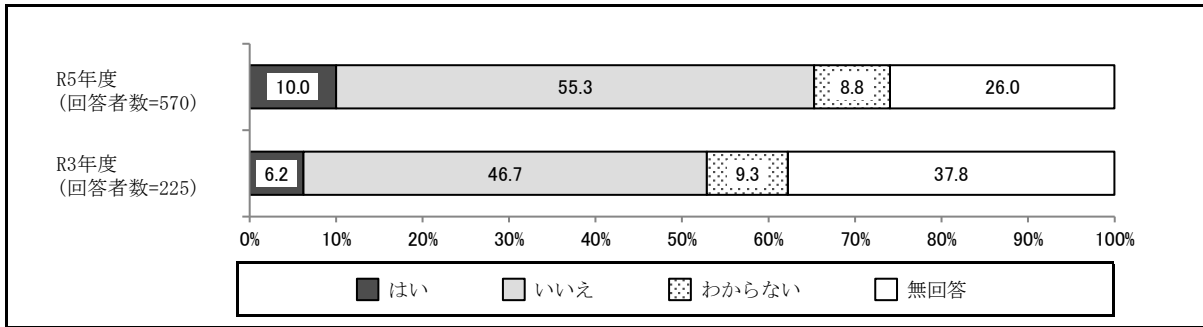


表38 がん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けたか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=570)		R3年度 (回答者数=225)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	57	10.0%	14	6.2%
(2) いいえ	315	55.3%	105	46.7%
(3) わからない	50	8.8%	21	9.3%
無回答	148	26.0%	85	37.8%
合計	570	100.0%	225	100.0%

(2) 不妊の影響について受けた説明は、どのような説明だったか（問6-2）

「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」が33.3%と最も多く、次いで「不妊の影響はない、という説明を受けた」が17.5%となっている。

「不妊の影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった」、「不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった」、「その他」と回答した患者については、いずれも令和3年度（7.1%、28.6%、35.7%）から減少している。一方、「不妊の影響はない、という説明を受けた」、「不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった」については、令和3年度（各7.1%）から増加している。（図39、表39）

図39 不妊の影響について受けた説明は、どのような説明だったか（基本集計）

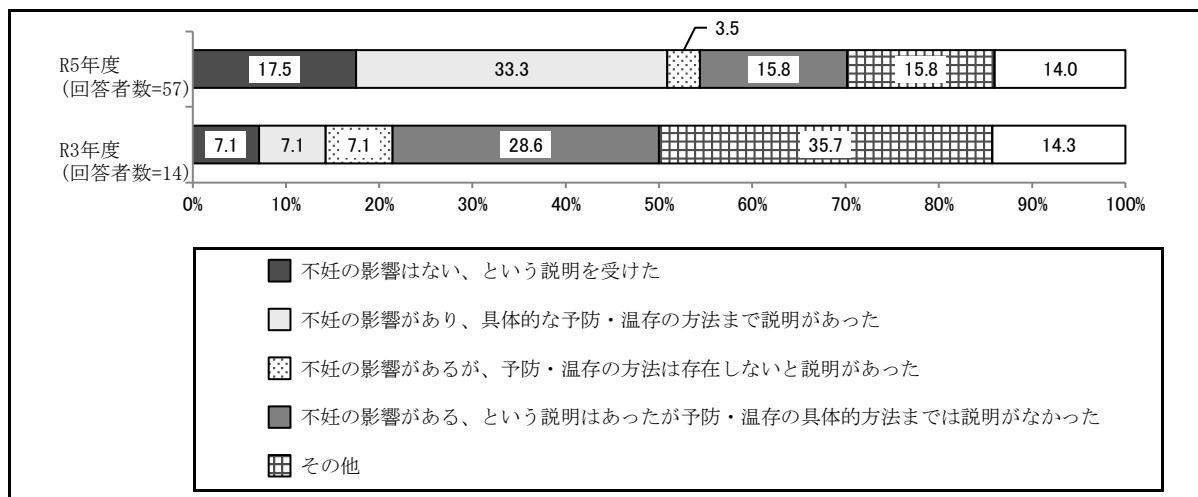


表39 不妊の影響について受けた説明は、どのような説明だったか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=57)		R3年度 (回答者数=14)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 不妊の影響はない、という説明を受けた	10	17.5%	1	7.1%
(2) 不妊の影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった	19	33.3%	1	7.1%
(3) 不妊の影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった	2	3.5%	1	7.1%
(4) 不妊の影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった	9	15.8%	4	28.6%
(5) その他	9	15.8%	5	35.7%
無回答	8	14.0%	2	14.3%
合計	57	100.0%	14	100.0%

(3) 不妊の影響に対し、実際に予防・温存（精子や卵子の保存や、治療方法や薬の変更を含む）のための処置を行ったか（問6-3）

処置を行ったと回答した患者はいなかった。一方、処置を行っていないと回答した患者は87.1%となっている。

処置を行っていないと回答した患者については、令和3年度（49.8%）から37ポイントほど増加している。（図40、表40）

図40 不妊の影響に対し、実際に予防・温存（精子や卵子の保存や、治療方法や薬の変更を含む）のための処置を行ったか（基本集計）

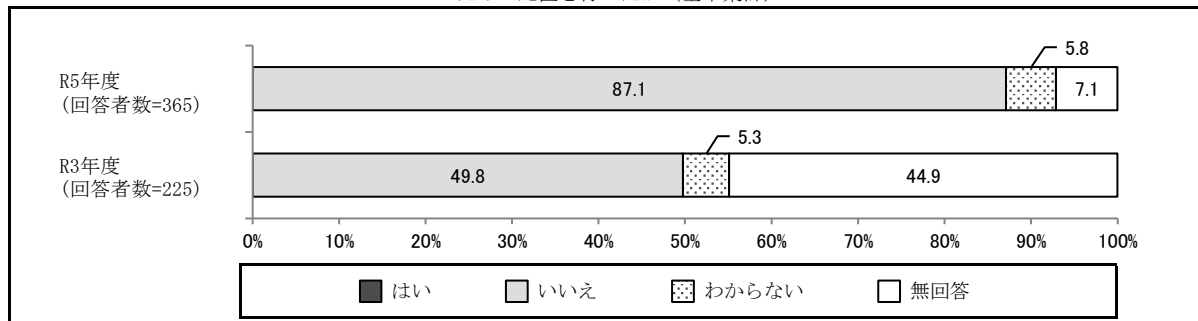


表40 不妊の影響に対し、実際に予防・温存（精子や卵子の保存や、治療方法や薬の変更を含む）のための処置を行ったか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=365)		R3年度 (回答者数=225)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	0	0.0%	0	0.0%
(2) いいえ	318	87.1%	112	49.8%
(3) わからない	21	5.8%	12	5.3%
無回答	26	7.1%	101	44.9%
合計	365	100.0%	225	100.0%

2 あなたが知りたいがんに関する情報について（問9）

(1) あなたが知りたいがんに関する情報（問9）

がんに関する情報で知りたいと思う（「そう思う」、「ややそう思う」）と回答した患者は、「がんの治療方法」が81.1%で最も多く、次いで「病院の診療体制や治療情報」が77.3%、「経済的支援や利用できる社会保障制度」が74.3%となっている。一方、知りたいと思わない（「あまりそう思わない」、「そう思わない」）と回答した患者は、「がんの病態や統計データ」が13.7%で最も多く、次いで「緩和ケア」が13.2%、「自宅での療養生活」が11.1%となっている。（図41、表41）

図41 あなたが知りたいがんに関する情報（基本集計）

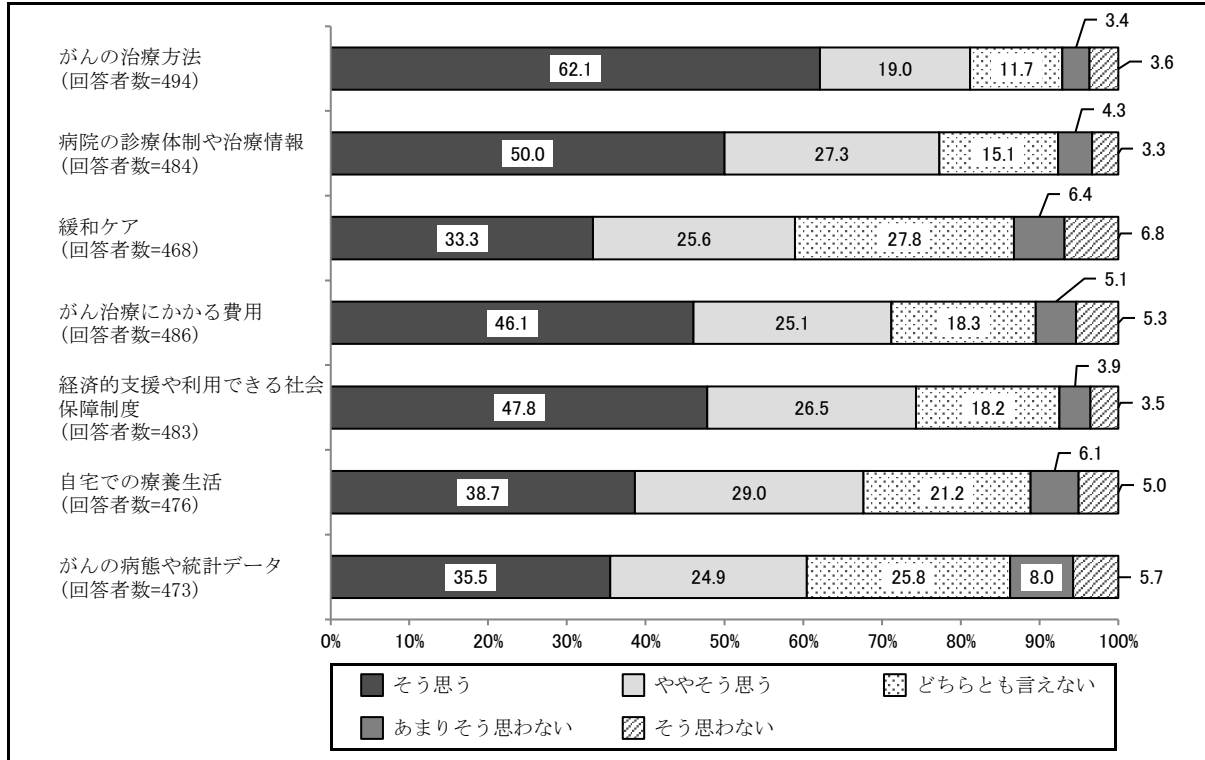


表41 あなたが知りたいがんに関する情報（基本集計）

	R5年度(回答者数=512)											
	そう思う		ややそう思う		どちらとも言えない		あまりそう思わない		そう思わない		回答者数(無回答を除く)	
(1) がんの治療方法 (回答者数=494)	307	62.1%	94	19.0%	58	11.7%	17	3.4%	18	3.6%	494	100.0%
(2) 病院の診療体制や治療情報 (回答者数=484)	242	50.0%	132	27.3%	73	15.1%	21	4.3%	16	3.3%	484	100.0%
(3) 緩和ケア (回答者数=468)	156	33.3%	120	25.6%	130	27.8%	30	6.4%	32	6.8%	468	100.0%
(4) がん治療にかかる費用 (回答者数=486)	224	46.1%	122	25.1%	89	18.3%	25	5.1%	26	5.3%	486	100.0%
(5) 経済的支援や利用できる社会保障制度 (回答者数=483)	231	47.8%	128	26.5%	88	18.2%	19	3.9%	17	3.5%	483	100.0%
(6) 自宅での療養生活 (回答者数=476)	184	38.7%	138	29.0%	101	21.2%	29	6.1%	24	5.0%	476	100.0%
(7) がんの病態や統計データ (回答者数=473)	168	35.5%	118	24.9%	122	25.8%	38	8.0%	27	5.7%	473	100.0%
無回答	142	27.7%	214	41.8%	273	53.3%	430	84.0%	450	87.9%	0	0.0%
回答者数(無回答を除く)	370	72.3%	298	58.2%	239	46.7%	82	16.0%	62	12.1%	512	100.0%
合計	512	100.0%	512	100.0%	512	100.0%	512	100.0%	512	100.0%	512	100.0%

※回答者数(無回答を除く)と(1)～(7)の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

3 ゲノム情報を活用したがん医療について（問17）

(1) ゲノム情報を活用したがん医療について、知っているか（問17）

「聞いたことはあるが、あまり知らない」と回答した患者が43.3%と最も多く、次いで「聞いたことがない」が35.1%、「ある程度知っている」が13.0%となっている。

「聞いたことはあるが、あまり知らない」と回答した患者については、令和3年度（32.0%）から11ポイントほど増加している。（図42、表42）

図42 ゲノム情報を活用したがん医療について、知っているか（基本集計）

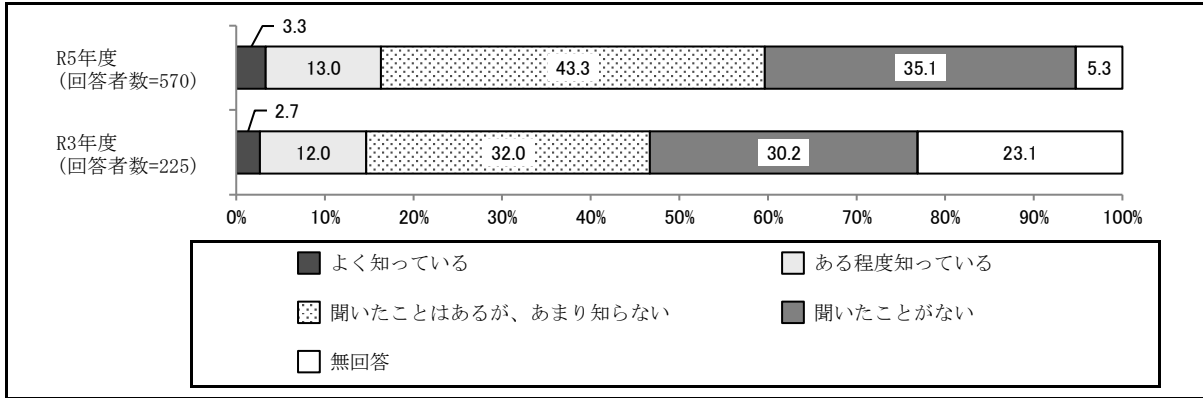


表42 ゲノム情報を活用したがん医療について、知っているか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=570)		R3年度 (回答者数=225)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) よく知っている	19	3.3%	6	2.7%
(2) ある程度知っている	74	13.0%	27	12.0%
(3) 聞いたことはあるが、あまり知らない	247	43.3%	72	32.0%
(4) 聞いたことがない	200	35.1%	68	30.2%
無回答	30	5.3%	52	23.1%
合計	570	100.0%	225	100.0%



4 がん治療による外見の変化について（問18～問21）

（1）がん治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）を体験したか（問18）

体験したと回答した患者は49.1%、体験していないと回答した患者は43.5%となっている。（図43、表43）

図43 がん治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）を体験したか（基本集計）

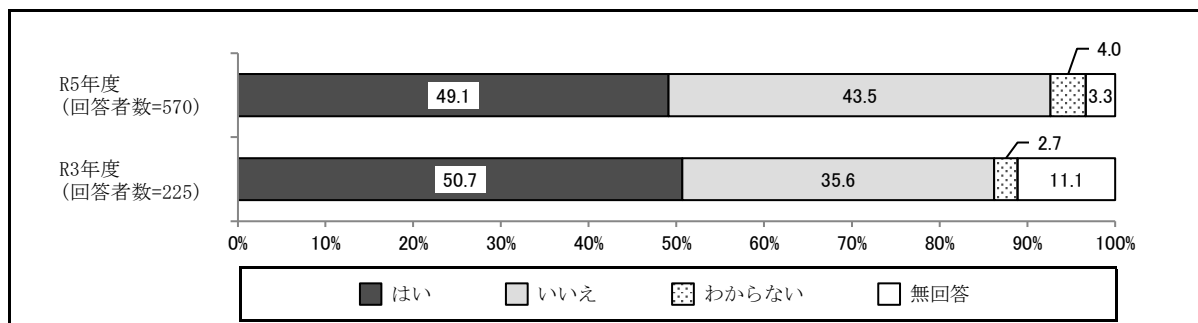


表43 がん治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）を体験したか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=570)		R3年度 (回答者数=225)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	280	49.1%	114	50.7%
(2) いいえ	248	43.5%	80	35.6%
(3) わからない	23	4.0%	6	2.7%
無回答	19	3.3%	25	11.1%
合計	570	100.0%	225	100.0%

(2) 外見の変化を体験して、生活に影響はあったか(複数回答可) (問19)

外見の変化を体験して生活に「影響はなかった」と回答した患者が35.7%と最も多く、次いで「外出の機会が減った」が34.6%、「人と会うのがおっくうになった」が30.0%となっている。(図44、表44)

図44 外見の変化を体験して、生活に影響はあったか(複数回答可) (基本集計)

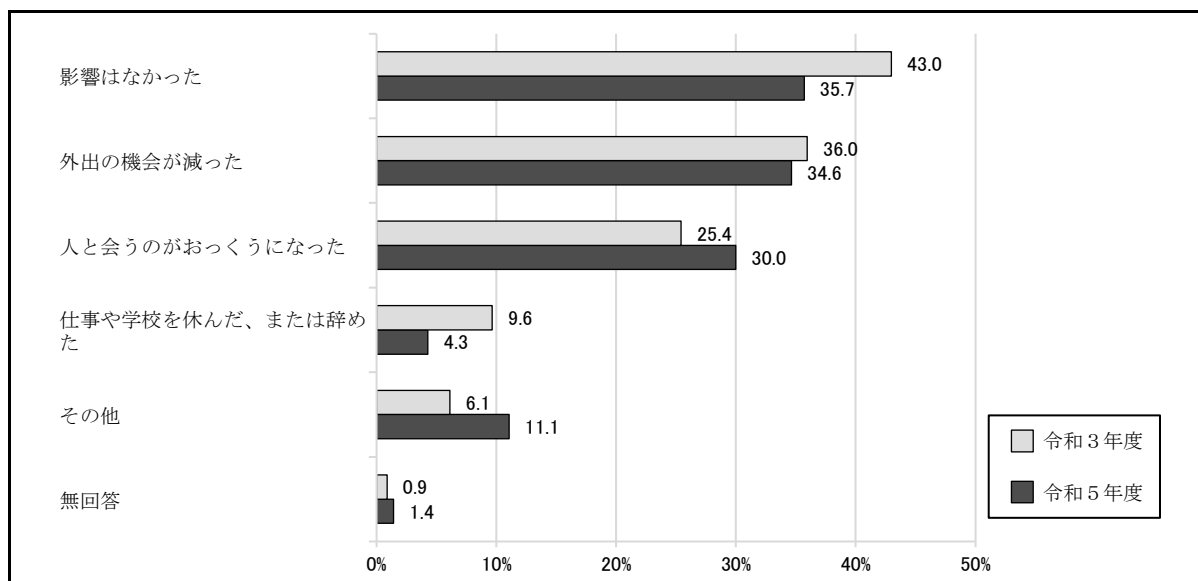


表44 外見の変化を体験して、生活に影響はあったか(複数回答可) (基本集計)

	R5年度 (回答者数=280)		R3年度 (回答者数=114)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 影響はなかった	100	35.7%	49	43.0%
(2) 外出の機会が減った	97	34.6%	41	36.0%
(3) 人と会うのがおっくうになった	84	30.0%	29	25.4%
(4) 仕事や学校を休んだ、または辞めた	12	4.3%	11	9.6%
(5) その他	31	11.1%	7	6.1%
無回答	4	1.4%	1	0.9%
回答者数(無回答を除く)	276	98.6%	113	99.1%
合計	280	100.0%	114	100.0%

※回答者数(無回答を除く)と(1)～(5)の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

(3) 外見の変化に関する悩みを誰かに相談できたか (問20)

「相談を必要としなかった」と回答した患者が42.1%と最も多く、次いで「相談できた」が38.2%、「相談が必要かわからなかった」が7.9%となっている。

「相談を必要としなかった」と回答した患者については、令和3年度(57.0%)から15ポイント近く減少している。(図45、表45)

図45 外見の変化に関する悩みを誰かに相談できたか (基本集計)

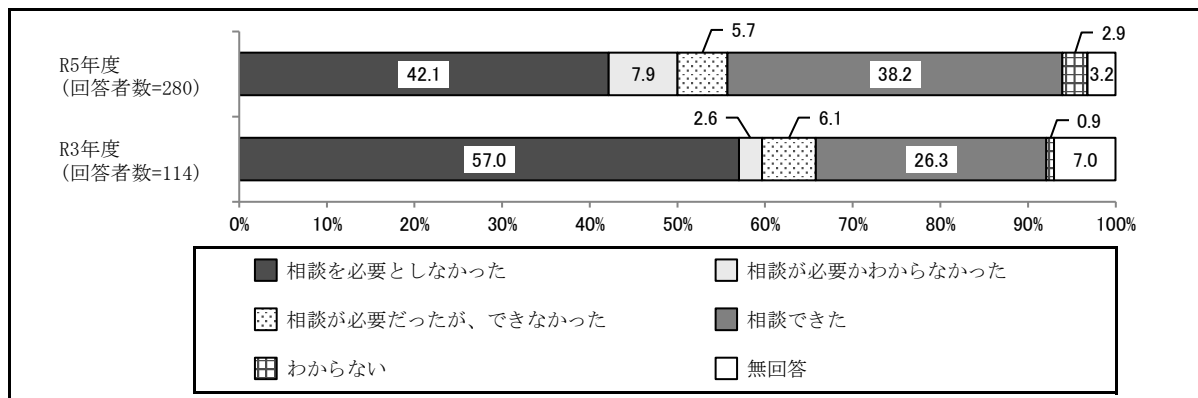


表45 外見の変化に関する悩みを誰かに相談できたか (基本集計)

	R5年度 (回答者数=280)		R3年度 (回答者数=114)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 相談を必要としなかった	118	42.1%	65	57.0%
(2) 相談が必要かわからなかった	22	7.9%	3	2.6%
(3) 相談が必要だったが、できなかった	16	5.7%	7	6.1%
(4) 相談できた	107	38.2%	30	26.3%
(5) わからない	8	2.9%	1	0.9%
無回答	9	3.2%	8	7.0%
合計	280	100.0%	114	100.0%

(4) 外見の変化へのケア（ウィッグの使用、爪の手入れ、補正下着の利用など）を行ったか（問21）

ケアを行ったと回答した患者は45.7%、必要なかったと回答した患者は43.9%、希望はあったが行わなかったと回答した患者は7.1%となっている。（図46、表46）

図46 外見の変化へのケア（ウィッグの使用、爪の手入れ、補正下着の利用など）を行ったか（基本集計）

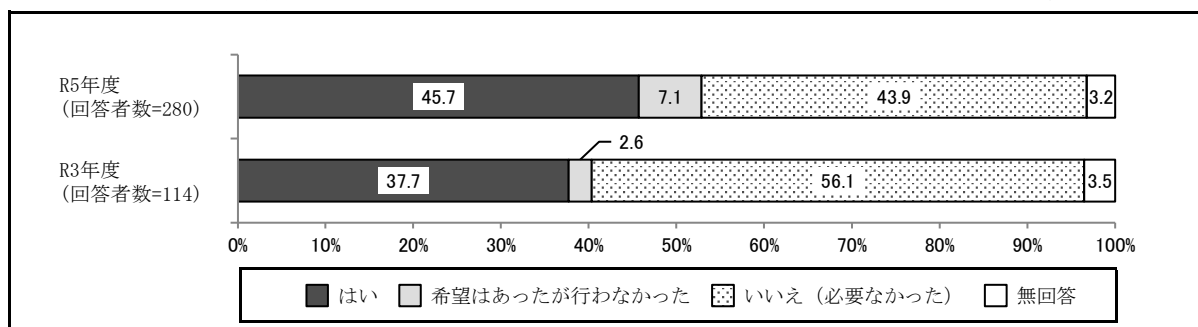


表46 外見の変化へのケア（ウィッグの使用、爪の手入れ、補正下着の利用など）を行ったか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=280)		R3年度 (回答者数=114)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	128	45.7%	43	37.7%
(2) 希望はあったが行わなかった	20	7.1%	3	2.6%
(3) いいえ（必要なかった）	123	43.9%	64	56.1%
無回答	9	3.2%	4	3.5%
合計	280	100.0%	114	100.0%

(5) 外見の変化へのケアを「希望はあったが行わなかった」理由 (問21)

「経済的に負担だった」と回答した患者が55.0%と最も多く、次いで「その他」が30.0%となっている。(図47、表47)

図47 外見の変化へのケアを「希望はあったが行わなかった」理由 (基本集計)

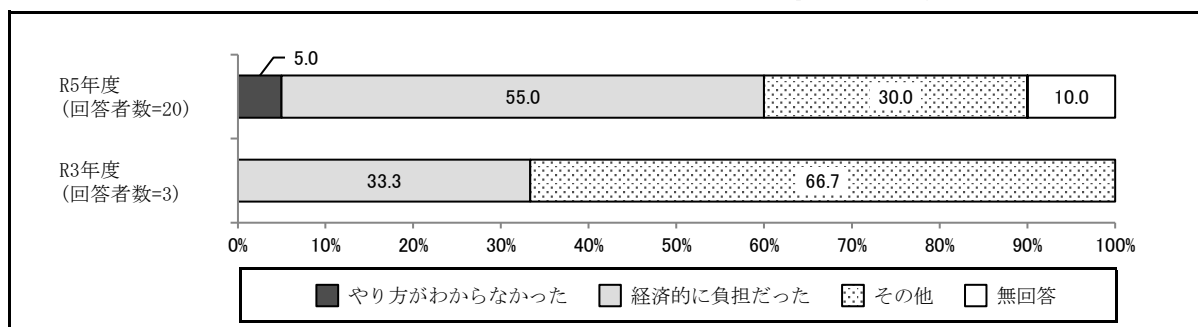


表47 外見の変化へのケアを「希望はあったが行わなかった」理由 (基本集計)

	R5年度 (回答者数=20)		R3年度 (回答者数=3)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) やり方がわからなかった	1	5.0%	0	0.0%
(2) 経済的に負担だった	11	55.0%	1	33.3%
(3) その他	6	30.0%	2	66.7%
無回答	2	10.0%	0	0.0%
合計	20	100.0%	3	100.0%

5 ピア・サポートについて（問11）

（1）ピア・サポートについて知っているか（問11-1）

知っていると回答した患者は13.2%、知らないと回答した患者は83.0%となっている。  
 知らないと回答した患者については、令和3年度（73.3%）から10ポイント近く増加している。  
 （図48、表48）

図48 ピア・サポートについて知っているか（基本集計）

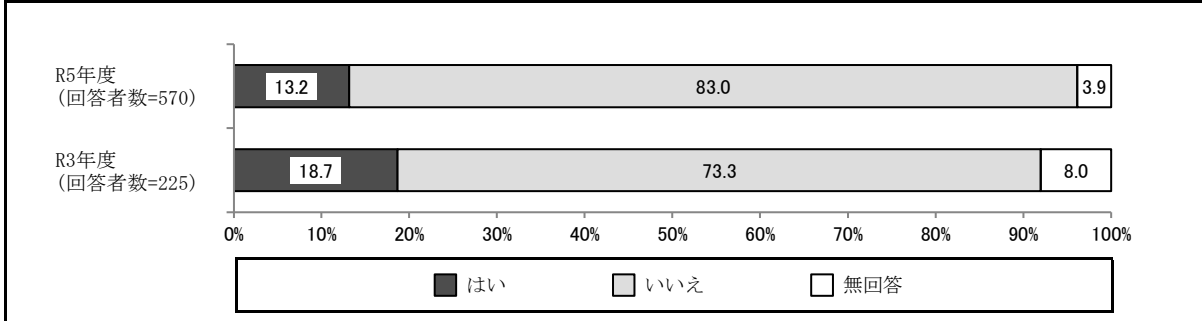


表48 ピア・サポートについて知っているか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=570)		R3年度 (回答者数=225)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	75	13.2%	42	18.7%
(2) いいえ	473	83.0%	165	73.3%
無回答	22	3.9%	18	8.0%
合計	570	100.0%	225	100.0%

（2）ピア・サポートを利用したことがあるか（問11-2）

ピア・サポートを知っている患者のうち、利用したことがあると回答した患者は16.0%、利用したことがないと回答した患者は84.0%となっている。  
 利用したことがあると回答した患者については、令和3年度（16.7%）から1ポイント近く減少している。（図49、表49）

図49 ピア・サポートを利用したことがあるか（基本集計）

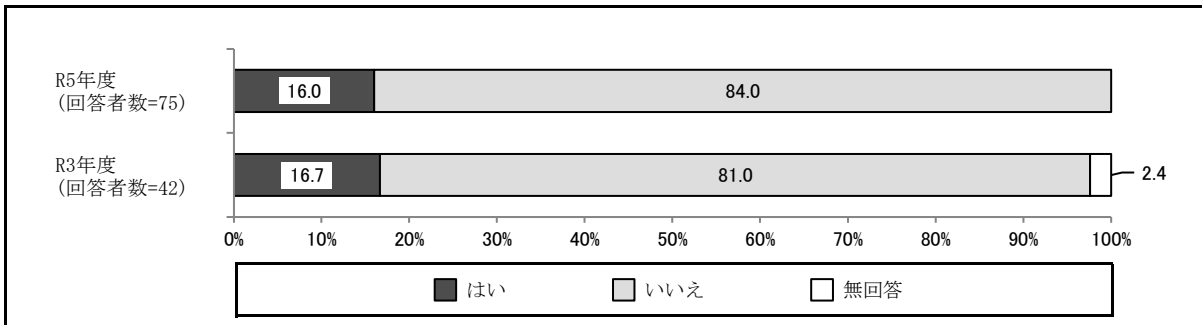


表49 ピア・サポートを利用したことがあるか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=75)		R3年度 (回答者数=42)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) はい	12	16.0%	7	16.7%
(2) いいえ	63	84.0%	34	81.0%
無回答	0	0.0%	1	2.4%
合計	75	100.0%	42	100.0%

(3) ピア・サポートを利用して、どの程度役に立ったと思うか（問11-3）

ピア・サポートを利用した患者について、「とても役に立った」と回答した患者が66.7%と最も多く、次いで「ある程度役に立った」が25.0%、「どちらとも言えない」が8.3%となっている。

「とても役に立った」と回答した患者については、令和3年度（28.6%）から38ポイントほど増加している。（図50、表50）

図50 ピア・サポートを利用して、どの程度役に立ったと思うか（基本集計）

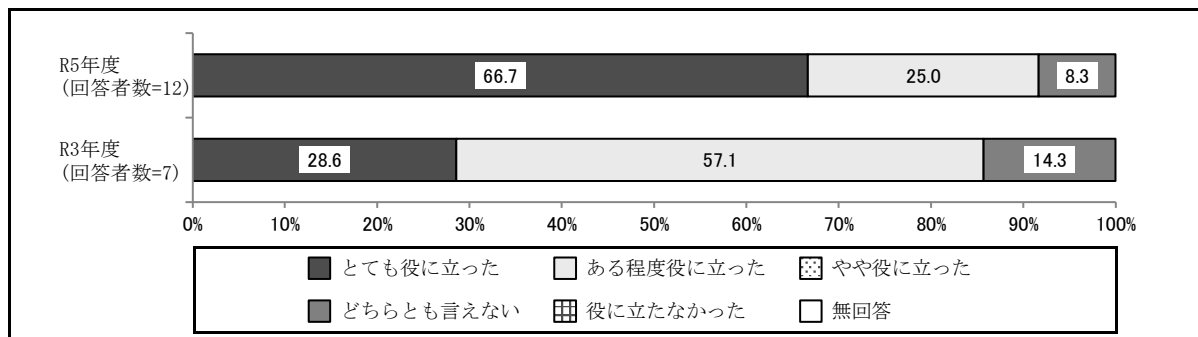


表50 ピア・サポートを利用して、どの程度役に立ったと思うか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=12)		R3年度 (回答者数=7)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) とても役に立った	8	66.7%	2	28.6%
(2) ある程度役に立った	3	25.0%	4	57.1%
(3) やや役に立った	0	0.0%	0	0.0%
(4) どちらとも言えない	1	8.3%	1	14.3%
(5) 役に立たなかった	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	12	100.0%	7	100.0%

(4) ピア・サポートを利用しなかった理由（複数回答可）（問11-4）

ピア・サポートを利用したことがない患者の利用しなかった理由について、「相談したいことはなかった」と回答した患者が57.1%と最も多く、次いで「その他」が19.0%、「必要としていたときは知らなかった」、「プライバシーの観点から行きづらかった」が各7.9%となっている。（図51、表51）

図51 ピア・サポートを利用しなかった理由（複数回答可）（基本集計）

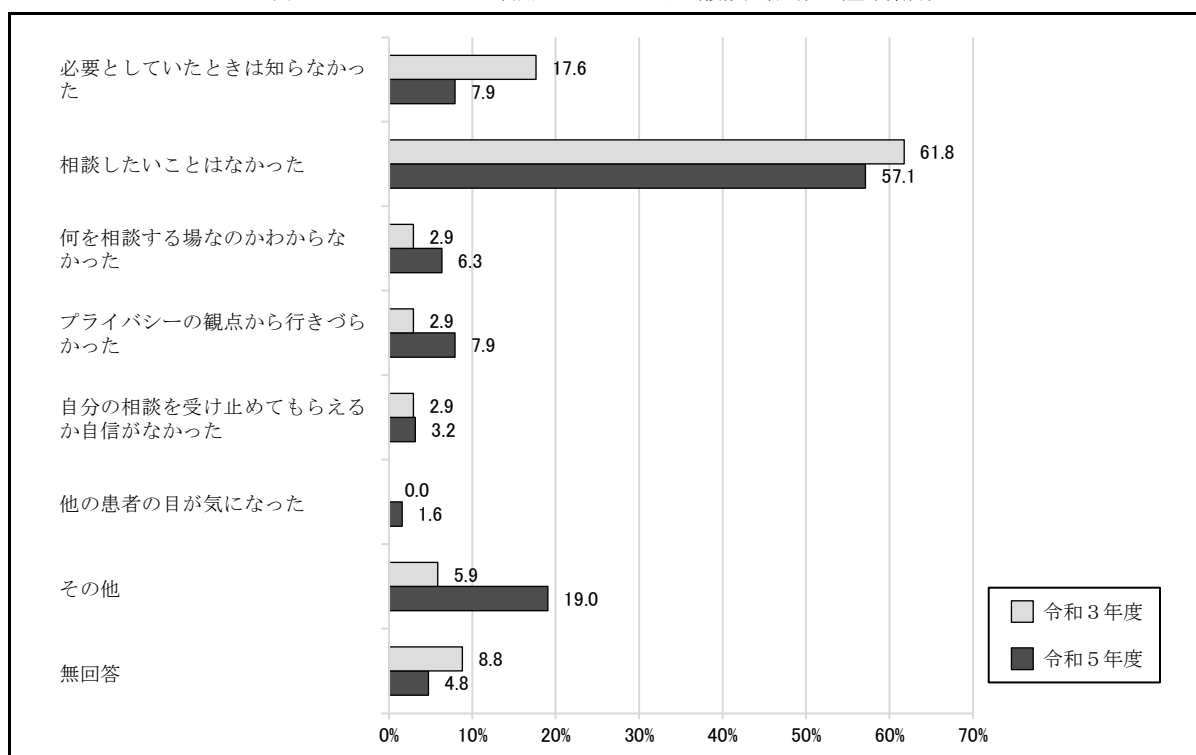


表51 ピア・サポートを利用しなかった理由（複数回答可）（基本集計）

	R5年度 (回答者数=63)		R3年度 (回答者数=34)	
	回答者数	百分率	回答者数	百分率
(1) 必要としていたときは知らなかった	5	7.9%	6	17.6%
(2) 相談したいことはなかった	36	57.1%	21	61.8%
(3) 何を相談する場なのかわからなかった	4	6.3%	1	2.9%
(4) プライバシーの観点から行きづらかった	5	7.9%	1	2.9%
(5) 自分の相談を受け止めてもらえるか自信がなかった	2	3.2%	1	2.9%
(6) 他の患者の目が気になった	1	1.6%	0	0.0%
(7) その他	12	19.0%	2	5.9%
無回答	3	4.8%	3	8.8%
回答者数（無回答を除く）	60	95.2%	31	91.2%
合計	63	100.0%	34	100.0%

※回答者数（無回答を除く）と（1）～（7）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。



## V 結果の概要（ご意見・ご要望等について）

### 1 がん対策について、高知県として力を入れて欲しいことについて（問22）

#### （1）がん対策について、高知県としてどういったことに力を入れて欲しいか（問22）

「がんの予防・早期発見（がん検診）」が53.5%と最も多く、次いで「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」が46.5%、「がんに関する専門的医療従事者の育成」が42.8%となっている。（図52、表52）

図52 がん対策について、高知県としてどういったことに力を入れて欲しいか（基本集計）

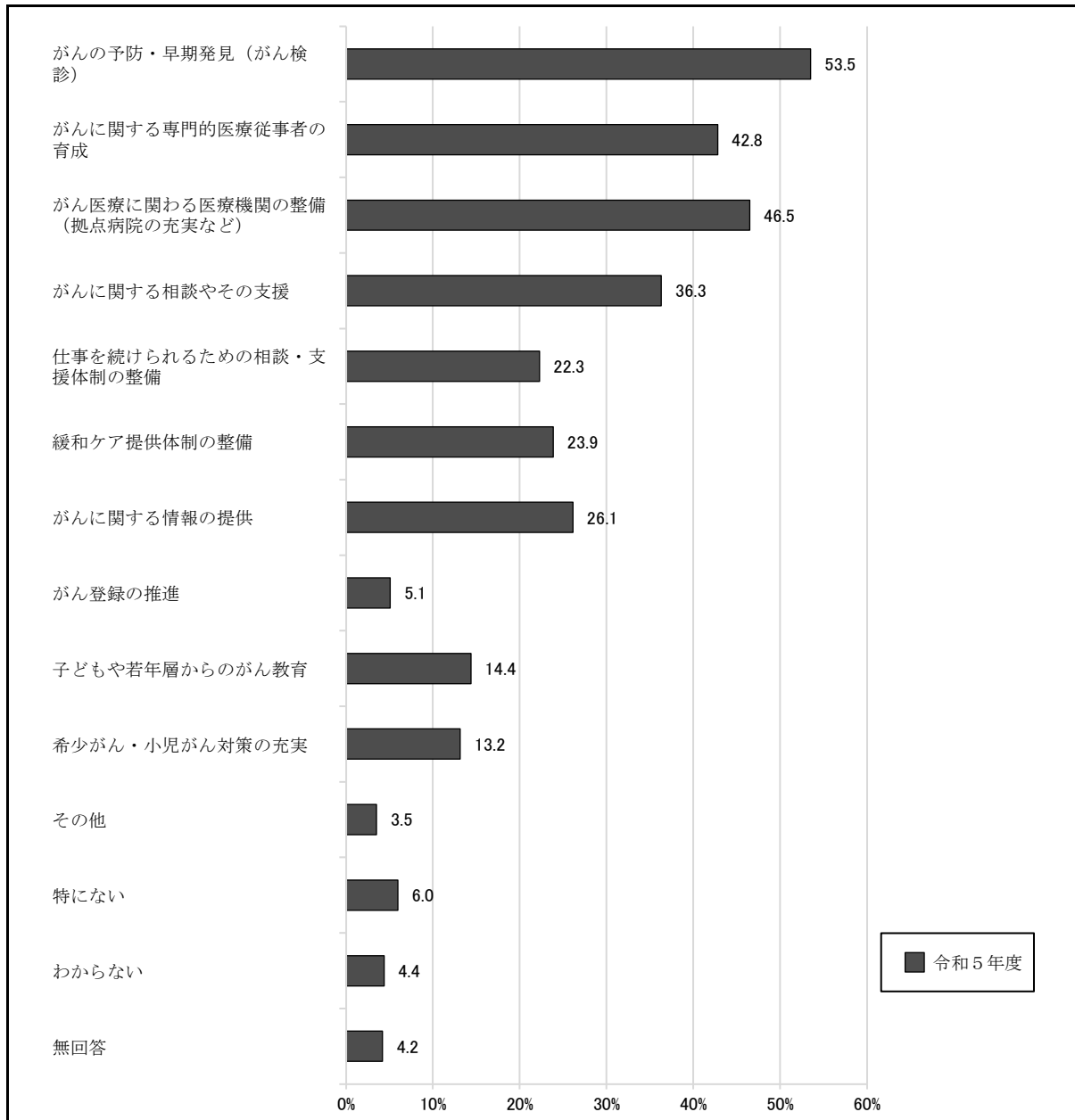


表52 がん対策について、高知県としてどういったことに力を入れて欲しいか（基本集計）

	R5年度 (回答者数=570)	
	回答者数	百分率
(1) がんの予防・早期発見（がん検診）	305	53.5%
(2) がんに関する専門的医療従事者の育成	244	42.8%
(3) がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）	265	46.5%
(4) がんに関する相談やその支援	207	36.3%
(5) 仕事を続けられるための相談・支援体制の整備	127	22.3%
(6) 緩和ケア提供体制の整備	136	23.9%
(7) がんに関する情報の提供	149	26.1%
(8) がん登録の推進	29	5.1%
(9) 子どもや若年層からのがん教育	82	14.4%
(10) 希少がん・小児がん対策の充実	75	13.2%
(11) その他	20	3.5%
(12) 特にない	34	6.0%
(13) わからない	25	4.4%
無回答	24	4.2%
回答者数（無回答を除く）	546	95.8%
合計	570	100.0%

※回答者数（無回答を除く）と（1）～（13）の合計値が異なるのは、1人の回答者が複数回答できる設問のため。

2 医療の満足度等で不満と回答した患者の記載内容（問23）

(1) 受けた治療等への満足度を聞いた問（問8）で不満を感じた方の記載内容（問23）

受けた治療内容に対して「非常に不満」または「やや不満」と回答した患者の記載内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高知県でも最先端の治療が受けられるようにしてほしい。</li> </ul>
質問や相談を行ったときの医師の対応に対して「非常に不満」または「やや不満」と回答した患者の記載内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ （池の会）など休めるところがあつて良かったです。</li> <li>・ 患者、家族は常に不安とともにあります。病院から独立した心理士やカウンセラーを気軽に利用できればと思います。</li> <li>・ マスコミなどメディアから得られるがん治療情報に比べ、高知県のがん治療が遅れていると感じる。</li> </ul>

(2) 調査票に回答した日、治療を受けた病院の満足度を聞いた問（問4-1）で不満を感じた方の記載内容（問23）

受けている治療内容に対して「非常に不満」または「やや不満」と回答した患者の記載内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準治療だけでなく、山口大学や信州大学のような先進的な研究をしてほしいです。今の治療が終わったら、あとが治療法がないという現在を打破してほしいです。</li> </ul>
医師との対話に対して「非常に不満」または「やや不満」と回答した患者の記載内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とても費用がかかる。医療費補助金制度がほしいが、申請の仕組みがよく分からない。</li> <li>・ 治療費が思う以上にかかり、それについての説明等をしてほしい。いつも支払い時に驚くし、高額医療も月をまたげばほとんど意味がない。</li> </ul>
全体として治療を受けた病院に対して「非常に不満」または「やや不満」と回答した患者の記載内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に食の大切さ、毎日食べているものが、がんを始めどれだけ自分の体に影響があるのかを豊富な食材にあふれた高知だからこそ伝えてほしい。「地震に備えてローリングストックを」と言われているが、どれだけの人がレトルト食品を食べるたびに加熱の際に出てきた内分泌かく乱物質を摂取していることを知っているだろうか。（内分泌かく乱物質は、がんや生活習慣病の低年齢化、IQの低下、発達障害の増加、精子の減少や卵子の劣化等を招くそうです。）命や健康に関わる職にある方には国や政府の言うことをうのみにせず、きちんとした情報を伝えてほしいと願っています。</li> <li>・ 私は東部の山間に住んでいますが、がんに関する相談や、その支援の窓口が役場などの窓口にあればと思います。県立病院などが遠すぎるので、複数回の相談が困難です。</li> <li>・ がん保険に加入してなくて、入院中もとても心細い思いをいたしました。そんなときに医療費等の相談にのってくれる医療機関があればと思います。いろんなところへ電話をかけてみましたが、ありませんでした。</li> </ul>

(3) がん治療に不満を感じた方の記載内容（問23）

(1)～(2)の複数に「非常に不満」または「やや不満」と回答した患者の記載内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 殺細胞系でない治療方法への転換を進めてほしい。初期からの医療情報の提供がデフォであるべきです。</li> <li>・ 前立腺がんの場合、最新治療でないと思う。</li> <li>・ 年齢による手術拒否はしてもらいたくない。</li> <li>・ 定期検診のすすめ。</li> <li>・ 乳房全摘術を受けてリンパ郭清？してなくても、腕が腫れて左右差がある。これってマッサージ軽くしてもいいのかなあ？</li> <li>・ もっといい医師を高知も置いてほしい。静岡がんセンターは、静岡県に生まれて良かったと県民の声があります。高知は本当にいい医師がいない。マイナス思考。ビッグマウス。感じ悪い医師。ナースはいいと思います。</li> <li>・ 患者と医師の対話。患者の話をよく聞く。</li> <li>・ 一番つらかったのは告知をされたとき、相談する先もなく医師の言うとおりにするしかなかった。すぐに相談できる場所を知りたかったです。</li> <li>・ 私は乳がんが転移がありました。転移した箇所は化学療法のみなのに、乳房全摘がまだ納得できません。残したままの治療がなかったのか、患者の気持ちに寄り添ってもらいたかったです。</li> </ul>

### 3 2以外の医療の満足度等に関する記載内容（問23）

#### （1）治療に関するご意見・ご要望（問23）

##### 1. 治療への希望について

- ・がん治療がもっと楽になるようにしてほしい。
- ・がんの種類、それらの治療方法は多種多様と思う。多くの問題（学閥、保険適用医薬品等々）がありますが、将来を期待します。
- ・最後は苦痛がないように望んでいる。
- ・抗がん剤の治療薬をもっともっと開発してほしい。その研究予算を国はもっともっと増やして開発（薬）してほしい。がんで死にたくない。
- ・都道府県を越えた医師偏在対策として遠隔診療。
- ・現在は検査のみ実施で具体的な治療はしていないが、今後が少し心配です。
- ・しびれ等少しでも良くなるように薬を開発してほしい。
- ・がん医療については個々の状態によって違うので分からないが、併発されることがある場合や血液検査のH.Lの説明があると良いと思う。
- ・自分はリンパ節を切除する手術も受けたのですが、後遺症に対するフォローが少し弱いと感じました。具体的にはリンパマッサージの専門の方にてほしかったです。

##### 2. 医師などとの対話と相談できる場について

- ・インフォームドコンセントの充実。
- ・病状や治療について、きちんと理解できるような説明を心掛けてほしい。医者の人間性を高めてほしい。
- ・術後の症状を相談する人がほしい。
- ・病院の医師はじめ医療従事者の方々がいるから安全、安楽に治療が受けられ感謝しています。ただ、あまりにも忙しいのではと思う状況も感じ、患者側として相談したくてもできないことが多々ありました。医療従事者の方の労働環境を整えば良いのではと感じました。がんになってこんなに相談したくてもできない、苦しい精神状態になるとは健康なときは思いませんでした。もっと気軽に相談できる場がもっとあればいいと思います。
- ・医師や看護師、他チーム医療関係者の方々の丁寧な説明に安心感を得られた。
- ・治療中は、先生はじめ看護師、検査の先生などあらゆる方との話がしやすい状態にしてほしいと思う（私の場合、いろいろな方々にお話できたので）。
- ・緩和ケアは高知県にありますか。本で見ていると思ったけど、治療費とか説明が少ない。老人の施設がやけに高知は目につく。
- ・先生のお話しで自分の好きな生活しています。大病してないので話・質問も大変です。
- ・元医療従事者であっても職を離れて10年以上経てば知識も記憶も古くなっているもので、分かっているだろうという姿勢で説明がなかったり、そのような対応は不誠実に感じられます。また、動揺もある中では患者に寄り添う態度や話し方等、少し考えてもらいたいです。医者にとっては多数の中の一人かもしれませんが、命がかかっていることを忘れないでほしい。
- ・一方的な治療方針ではなく、患者の意見や気持ちも取り入れてほしい。
- ・手術前、がん専門の看護師さんが診察時同席してくれた。とても心強かった。初めて自分の感情を人前で出すことができた。こういう専門職の育成は大事だと思った。
- ・がんの進行度した後のケア。どのがんもどのくらいのスピードで進んでいくのか。転移の相談など。
- ・難しい用語が多く、理解が大変で何度も聞くことが多かった。

### 3. 治療を受ける環境について

- ・ がんと診断されたときのドクター・看護師等の対応で不安が和らいだことでした。患者にとってはドクター等の一言一言が良薬にもなり、また不安を募る場合もあります。今回、私の場合（弱者にとって）とても穏やかな気持ちでした。手術も温存手術でしたので、その点本当に有り難かったです。
- ・ たくさんある医療機関の中で、自分自身がかかった医療機関で十分だったので特に要望はありませんが、あえて言うならば、他の患者に気を遣うことがないよう個室等々の部屋がもう少しあれば良かったかなと思う。もちろん自分自身がんという病気は初めてなのでよく分かりませんが、自分自身治療等には満足しています。
- ・ セカンドオピニオンは、保険適応にしてほしい。年一回の検診で異常がなかったのに、半年後異常が分かった方もいます。日赤にもPETがあるといいと思います。術後のリハビリにも、もっと病院にて協力してくれると大変うれしいです。自宅でリハビリを続けると、なかなか成果が出なくて焦って不安になります。
- ・ 大腸の内視鏡検診の下剤薬使用でプライバシーが保たれていない。（通路で誰でも目に付く）
- ・ 術後のケアをより積極的に丁寧に！

### 4. 治療に関する情報について

- ・ 前立腺がんで大阪重粒子センターで治療を受けましたが、高度医療の情報を自分で調べて（治療の内容、費用、手続など）決断しました。いろんな情報をパンフなどで紹介など提供があれば有り難い。高知医大の先生に話をすると早く大阪重粒子センターに連絡してくれて大変助かりました。現在も高知医大でお世話になっています。がんになった本人が強くなり勉強すること。また、自己決断をする知識を身につけること。主治医の先生とじっくり話ができることが大事だと思います。
- ・ 治療の選択肢をいくつか提示していただき、その良い点、副作用等も説明していただいた上で、自分で治療方法を決めたい。
- ・ 各種がんに関する情報を提供してほしい（治療法、延命率、ケア方法、薬剤等情報）。
- ・ がんにかかった人用にも分かりやすい情報の伝え方があったら助かると思います。
- ・ 抗がん剤治療後、薬の効果が私にはないことが分かったとき、ゲノム解析したらよかったのか悩んだが、県内にそんな施設があるのかわからない。薬が効果がないなら転移とか新しいがんに対してどんな治療があるのでしょうか。ゲノム解析で効果のある薬とか分かるのか知りたい。ここ何年かで保険対象となる治療が増えたようですが、そんな情報も発信してほしい。
- ・ がんの進行段階ごとの最適な治療法を教えてください。
- ・ 早急度の高い順をお願いします。

### 5. 治療費などについて

- ・ 人によるとと思いますが、私は周囲の方に恵まれているので特に困ったことはなかったのですが、検査などで急に金銭的な支出が増えると、がん以外のことで悩む方もいらっしゃるのかなと少し考えました。
- ・ 自宅から病院まで片道約1時間半かかるため毎回大変ですが、何とか車があればと思います。経済的また費用がかかるため大変です。困っています。お年寄りには年金だけでは大変です。何とか経済的支援をお願いいたします。
- ・ 内服中の薬が高額で、毎月限度額を超えています。幼い子供もおり、医療費の負担が大変で、いつまで続くのかという不安もあります。
- ・ 経済的負担を軽くしてもらいたい。
- ・ 拠点病院が自分の住んでいる所から遠方で時間と費用が余分にかかる（家族にも負担）。そういう点も少し支援があればいいのにとと思います。
- ・ 費用も高額医療制度のおかげで思っていたほどかからずほっとした。
- ・ 費用削減のために外来治療も結構ですが、高齢者が外来で治療・通院、結構大変です。免許証の返納も考えていますが、費用面で大変になると思う。何かいい案を考えてください。
- ・ 医療費がかかり過ぎ。高知県ないし高知市が医療費負担をもっとしてほしい。年金だけでは経済的に生活ができない。
- ・ 発病して長くなるほど経済的に苦しくなってしまう。仕事をしていても医療費に消えてしまい、何のために仕事をしているのか分からなくなる。薬代等も高価過ぎる。長く生きては駄目なのかもしれないかとも思うときがある。
- ・ 県外での先進医療は、経済的にも高齢の両親の扶養も困った。
- ・ がん医療はとても金額が高く、安くする方法が必要。
- ・ ゲノム治療の保険適用の充実
- ・ 支援（お金）が必要です。

## 5. 治療費などについて (つづき)

- ・ 自宅で医療用酸素を借りて使っています。支払いが大変です。もう少し安かったらいいのですが…。
- ・ ただ、今は休職し収入がないため医療費と生活費で悩んでいる。
- ・ 自分のがんになって改めて治療費の必要性が分かり、保険や制度にお世話になっている。個人で保険を掛けていたからこそ救われたと思いました。誰もがちゃんと治療ができる世の中になればと思います。

## 6. 病院全体の対応について

- ・ 私が通院している病院の先生やスタッフの皆様には、治療中には本当に温かく接していただき感謝しております…。緩和ケア提供体制の整備も充実させていただきたいです。
- ・ 大学の会計時の窓口での不備が多く、指導・教育をしっかりしてほしい。高額医療費になるため、不利益や時間がかかるなど再々ある。
- ・ パソコンの利用できる個室で担当医から説明を受けたい。A・B等の受付で他の人がいるのに、がん治療を受ける説明等を渡してほしくない！！知人にも病院では会うことも多いので、特に気をつけてほしいです。
- ・ がん治療に起因すると思われる副作用についても、かかりつけ医の診断が先にせよとの対応はおかしいと思うことがあった。病院側の対応は分かっているが？
- ・ 通院中です。予約してあるけど長い待ち時間に（半日以上）疲れる。
- ・ 入院治療中には、先生方は良くしてくださった。看護婦さんの対応が良くない（特に若い方。すばらしい方もいました）。
- ・ 入院中は新型コロナで家族との面会もできない中、先生・看護師さんたちには大変お世話になりました。加えて、食事の世話や部屋の清掃をしてくださる方々の存在がとても大きく、有り難かったです。

## (2) その他の医療に関するご意見・ご要望 (問23)

### 1. 健診・検診について

- ・ 教育機関や職場等で行われる健康診断でのがんに対する検査の義務付け。
- ・ 気づいたら手遅れにならないように、早期発見ができる機会を増やしてほしいです。
- ・ がん検診の充実と若年層への支援強化。
- ・ がん検診を100%、40歳以上に実施する。がん治療は医師のチームと栄養士、第三者でチームを組む。
- ・ 自分のがんが、がん検診（子宮体がん）を早く受けていたらここまでにはならなかったのではと思っています。婦人科系検診は行きにくいので…。でも、今日自分がなって子宮体がん検診があればと思ったので充実してもらいたいです。
- ・ がん検診は大事だが、若い年齢からの検診をもっとできるようにしたほうがよい。マンモグラフィーやエコーだけでなくMRIをもっと活用したり、ゲノムを補助したりしてほしい。
- ・ 受ける側の問題と思いますが、もっとたくさんの方が健診を受けてくれればと思います。
- ・ がん＝死ではない。予防のための日常生活の注意点やワクチン接種、検診率の向上のための情報の提供など、早期発見・早期治療へつながるよう県民の意識が高まることを願う。
- ・ 今や二人に一人がなると言われているがん。早期発見、がん予防など考えていたときに診断されたがん。本当に若いときから年齢に関係なく検診を受けてほしいです。
- ・ 自覚症状があり、病院を受診したときには手遅れという事案も多いのではないのでしょうか。特定健診やがん検診、受ける方は毎年受けているが、受けない方も多くいるので早期発見が難しいですね。公費を利用し、PSA検査のようにCEA、CA19-9等の検査は多難でしょうか？
- ・ 早期発見できるようなことができれば良いなと思います。
- ・ 職場で受ける基本的な検診項目ではがん検診が含まれないので、何か症状が出ない限り、がん検診は進んで受けたりしない。オプションではなく、基本項目に入れていただきたい。
- ・ がん検診は個人要望ではなく必須項目にすることで、一人でも多くの早期発見ができるのではないかと思うのですが。
- ・ 早期発見は大事なことと思いました。
- ・ がんは、やはり早期発見が大事ということを痛感しました。がん検診の受診率を更に上げるよう啓発を強化してほしい。
- ・ 生活習慣病予防健診の受診年齢の引下げ。
- ・ 早期発見が一番。

## 1. 健診・検診について（つづき）

- ・ 早期発見しましょう。
- ・ 毎年、各市町村で行われているがん検診を続けて受診していくことですね。早期発見であれば軽くてすみますからね。私自身何年間か受診しなかったことを後悔しています。また、がん患者にいろいろ情報を提供してほしいですね。
- ・ 検診を受けやすい環境づくり。
- ・ 運動や食事に気をつけていても、がんになるときはなるのだと自分自身振り返って思う。検診は大事なので、啓発には力を入れていただきたい。全ての県民にとって検診を受診しやすい環境づくり（様々な時間・場所）は十分なのでしょうか。ご配慮をお願いします。

## 2. 医療全体へのご意見・ご要望

- ・ がんの予防、早期発見、がんに関する専門的医療従事者の育成は特に力を入れていただきたいと思っています。そして、子供や若年層からのがん教育も必要だと思っています。
- ・ 医療従事者への教育。
- ・ がん検診があるのは知っていたが、利用はしていなかった。はがきが届くだけでは受診してみようとは思わなかった。がんになってから受けておけばよかったし、どんな検査をするのか知った。分かりやすく受けてみようかなと思うような広報があったらいいと思う。読みやすい体験談のアニメ動画や、かわいい漫画などでどんな検査をするのか。早く見つかるとういしいのかを伝えるとかあったらいいと思う。
- ・ 高知でも先進医療ができるような病院があればいいと思います。
- ・ 幡多地域でも先進医療が受けられるよう早急な整備。高知への転院は負担。
- ・ 小児がんなどは付添いが伴いますので、付添いの方などケア、またWi-Fiを導入していただいてリモートなども容易にできる環境も必要です。本人のがんの治療のみではなく、家族のケアはかなり必要かと思っています。
- ・ 二人に一人とも言われるがんの予防、早期発見、新しい治療方法等によって生存率が高くなることを期待します。
- ・ がん治療は長期化していく中で、腫瘍内科医の存在は今後ますます重要となってくると思います。専門医の増員をお願いします。
- ・ がんが完治する薬を早く作ってほしいです。
- ・ 保健所の対応（検診）は速やかでしたが、診断以降利用できる医療機関を見つけるのに時間がかかりました。診療機関の数、診察日、時間、予約の可能性等不安でした。
- ・ がん→こうだからこうしよう、支払いはこうしてこうするなど、発見時に相談できる公共の場があったのを利用すればよかった。何とも言えない気持ちのサポートが身近に欲しい→病状、費用、支払い、その後などマンツーマンで事務的でなく、寄り添う場の充実と広く知られるようになれば良いと思います。
- ・ 最初にCT撮ったのと最近撮ったのを比べてパソコンで説明聞いても、年齢的に見えないのでコピーを取って前のと比べてここが良くなっているとか説明があれば励みになる。頑張る気持ちも湧いてきます。肺のレントゲンのときは、前のコピーも持ってきてくれて説明してくれて良かったです。これは統一してほしいです。多分、無記名でも私と分かると思いますので慎重をお願いします。
- ・ がん全てが治すことができない今、本人・家族が今までとできるだけ変わらない生活ができるような保障制度（仕事・医療費等）。
- ・ 全身に広がるがん、早期発見、それに沿う治療等、適切な部所に的確に当てはまる薬があれば、医療のほうも大変ですが頑張ってください。
- ・ がんと疑われて診断治療がつくまで時間がかかり過ぎる。もう少し早く診断できるようになったら良いと思います。
- ・ PET・CTを増設し、早期発見に努めてほしい。
- ・ ① 早期発見に伴う仕組みづくり。②関係医療機関の整備と情報共有。
- ・ 問22の答え③の補足です。乳がんの手術を行っている病院なのに「センチネルリンパ節生検」の迅速病理診断ができない病院があることが分かりませんでした。そのため、術後の病理検査でリンパ節に転移か分かり、再手術ということになりました（再手術は今回の日赤に転院して受けました）。乳がんにとって大切な「センチネルリンパ節生検」の迅速検査ができない病院は、治療前に医師が説明すべき。病院も患者が分かりやすいようにホームページなどに公表すべきです。最初から分かっていたら日赤病院で最初から手術を受けたので、心身のダメージと医療費も重ならなかったと思います。※県として、迅速病理診断の設備のない病院に対して、患者に事前に説明することを義務化するような規則を作ってもらいたいです。切に願います。よろしく願いいたします。

## 2. 医療全体へのご意見・ご要望 (つづき)

- ・ 一般的ながんでない場合、体調変化があり、医療機関を受診しても総合病院への診察ができない(紹介状がないと…)。そういったこともあり、体の不調があつて、がんのステージが上がってしまったから検査をして発見してもらったケースがあることを知ってほしい(私の場合、総合病院で検査をしてもらっていたら発見が早かつたかもしれません)。※毎年一般健康診断は受けていました。
- ・ がんが再発・転移してしまった場合の相談機関が、どのようなところがあるのか情報が余りありません(自分は再発の経験がないので、知らないだけだと思います)。主治医に相談するのはもちろんですが、患者同士相談できる場があると、なお良いと思います。

## 4 患者自身の状況に関する記載内容 (問23)

### 患者自身の診断時・現在の状況について

- ・ 公的機関から特定検診の案内を受け取っていましたが、年に数回持病(痛風)に伴う血液検査を受けていたため、重複項目があると即断し受診しなかったのが、がん発見遅れの原因の一つではないかと自省。
- ・ 昨年5月に胃がんと伝えられたときは、信じられない気持ちと同時に病気に負けれないという気力で約1年間頑張っています。これも病院のお薬と治療に感謝しています。
- ・ 検診で早期に発見できました。医療従事者の方々には頭が下がる思いです。医学は進歩していることを実感している毎日です。
- ・ 総合病院というのがあり、自分の病状でどこの病院に行けば良いのか早期に判断してもらいたい。私もいろいろ受診しましたが、分かったときには「がんのステージ4」となっていました。
- ・ 治療もつらいけど、がんだから何もしない、がんが偉いのかと兄弟に言われ精神的にしんどいです。がんに甘えてるんでしょうかと悩んでいます。
- ・ 二人暮らし要介護3の主人を説得してケアマネジャーと娘と皆さんに助けられて手術ができました。
- ・ 私は幸い(つらいですが、左乳をなくしましたが)治療や薬もなく、経過のみ3か月に1度の通院です。他の人たちと比較になりません。年齢も70歳に近く、同じがんでも格段の差です。医者も2人に診てもらいました。その結果、片方なくしました。
- ・ がんの手術をしたので、3か月に1回仁淀病院に行ってます。
- ・ 約1時間半かけて車で治療を受けているが、遠方で1人で(高齢)通院となると限界がくるのではと感じている。東部には病院もなく先行き不安である。働かないと経済的不安もある。
- ・ 月の初め2週間は抗がん剤、3日する。多分しばらくすると思います。少しでも良くなったところの説明があると頑張れます。重ね重ね慎重をお願いします。長々と書きました。7月もまたこの病院でお世話になるのでよろしくをお願いします。
- ・ 自分は被爆地であるが(広島)、これが病気に関係することがあるのか知りたいと思った。兄もがんであるので、子供たちのことを考えると知っていて損はないかなと思う。
- ・ 乳がん初期でした。私は自己触診で分かり、本当に幸せです。ありがとうございました。
- ・ 経済的な問題が頭から離れず、うつ状態になった。臨時職員として就業しているが、いつ辞めてくれと言われるかの不安もあり、体調悪くても出勤した。体調悪く、いつものように仕事ができず、職場の先輩から「やめろ」と言われた。辞めると健康保険もなくなるので就業を続けたが、非常なうつ状態であった。この様なことから、がん治療を安心して受けられるように経済的な支援が一番必要だと思う。お金がない=死です。
- ・ がん治療のため通院する場合、自分で運転できる間は良いのですが、市外から高知市に通う場合、手段に困ります。夫も高齢になれば免許の返納も考えられます。そうなった場合、息子夫婦に仕事を週1回休んでもらわなければなりません。週1回、家族の通院のために休める職場があるでしょうか。また、タクシー利用でも高知道片道1万円×2=2万円、月4回、こんなことがいつまで続けられるでしょうか。何か対策をお願いしたいと切に思います。
- ・ 自分で気がつき、早期発見で検査して手術していただき、今のところ再発もしてなく良かったと思います。他の方も早期発見で再発もない治療をお願いいたします。感謝しております。
- ・ 私は、大便の色が違ったことでおかしいと思い早期発見につながる事ができました。何か普段と違うと思ったら、すぐに診ていただくことがいかに大切かということを学びました。
- ・ 今回ピロリ菌除去のためのカメラでがんが見つかった。そしてすぐ摘出したので大事に至らず、幸いだったと思う。がんは早期に見つけて対策することが大切と思う(がん検査の義務化とか)。
- ・ 早期がんで自覚症状はありませんでしたが、手術後、精神的にとっても不安になりました。今後、長期間の治療や再発、生活、経済面等考えると不安は多いと思います。メンタル面でのサポートも大切に考えていただけたらと思いました。なかなか受入れできず、本心を話したくても自分でも分からない状態です。
- ・ 外見ではなく、舌がしびれて味が分からない。食に対する大きな変化。これが本当の味気なき人生。



患者自身の診断時・現在の状況について (つづき)

- ・ がんになってからいろいろと知識を得て、これ以上悪くならないように定期的に検査をして、今後どのように生活するか考えております。何においても血液検査が大切ですね。
- ・ 家族への支援。
- ・ ゆっくり自宅で保険、共済がもらえるようにしてほしい。入院3日前で手術して、ずっと通院治療、参りました。入院させてほしい。身体も心も疲れ果てました。家に帰れば、家の仕事と家事。たった3日分と手術の共済しかもらえないなんて…。今の世の中、がんは働きながら治療できますなんて当たり前のように言ってるけど、みんな結構きつい！！かなり努力している。
- ・ 急な告知。まさか自分はないと思っているので、なったとき①→②→③→④と手順があれば良かったかな。不安と、どうしたらいいか困りました。病院に行ってから大切にしてもらいました。
- ・ 早期発見ができればそれにこしたことはないですが、いろいろな種類のがん検診を全て受けるのもなかなか難しいのではないかと思います。私は健診がきっかけでしたが、通常のレントゲン・血液検査には問題はなく、たまたま受けたオプションで異常が見られ、他院で諸々の検査を受け、ステージ4が確定しました。ですが、自覚症状は今でも全くありません(爪が割れる程度)。そういう身からは分かってからの支援をひとまとめに知ることができれば有り難いと考えます。もちろん病院ではとても丁寧に教えていただきました。
- ・ 去年がんが見つかり即入院、手術と深く悩む間もなく現在までできましたが、術後も良好で治療に当たってくださっている医大の先生方やスタッフの方に感謝しています。抗がん治療の副作用もありますが、いろんな人に助けられています。がん対策や医療の進歩を自分の体で実感しています。ありがとうございます。
- ・ 不安や心配、一杯です。
- ・ 私は3年前にがんが再発し、今も維持療法を受けています。再々発を危惧しつつ、旭のがん相談センターに時々お邪魔し、職員の方やそこに集う患者さんたちと話し、交流ができることで孤独感etcな負の感情から解放され励まされています。精神的に支えになっていただけることが、がんサバイバーにとって生きる望みです。主治医や医療関係者の方にもメンタル面を大切に思っています。体力維持のため、優しい運動の場をもっと作ってほしい。参加したいです。ありがとうございます。

5 その他 (問23)

その他のご意見・ご要望

- ・ 高知市はウィッグの助成がありません。ウィッグの助成や爪の手入れのための助成があればいいと思います(爪の手入れも自己でやっていますが、市販のネイルを塗ってもすぐはげるし、専門のケアが受けられないのに)。乳房を切除後の乳房のサンプル等見れたら良い(病院からのカタログ等の資料しかなかったので、実際、幾つか購入することになった)。
- ・ 子供のときからのがん教育。
- ・ 治療は経済的にも負担が大きいから、せめて外見の変化のケア(ウィッグ)の購入時には県のほうで少しでも負担してもらいたい(他県でしている例がある)。
- ・ 私は脳症と大腸がんです。脳症のせいで目が見えにくいです。もう少しアンケートの字を太くしてください。
- ・ 患者全員の満足度を100%満たされる次時代を目指して頑張ってください。私は満足しています。
- ・ 抗がん剤治療により脱毛があり、ウィッグを購入した。高価な出費となるため自治体の補助があれば助かる(他の県では実施しているところあり)。
- ・ 近くに治療できる病院が欲しい。
- ・ 私は早期発見でした。手術はしましたが、格別の治療はありませんでした。一番は早期発見です。そのため検診を義務化的にするような取組を考えられたらどうでしょうか。検診者に高齢者手帳のような特典を与えとか、スーパーでの買物のたびに割引があるとか、検診者が得をする具体的な施策を高知県の独自施策として考えてはどうでしょうか。早期発見は県民が苦しまなくて、がんを克服できます。
- ・ ウィッグ購入への補助・助成金。調査をしているのなら、その答えに対しアクションを起こしてほしい。
- ・ 食品の問題に関する情報をもっと誰かが言わなくては。
- ・ がん対策の以前に生活環境のフォロー、働き方、職場の努力必要ですね。がん=死ではなく、余り特別な病ではないこと(重さはあるが)。日頃から検診は会社は推進はしても健康的な働き方まではしない会社体制である。
- ・ がんに関わり、治る人治らない人それぞれの人が体を大事にふだんから気にかけて、遺伝の有る無しに関わる人が多くなっています。一人でも助かる人がたくさんいることを願います。私は手術し、今も元気に働いています。感謝しております。どんながんの方も元気で過ごされることを祈ります。
- ・ ピアサポーターの存在を知りました。もっと浸透して当事者同士がつながったり、当事者サポーターがつながる場が広がってほしい。

その他のご意見・ご要望 (つづき)

- ・ 誰もがアクセスしやすい相談センターの質・量ともの充実。地域における教育・啓蒙。
- ・ がん患者のネットワーク。
- ・ 郡部からの通院に高速を利用し、1時間20分。もっと医療機関を地方を増やしてもらいたい。
- ・ 病院や県には心強く思っています。
- ・ 医療従事者の皆様、頑張ってください。